

【基礎現代文化学系】

講義コード		科目名		回生	週時間	単位	開講期	曜時限	担当者	シラバス番号
科目コード	連番	専修・科目	講義形態							
8206	001	系共通科目(科学史I)	講義	2-4	2	2	前期	月3	小長谷 大介	基礎現代文化学系1
8208	002	系共通科目(科学史II)	講義	2-4	2	2	後期	火2	伊藤 和行	基礎現代文化学系2
8202	003	系共通科目(科学哲学I)	講義	2-4	2	2	前期	金3	伊勢田 哲治	基礎現代文化学系3
8204	004	系共通科目(科学哲学II)	講義	2-4	2	2	後期	金3	伊勢田 哲治	基礎現代文化学系4
8502	001	系共通科目(情報・史科学)	講義	2-4	2	2	前期	水5	林 晋	基礎現代文化学系5
8504	002	系共通科目(情報・史科学)	講義	2-4	2	2	後期	月5	林 晋	基礎現代文化学系6
8302	001	系共通科目(二十世紀学)	講義a	1-4	隔週4	2	前期	金5	杉本 淑彦	基礎現代文化学系7
8304	002	系共通科目(二十世紀学)	講義b	1-4	隔週4	2	後期	金5	杉本 淑彦	基礎現代文化学系8
8405	001	系共通科目(日本現代史)	講義	1-4	2	2	前期	金2	永井 和	基礎現代文化学系9
8406	002	系共通科目(日本現代史)	講義	2-4	2	2	後期	金2	永井 和	基礎現代文化学系10
8642	001	系共通科目(基礎現代文化学)	基礎演習Ia	2-4	2	2	前期	火5	矢田部 俊介	基礎現代文化学系11
8643	002	系共通科目(基礎現代文化学)	基礎演習Ib	2-4	2	2	後期	火5	矢田部 俊介	基礎現代文化学系12
8442	003	系共通科目(基礎現代文化学)	基礎演習II	2-4	2	4	通年	水4	永井和・小野澤 透	基礎現代文化学系13
8543	004	系共通科目(基礎現代文化学)	情報技術演習I	2-4	2	2	前期	木2	林 晋	基礎現代文化学系14
8544	005	系共通科目(基礎現代文化学)	情報技術演習II	2-4	2	2	前期	木3	喜多 千草	基礎現代文化学系15
8655	006	系共通科目(基礎現代文化学)	講読I	2-4	2	2	前期	水1	樋口 敏広	基礎現代文化学系16
8655	007	系共通科目(基礎現代文化学)	講読I	2-4	2	2	後期	水1	小野 容照	基礎現代文化学系17
8655	008	系共通科目(基礎現代文化学)	講読I	2-4	2	2	前期	金1	丸山 善宏	基礎現代文化学系18
8655	009	系共通科目(基礎現代文化学)	講読I	2-4	2	2	後期	金1	伊藤 和行	基礎現代文化学系19
8656	010	系共通科目(基礎現代文化学)	講読II	2-4	2	2	前期	水2	南川 高志	基礎現代文化学系20
8656	011	系共通科目(基礎現代文化学)	講読II	2-4	2	2	後期	水2	南川 高志	基礎現代文化学系21
8657	012	系共通科目(基礎現代文化学)	講読III	2-4	2	2	前期	水1	小川 佐和子	基礎現代文化学系22
8657	013	系共通科目(基礎現代文化学)	講読III	2-4	2	2	後期	水1	小山 哲	基礎現代文化学系23
8658	014	系共通科目(基礎現代文化学)	講読IV	2-4	2	2	前期	火3	伊藤 順二	基礎現代文化学系24
8658	015	系共通科目(基礎現代文化学)	講読IV	2-4	2	2	後期	火3	伊藤 順二	基礎現代文化学系25
8659	016	系共通科目(基礎現代文化学)	講読V	2-4	2	2	前期	火2	山崎 岳	基礎現代文化学系26
8659	017	系共通科目(基礎現代文化学)	講読V	2-4	2	2	後期	火2	山崎 岳	基礎現代文化学系27
8661	018	系共通科目(基礎現代文化学)	講読VI	2-4	2	2	前期	水4	村瀬 有司	基礎現代文化学系28
8661	019	系共通科目(基礎現代文化学)	講読VI	2-4	2	2	後期	水4	村瀬 有司	基礎現代文化学系29
8231	005	科学哲学科学史	特殊講義	3-4	2	2	後期	木2	伊藤 和行	基礎現代文化学系30
8231	006	科学哲学科学史	特殊講義	2-4	2	2	前期	水2	伊勢田 哲治	基礎現代文化学系31
8231	007	科学哲学科学史	特殊講義	3-4	2	2	後期	水2	伊勢田 哲治	基礎現代文化学系32
8231	008	科学哲学科学史	特殊講義	2-4	2	2	前期	集中	江間 有紗	基礎現代文化学系33
8231	009	科学哲学科学史	特殊講義	3-4	2	2	後期	木3	喜多 千草	基礎現代文化学系34
8231	010	科学哲学科学史	特殊講義	3-4	2	2	前期	集中	北島 雄一郎	基礎現代文化学系35
8231	016	科学哲学科学史	特殊講義	3-4	2	2	前期	金2	児玉 聡	基礎現代文化学系36
8231	017	科学哲学科学史	特殊講義	3-4	2	2	後期	金2	児玉 聡	基礎現代文化学系37
8231	018	科学哲学科学史	特殊講義	3-4	2	2	前期	月5	林 晋	基礎現代文化学系38
8241	011	科学哲学科学史	演習	3-4	2	2	後期	火3	伊藤 和行	基礎現代文化学系39
8241	012	科学哲学科学史	演習	3-4	2	2	前期	水3	伊勢田 哲治	基礎現代文化学系40
8241	013	科学哲学科学史	演習	2-4	2	2	後期	水3	伊勢田 哲治	基礎現代文化学系41
8243	014	科学哲学科学史	卒論演習I	3-4	2	2	前期	金4	伊勢田 哲治	基礎現代文化学系42
8247	015	科学哲学科学史	卒論演習II	2-4	2	2	後期	金4	伊藤和・伊勢田	基礎現代文化学系43
8531	003	情報・史科学	特殊講義	3-4	2	2	前期	月5	林 晋	基礎現代文化学系44
8531	004	情報・史科学	特殊講義	3-4	2	2	後期	水5	林 晋	基礎現代文化学系45
8531	005	情報・史科学	特殊講義	3-4	2	2	後期	火5	鹿島 久嗣	基礎現代文化学系46
8531	006	情報・史科学	特殊講義	3-4	2	2	前期	金4	小田 宗兵衛	基礎現代文化学系47
8531	007	情報・史科学	特殊講義	3-4	2	2	後期	木3	喜多 千草	基礎現代文化学系48
8531	008	情報・史科学	特殊講義	3-4	2	2	後期	水2	研谷 紀夫	基礎現代文化学系49

講義コード		科目名		回 生	週 時 間	単 位	開 講 期	曜 時 限	担 当 者	シ ラ バ ス 番 号
科目コード	連番	専修・科目	講義形態							
8531	009	情報・史料学	特殊講義	3-4	2	2	前期	火3	吉田 純	基礎現代文化学系50
8531	015	情報・史料学	特殊講義	3-4	2	2	前期	木4	五十嵐 淳、馬谷 誠二	基礎現代文化学系51
8540	011	情報・史料学	演習	3-4	2	4	通年	金3	林 晋	基礎現代文化学系52
8540	013	情報・史料学	演習	4	2	4	通年	金2	林 晋	基礎現代文化学系53
8545	014	情報・史料学	卒論演習	4	2	4	通年	火1	林 晋	基礎現代文化学系54
8331	003	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	前期	水2	永原 陽子	基礎現代文化学系55
8331	004	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	後期	水2	永原 陽子	基礎現代文化学系56
8331	005	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	前期	月3	小野澤 透	基礎現代文化学系57
8331	006	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	後期	月3	小野澤 透	基礎現代文化学系58
8331	007	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	前期	水2	ハヤシ, ブライアン マサル	基礎現代文化学系59
8331	008	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	後期	水2	ハヤシ, ブライアン マサル	基礎現代文化学系60
8331	009	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	前期	木2	村上 衛	基礎現代文化学系61
8331	010	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	後期	木2	村上 衛	基礎現代文化学系62
8331	011	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	前期	水2	水野 直樹	基礎現代文化学系63
8331	012	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	後期	水3	小野 容照	基礎現代文化学系64
8331	013	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	前期	水3	藤原 辰史	基礎現代文化学系65
8331	014	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	後期	水3	藤原 辰史	基礎現代文化学系66
8331	015	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	前期	木1	佐藤 卓己	基礎現代文化学系67
8331	016	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	後期	木3	石尾 和哉	基礎現代文化学系68
8331	017	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	後期	水4	秋田 茂	基礎現代文化学系69
8331	018	二十世紀学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	一ノ瀬 俊也	基礎現代文化学系70
8331	019	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	前期	木2	小川原 宏幸	基礎現代文化学系71
8331	020	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	後期	木3	喜多 千草	基礎現代文化学系72
8331	021	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	前期	水4	小関 隆	基礎現代文化学系73
8331	022	二十世紀学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	吉岡 潤	基礎現代文化学系74
8331	023	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	後期	水3	貴志 俊彦	基礎現代文化学系75
8331	024	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	前期	火3	高橋幸平	基礎現代文化学系76
8331	025	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	後期	火3	高橋幸平	基礎現代文化学系77
8331	026	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	前期	金2	出原 隆俊	基礎現代文化学系78
8331	027	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	後期	金2	出原 隆俊	基礎現代文化学系79
8341	028	二十世紀学	演習I	3-4	2	2	前期	水4	杉本 淑彦	基礎現代文化学系80
8341	029	二十世紀学	演習I	3-4	2	2	後期	水4	杉本 淑彦	基礎現代文化学系81
8344	030	二十世紀学	演習II	3-4	2	2	前期	月2	石川 禎浩	基礎現代文化学系82
8344	031	二十世紀学	演習II	3-4	2	2	後期	月2	石川 禎浩	基礎現代文化学系83
8344	032	二十世紀学	演習II	3-4	2	2	前期	水3	小野 容照	基礎現代文化学系84
8344	033	二十世紀学	演習II	3-4	2	2	後期	水2	水野 直樹	基礎現代文化学系85
8344	034	二十世紀学	演習II	2-3	2	2	前期	水3	杉本 淑彦	基礎現代文化学系86
8344	035	二十世紀学	演習II	3-4	2	2	前期	金5	上杉 和央	基礎現代文化学系87
8344	036	二十世紀学	演習II	3-4	2	2	後期	金5	上杉 和央	基礎現代文化学系88
8344	037	二十世紀学	演習II	3-4	2	2	後期	火3	中野 耕太郎	基礎現代文化学系89
8344	038	二十世紀学	演習II	3-4	2	2	前期	火5	伊藤 遊	基礎現代文化学系90
8344	039	二十世紀学	演習II	3-4	2	2	前期	水2	佐伯 順子	基礎現代文化学系91
8344	040	二十世紀学	演習II	2-4	30	2	前期	集中	山登 義明	基礎現代文化学系92
8345	041	二十世紀学	卒論演習	4	隔週4	4	通年	金3金4	杉本 淑彦	基礎現代文化学系93
8433	003	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	前期	水2	永原 陽子	基礎現代文化学系94
8433	004	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	後期	水2	永原 陽子	基礎現代文化学系95
8433	005	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	前期	月3	小野澤 透	基礎現代文化学系96
8433	006	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	後期	月3	小野澤 透	基礎現代文化学系97
8433	007	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	前期	水2	ハヤシ, ブライアン マサル	基礎現代文化学系98
8433	008	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	後期	水2	ハヤシ, ブライアン マサル	基礎現代文化学系99

講義コード		科目名		回 生	週 時 間	単 位	開 講 期	曜 時 限	担 当 者	シ ラ バ ス 番 号
科目コード	連番	専修・科目	講義形態							
8433	009	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	前期	木2	村上 衛	基礎現代文化学系100
8433	010	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	後期	木2	村上 衛	基礎現代文化学系101
8433	011	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	前期	水2	水野 直樹	基礎現代文化学系102
8433	012	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	後期	水3	小野 容照	基礎現代文化学系103
8433	013	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	後期	水2	高木 博志	基礎現代文化学系104
8433	014	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	前期	水3	藤原 辰史	基礎現代文化学系105
8433	015	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	後期	水3	藤原 辰史	基礎現代文化学系106
8433	016	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	前期	木1	佐藤 卓己	基礎現代文化学系107
8433	017	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	前期	集中	吉岡 潤	基礎現代文化学系108
8433	018	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	後期	水4	秋田 茂	基礎現代文化学系109
8433	019	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	後期	水3	貴志 俊彦	基礎現代文化学系110
8433	020	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	前期	集中	一ノ瀬 敏也	基礎現代文化学系111
8433	021	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	後期	木3	石尾 和哉	基礎現代文化学系112
8433	022	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	後期	水2	帯谷 知可	基礎現代文化学系113
8433	023	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	後期	木3	喜多 千草	基礎現代文化学系114
8433	024	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	前期	水4	小関 隆	基礎現代文化学系115
8433	025	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	前期	木2	小川原 宏幸	基礎現代文化学系116
8433	026	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	後期	月2	伊藤 順二	基礎現代文化学系117
8433	027	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	前期	集中	澁谷 由里	基礎現代文化学系118
8433	035	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	前期	水2	高木 博志	基礎現代文化学系119
8448	028	現代史学	演習I	3-4	2	4	通年	火4	永井・永原	基礎現代文化学系120
8448	029	現代史学	演習II	4	2	2	前期	水1	永井 和	基礎現代文化学系121
8448	030	現代史学	演習II	3-4	2	2	後期	水1	永井 和	基礎現代文化学系122
8448	031	現代史学	演習II	3-4	2	2	前期	月2	石川 禎浩	基礎現代文化学系123
8448	032	現代史学	演習II	3-4	2	2	後期	月2	石川 禎浩	基礎現代文化学系124
8448	033	現代史学	演習II	3-4	2	2	前期	水3	小野 容照	基礎現代文化学系125
8448	034	現代史学	演習II	3-4	2	2	後期	水2	水野 直樹	基礎現代文化学系126
8448	036	現代史学	演習II	3-4	2	2	前期	水3	杉本 淑彦	基礎現代文化学系127
8448	037	現代史学	演習II	3-4	2	2	前期	金5	上杉 和央	基礎現代文化学系128
8448	038	現代史学	演習II	3-4	2	2	後期	金5	上杉 和央	基礎現代文化学系129
8448	039	現代史学	演習II	3-4	2	2	後期	火3	中野 耕太郎	基礎現代文化学系130
8448	040	現代史学	演習II	3-4	2	2	前期	火5	伊藤 遊	基礎現代文化学系131
8448	041	現代史学	演習II	3-4	2	2	前期	水2	佐伯 順子	基礎現代文化学系132
8448	042	現代史学	演習II	3-4	2	2	前期	集中	山登 義明	基礎現代文化学系133
8451	043	現代史学	演習III	3-4	2	4	通年	火5	永井・永原・小野澤	基礎現代文化学系134

基礎現代文化学系 1

授業科目名 <英訳>	科学史(講義) History of Science (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	龍谷大学 経営学部 准教授 小長谷 大介					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目	科学史入門 1										
【授業の概要・目的】											
<p>現代社会は近代科学の成果によって成り立っているといっても過言ではない。こうした近代科学は、主に西欧を中心にして16-17世紀に生まれ、19世紀以降は諸産業と強く結びつき、現代の科学・技術の基盤となるにいたった。明治維新时期以降の日本も近代科学との接点を強めながら経済的発展を遂げて、現在にいたっている。</p> <p>本講義では「近代日本の科学の歴史」を主要なテーマとして、最初に西欧の近代科学誕生と発展を概観したのち、日本ではどのような過程を経て近代科学を導入し吸収していったかを、19世紀後半以降の日本の科学の歴史を振り返りながら考察する。</p>											
【到達目標】											
近代日本の科学の歴史的発展を事例にして、科学と社会の相互関係を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目に沿って進める予定である。なお、授業を進めるなかで、項目内容や回数に多少の変更が加わることもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西欧における近代科学の誕生と発展（第1～3回）</li> <li>・ 産業革命期における科学（第4～5回）</li> <li>・ 明治維新前後の日本の科学（第6～8回）</li> <li>・ 明治日本の近代科学導入（第9～10回）</li> <li>・ 戦前・戦中の日本の科学の発展（第11～12回）</li> <li>・ 戦後日本の科学の発展（第13～14回）</li> <li>・ まとめ（第15回）</li> </ul>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業内に行う小レポート、小テストによって評価する。評価は到達目標の達成度に基づく。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
【授業外学習（予習・復習）等】											
<p>予習：事前に配布するプリント、もしくは指示した資料に目を通す。 復習：授業中に課された課題を考察する。</p>											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 2

授業科目名 <英訳>	科学史(講義) History of Science (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊藤 和行					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目	科学史入門 2										
【授業の概要・目的】											
<p>科学とは時間や空間を超えた普遍的なものと一般に考えられているが、人間の営みである以上、科学も歴史のなかで誕生し発展してきたものであり、その成果も歴史的な文脈によって規定されている。とりわけ近代科学は17世紀西欧社会において誕生したと考えられており、当時の歴史的コンテキストの中で科学的活動を位置付けることは、現代科学の理解にとっても重要なものと考えられる。</p>											
【到達目標】											
<p>本講義を通じて、科学とは何かという問題を歴史的な側面から考察する視点を養い、科学についての人文学的理解をより深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>本授業では、西洋世界における科学の歩みを、古代ギリシアから17世紀科学革命までたどる。具体的には、近代科学誕生の際に中心となった、天文学と運動論を扱い、次のような計画に従って講義を進める予定である。 (各セクション1回から2回の授業を割り当てる)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 天文学の歴史             <ol style="list-style-type: none"> <li>2-1. 天体の運動について</li> <li>2-2. 古代の天文学：地球中心説（プトレマイオスの理論）</li> <li>2-3. 近代の天文学：太陽中心説（コペルニクスからケプラーへ）</li> </ol> </li> <li>3. 運動論の歴史             <ol style="list-style-type: none"> <li>3-1. 古代の運動論：アリストテレスの理論</li> <li>3-2. 中世の運動論：インペトゥス理論と運動の量化</li> <li>3-3. 近代の運動論：ルネサンスの技術者とガリレオの理論</li> </ol> </li> <li>4. 17世紀科学革命：天上と地上の運動理論の統合へ向けて：ガリレオ，ホイヘンス，ニュートン</li> <li>5. まとめ</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業内に行う小レポート，小テストによって評価する。評価は到達目標の達成度に基づく。											
【教科書】											
使用しない											
----- 科学史(講義) (2)へ続く -----											

科学史(講義) (2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

授業中に参考資料を配付するので、予習・復習においては、それらを精読すること。  
また授業の際に参考文献一覧を配布するので、図書館等で適宜読むように。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 3

授業科目名 <英訳>	科学哲学(講義) Philosophy of Science (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊勢田 哲治					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目	科学哲学入門(上)										
【授業の概要・目的】											
科学哲学は「哲学」という視点から「科学」に切り込む分野である。本講義では、多様化のすすむ科学哲学のさまざまな研究領域を紹介し、受講者が自分の関心に応じて今後掘り下げていけるような「入り口」を提供する。前期の講義においては、科学とはなにかという問題、科学的推論や科学的説明をめぐる問題を、科学全体に関わるテーマと個別の領域に関わるテーマに分けて論じる。											
【到達目標】											
科学とは何か、科学的推論とは何か、科学的説明は何か、といった問題について、科学哲学の基礎的な概念と考え方を理解し、それを適切に科学の具体的事例に適用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下のそれぞれのテーマに2～3週をかけて論じる。 1 科学とは何か 2 科学的推論 3 個別科学における科学的推論 4 科学的説明 5 個別科学における科学的説明  フィードバックについては授業内で指示する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
2回のレポートで評価を行う。評価は到達目標の達成度にもとづいて行う。 1回でもレポートをさぼると不可となるので注意されたい。											
【教科書】											
サミール・オカーシャ 『科学哲学』(岩波書店)											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
受講者は各授業前にテキストの該当箇所を読むことが期待されている。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは水曜日 15:00 - 16:30を予定  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 4

授業科目名 <英訳>	科学哲学(講義) Philosophy of Science (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊勢田 哲治					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目	科学哲学入門(下)										
【授業の概要・目的】											
科学哲学は「哲学」という視点から「科学」に切り込む分野である。本講義では、多様化のすすむ科学哲学のさまざまな研究領域を紹介し、受講者が自分の関心に応じて今後掘り下げていけるような「入り口」を提供する。後期の授業では科学的实在論や科学の変化、科学と価値などのテーマを順にとりあげ、関連する個別科学におけるテーマも検討する。											
【到達目標】											
科学における实在の問題とは何か、科学はどのように変化するか、科学と価値の関係はどうなっているか、といった問題について、科学哲学の基礎的な概念と考え方を理解し、それを適切に科学の具体的事例に適用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下のそれぞれのテーマに2～3週をかけて論じる。 1 实在論と反实在論 2 個別科学における实在論問題 3 科学の変化と科学革命 4 個別科学における変化の問題 5 科学と価値  フィードバックについては授業内で指示する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
2回のレポートで評価を行う。評価は到達目標の達成度にもとづいて行う。 1回でもレポートをさぼると不可となるので注意されたい。											
【教科書】											
サミール・オカーシャ 『科学哲学』(岩波書店)											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
受講者は各授業前にテキストの該当箇所を読むことが期待されている。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは水曜日 15:00 - 16:30を予定  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											



基礎現代文化学系 5

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(講義) Humanistic Informatics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 林 晋					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目	情報歴史社会学入門：歴史社会学で情報社会を分析する										
【授業の概要・目的】											
<p>情報化社会の"来歴,現在,未来"を考える。社会のマクドナルド化・ディズニーランド化,感情労働などの社会学理論を紹介し,情報化された社会の理解のために必要な社会学の知識を習得してもらう。「歴史社会学」の歴史部分では,21世紀現在の情報技術は,電気電子技術史ではなく,アダム・スミスやマルクスの分業論などの,資本主義の歴史の上に置く方がより深く分析できることを理解してもらう。そのために,産業経済学史家ネイサン・ローゼンバーグのチャールズ・バベッジ研究を紹介する。そして,これらの理論を元に,現代社会の2つの問題「格差の拡大」と「生きにくさ」について考える。また,今年度の主テーマのひとつ「格差の拡大」の理解のためにトマ・ピケティ「21世紀の資本」の理論の紹介も行う。</p>											
【到達目標】											
<p>社会の現象・問題を個別事例について直接考えるだけでなく,社会学,歴史学,哲学などの視点から理論的に考える方法があり,それを使うと「より深い」理解が得られることを知るのが目標。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>次の項目を,1項目あたり1から2回講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代情報社会: Google, Amazonなどで起きていること</li> <li>2. ITと「格差」: トマ・ピケティの理論と情報化社会</li> <li>3. ITと「生きにくさ」: 変わる産業構造と社会の中の個</li> <li>4. 現代の情報社会の見方: 「IT観念論」の時代へと突入する世界</li> <li>5. M. ヴェーバーの近代化理論: 官僚制システムと合理性理論</li> <li>6. 社会のマクドナルド化とディズニーランド化: 再魔術化とIT</li> <li>7. 知能資本主義社会としての情報社会</li> <li>8. チャールズ・バベッジの蒸気コンピュータと経済・経営学</li> <li>9. アダム・スミス, バベッジ, マルクス: 分業論の系譜</li> <li>10. 筋肉労働, 知能労働, 感情労働: 感情装置化するIT</li> </ol> <p>今年の主なテーマは暫定で「格差」と「生きにくさ」。しかし, ITは変化が激しい分野なので,新しい重要な話題がでてきたら講義開始後でも講義項目や順序を変更する。ただし, 4-10の基礎理論(歴史学, 社会学, 哲学)の部分は不変。</p> <p>また, 毎回最後の5分程度に質問票を書いてもらう時間をとり, 次回に, それの主なものに答える</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 情報・史料学(講義)(2)へ続く -----											

情報・史料学(講義)(2)

**[成績評価の方法・観点及び達成度]**

期末レポートによる。

**[教科書]**

資料を配布する。(WEB上で公開)

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

(関連URL)

<http://www.shayashi.jp>(林のサイト)

**[授業外学習(予習・復習)等]**

毎回の講義資料は詳細なものをHTMLで作成し講義直前に公開し、それを用いて講義を進めるのが原則のパターン。各回は、それまでの回、特に前回の内容を伏線として話が進むので、必ず復習をしておくこと。つまり、復習が予習を兼ねる。

(その他(オフィスアワー等))

講義のWEBサイトに講義資料などを掲示する。林のサイトに行けば、講義のページへ行く方法が分かる。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 6

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(講義) Humanistic Informatics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 林 晋					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目	論理学の歴史：アリストテレスから情報論理学まで										
【授業の概要・目的】											
アリストテレス以来の西洋論理学の歴史に就いて、(a)現代の記号論理学に繋がる系譜と、(b)日本における論理学受容の系譜、の二つを解説する。現在は論理学のすべてを現代記号論理学の立場から理解しようとする傾向が支配的で、論理学史も例外ではない。しかし、記号論理学以前の論理学は、クリティカル・シンキングや、ITのオブジェクト指向などの「実用的分野」の中に現在も生き続けている。一方で、記号論理学は期待に反して現実と乖離している。それらのことと、その理由を理解してもらうのが(a)、また、その観点から、日本人が明治時代に輸入された「論理学」というものと、どの様付き合ってきたかを明らかにするのが(b)である。講義では、この二つを関連づけて同時に説明していく。											
【到達目標】											
現代の日本や英語圏で「論理学の歴史」と言えば、単純な進歩史観に基づく議論が多い。本講義では、こういう単純な誤った立場を退け、歴史的観点から客観的に歴史過程を分析する力を養うことを目的とする。											
【授業計画と内容】											
以下の項目を、それぞれ1から3回程度講義する。ただし、順番は、この通りではない。 1. アリストテレス論理学：伝統論理学 2. 明治日本の論理学：経国の道具としての伝統論理学 3. 記号論理学の誕生：伝統論理学との違いを中心に 4. 新カント派の論理学：現代論理学へのミッシングリンク 5. 伝統論理学と情報技術・人工知能 6. 京都学派の論理：西田幾多郎・田辺元の論理(学) 7. 日本人と論理(学)：明治、昭和、平成の「論理ブーム」											
毎回最後の5分程度に質問票を書いてもらう時間をとる。次回に、その主なものに答える。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末レポートにより採点する。											
----- 情報・史料学(講義)(2)へ続く -----											

情報・史料学(講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

教科書は使わないが、毎回、詳細な講義資料を作成し、それを講義のサイトで公開する。

**[参考書等]**

(参考書)

授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

基本事項から説明するが、項目が多いので、各自、講義資料、講義中に紹介する参考文献などでの復習が必要である。参考文献は講義のためのサイトに掲示する。

**(その他(オフィスアワー等))**

KULASIS以外に講義用のサイトを開設し、講義資料、参考文献などを掲示する。そのサイトのURLは最初の講義の際に伝える。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 7

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(講義a) Twentieth Century Studies (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉本 淑彦					
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目	二十世紀学研究入門										
【授業の概要・目的】											
二十世紀を特徴づける民衆文化（映画、大衆小説、アニメ・マンガなど）をおもに取り上げ、カルチュラル・スタディーズの多様な方法論を考察する											
【到達目標】											
研究史への理解を深め、そのうえで、従来の研究が抱える問題点を見つけだす力を養うことができる。											
【授業計画と内容】											
各授業の前半で方法論（分析理論）を紹介し、後半で、その方法論を用いて資料（映画、小説、アニメ・マンガ、小説）を分析する。 1 課題あたり 1～3 週（隔週で週 2 コマ）を使って授業をする。 * イントロダクション：映画学事始め * 映画分析の基本的視点 * ナショナリズム研究：国民映画論 * ナショナリズム研究：文化遺産と国民国家 * マンガを素材に研究すると……											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点評価(おもに出席率だが、ディスカッションへの積極的参加も考慮する)											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
授業で紹介する研究書と映画を、授業後に閲読・視聴すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 8

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(講義b) Twentieth Century Studies (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉本 淑彦					
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目	二十世紀学研究										
【授業の概要・目的】											
二十世紀を特徴づける民衆文化（映画、小説、アニメ・マンガ、TV番組など）をおもに取り上げ、カルチュラル・スタディーズの多様な方法論を考察する											
【到達目標】											
研究史への理解を深め、そのうえで、従来の研究が抱える問題点を見つけだす力を養うことができる。											
【授業計画と内容】											
各授業の前半で方法論（分析理論）を紹介し、後半で、その方法論を用いて資料（映画、アニメ・マンガ、小説、TV番組など）を分析する。 1課題あたり1～3週（（隔週で週2コマ）の授業をする。 * イントロダクション：TV番組を分析する（ウルトラマンを学問すると……） * 植民地主義・帝国主義研究 * オリエンタリズム論 * ポスト・コロニアル研究 * 「記憶」という問題											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点評価(おもに出席率だが、ディスカッションへの積極的参加も考慮する)											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
授業で紹介する研究書と映画を、授業後に閲読・視聴すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 9

授業科目名 <英訳>	日本現代史(講義) Contemporary History				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 永井 和					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目	日本近現代史概説										
【授業の概要・目的】											
<p>「現代史は世界史である」との学問的理念のもとに、日本の近現代（19世紀後半から20世紀）の歴史を「世界史としての日本近現代史」という観点から概観する。前期では、「現代史は世界史である」との学問的理念の意味と「世界史としての日本近現代史」という観点がどのような歴史観・世界史観に依拠しているかを説明したあと、19世紀に東アジアが近代世界システムに包摂され、近世的なシステムが解体することによって、グローバルな近代世界が成立する過程を概観し、その中に日本の近代を位置づける。</p>											
【到達目標】											
<p>この科目を受講し、学修目的を達成したとしても、とくに観察可能な具体的能力が身につくわけではない。ただ、現在の人類社会や日本社会が、どのような時間的な変遷をへて今にいたっているのか、巨視的な視点で眺めることができる、あるいはそのような視点が存在しうることを知るだけでも、大きな意義があると考えられる。</p> <p>さらにいえば、現代世界は多様であり、多元的であるが、同時に強い相互依存関係におかれていることで、同じひとつの世界を共有し、それゆえ同じひとつの歴史を共有する存在でもあることを認識してくれれば、さいわいである。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいによって、順序や回数を変えることがある。</p> <p>第1章 世界史の成立：世界構造転換の時代としての近代          第1回 日本の近代はいつからはじまるのか          第2回 近代化論パラダイムと世界システム論パラダイム          第3回 多世界論と世界構造転換論          第4回 世界構造転換の力としての近代世界システム          第5回 世界史における「近世」と「近代」</p> <p>第2章 近代以前の東アジア 中華帝国体制と鎖国体制          第6回 中華帝国体制とその構造          第7回 狭義の中華帝国体制，広義の中華帝国体制          第8回 ローカルシステムとしての鎖国体制</p> <p>第3章 中華帝国体制の解体と東アジアの近代          第9回 不平等条約体制の成立と近代のはじまり          第10回 中華帝国体制の解体：第一段階          第11回 中華帝国体制の解体：第二段階          第12回 明治政府による対外関係の「書き換え」</p> <p>第4章 近代帝国主義体制と東アジア          第13回 東アジアにおける近代帝国主義体制の成立</p>											
----- 日本現代史(講義)(2)へ続く -----											

日本現代史(講義)(2)

第14回 「帝国」日本とその植民地支配

第15回 期末試験

第16回 フィードバック

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点及び達成度】**

期末に定期試験（筆記）をおこない、その成績により評価する。

**【教科書】**

使用しない

**【参考書等】**

（参考書）  
授業中に紹介する

**【授業外学習（予習・復習）等】**

授業前に予習する必要はなし。復習のための課題も与えません。ただ、授業で折にふれて言及する先行研究の書物などを機会があれば、読んで欲しい。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。



基礎現代文化学系 10

授業科目名 <英訳>	日本現代史(講義) Contemporary History				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 永井 和					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目	日本近現代史概説										
【授業の概要・目的】											
<p>「現代史は世界史である」との学問的理念のもとに、日本の近現代（19世紀後半から20世紀）の歴史を「世界史としての日本近現代史」という観点から概観する。後期のこの授業では、第1次世界大戦から1990年の冷戦体制の終焉までの20世紀の日本の歩みを東アジアの国際関係の変容との相関関係の中であとづける。</p>											
【到達目標】											
<p>この科目を受講し、学修目的を達成したとしても、とくに観察可能な具体的能力が身につくわけではない。ただ、現在の人類社会や日本社会が、どのような時間的な変遷をへて今にいたっているのか、巨視的な視点で眺めることができる、あるいはそのような視点が存在しうることを知るだけでも、大きな意義があると考えられる。</p> <p>さらにいえば、現代世界は多様であり、多元的であるが、同時に強い相互依存関係におかれていることで、同じひとつの世界を共有し、それゆえ同じひとつの歴史を共有する存在でもあることを認識してくれれば、さいわいである。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいによって、順序や回数を変えることがある。</p> <p>二つの世界戦争と日本</p> <p>第1回目 第一次世界大戦と日本</p> <p>第2回目 戦後の4つの反作用とワシントン体制</p> <p>第3回目 二つの対外路線：アジア・モンロー主義と対英米協調主義</p> <p>第4回目 満洲事変と華北分離工作</p> <p>第5回目 日中全面戦争</p> <p>第6回目 日中戦争から世界戦争へ</p> <p>第7回目 アジア太平洋戦争</p> <p>敗戦・占領と日米同盟</p> <p>第8回 ポツダム宣言の受諾と敗戦</p> <p>第9回 占領と独立 - 対英米協調派の復活 -</p> <p>第10回目 戦前の政治空間と戦後の政治空間</p> <p>第11回目 日米同盟と高度経済成長</p> <p>現代世界と東アジアの20世紀</p> <p>第12回目 東アジア史の現代</p> <p>第13回目 東アジア史の20世紀 近代と現代の交錯</p> <p>第14回目 ポスト20世紀の20世紀の世界と東アジア</p> <p>第15回目 期末試験</p> <p>第16回目 フィードバック</p>											
----- 日本現代史(講義) (2)へ続く -----											

日本現代史(講義) (2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点及び達成度】**

期末に定期試験（筆記）をおこない、その成績により評価する。

**【教科書】**

使用しない

**【参考書等】**

（参考書）  
授業中に紹介する

**【授業外学習（予習・復習）等】**

授業前に予習する必要はなし。復習のための課題も与えません。ただ、授業で折にふれて言及する先行研究の書物などを機会があれば、読んで欲しい。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 1 1

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学 (基礎演習 I a) Basic course of Modern Culture & History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 矢田部 俊介					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	基礎演習	使用 言語	日本語
題目	論理学										
[授業の概要・目的]											
<p>本授業の最終的な目標は、受講者が論理的で明晰な思考に慣れ、何かを主張する際にはその主張がどのような根拠に基づいているかを明確化し、抜けも漏れもない論証ができるようになることである。そのための練習の題材としては、哲学的論理学、そのなかでも「論理とは何か」という問題をとりあげる。我々は日常、推論を行い、そして「論理的」という言葉をよく使う。もちろん「論理的」であることが要求される。しかし、「論理」とはいったい何だろうか。日頃、無反省に、知っているつもりで使っている概念の意味を問い直すのは、哲学の重要な仕事の一つである。本演習では、数学における定理の証明がシミュレートできる、「論理」と呼ばれうるような、記号を処理する体系（「形式的体系」）を紹介する。具体的には、最小述語論理の自然演繹の体系の解説と問題演習を行う。</p>											
[到達目標]											
<p>最小述語論理の自然演繹で、基本的な演習問題が解けるようになる。 このことを通し、形式的体系における演繹がどのように進むのかを理解し、同時に日常的な推論がどのように形式的体系においてシミュレートされるのかを理解する。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>最小述語論理は、論理結合子の導入規則と除去規則のみを持つ、基本的な論理体系の一つである。前期の前半は、まず最小述語論理の自然演繹の体系を紹介する。問題演習を通じ、各自が自然演繹の証明が出来るようになることが目標である。 また、後半には、最小論理上で算術の体系「最小算術Q」を例に、数学における多くの証明が最小論理で遂行可能であることを示す。同時に、原始再帰法など計算の基本概念を紹介する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
ほぼ毎回出題する宿題の累計成績に準じて行う。											
[教科書]											
毎回ハンドアウトを配布する。											
[参考書等]											
<p>(参考書) 戸次大介 『数理論理学』 (東大出版会) 小野寛晰 『情報科学における論理』 (日本評論社) Dag Prawitz 『Natural Deduction: A Proof-Theoretical Study』</p>											
----- 基礎現代文化学 (基礎演習 I a) (2)へ続く -----											

基礎現代文化学（基礎演習 I a） (2)

（関連URL）

[http://d.hatena.ne.jp/kyoto\\_logic/](http://d.hatena.ne.jp/kyoto_logic/) (授業 Blog)

**【授業外学習（予習・復習）等】**

授業資料は毎回、事前（1週間前）にwebsite（下記の授業Blog）にアップします。学生は、授業前に資料にざっと目を通しておくことが望ましい。

**（その他（オフィスアワー等））**

形式的な体系を理解するためには、まず手を動かして練習問題の証明をやってみよう。記号の意味は何か、と考えるのはそれから。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 1 2

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学 (基礎演習 I b) Basic course of Modern Culture & History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 矢田部 俊介					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	基礎演習	使用 言語	日本語
題目	論理学										
[授業の概要・目的]											
<p>我々は日常、推論を行い、そして「論理的」という言葉をよく使う。もちろん「論理的」であることが要求される。しかし、「論理」とはいったい何だろうか。日頃、無反省に、知っているつもりで使っている概念の意味を問い直すのは、哲学の重要な仕事の一つである。また、「論理」とはいったい何かという問題は、現代の大きな問題である。というのも、古典論理の体系以外にも、20世紀以降、多くの異なる論理体系が提案されているからである。それらの非古典的な体系が論理と呼ばれるなら、ある体系が「論理」と呼ばれるためには、どんな性質を満たしていることが必要だろうか。</p> <p>本演習では、最小述語論理の自然演繹の体系の解説から始め、最小論理・直観主義論理・古典論理での論理式の証明とそのモデルを使った議論が出来るようにすることを目的とする。その中で、単なる記号の処理を行なう体系が「論理」と呼ばれるにはどんな性質を満たす必要があるかを考察する。また、学期末には、もう一つのトピックとして、「真理とは何か」という、論理と密接に関係する別の話題を取り上げ、その論理的性質を探る。</p>											
[到達目標]											
<p>直観主義論理と古典論理の自然演繹で、基本的な演習問題が解けるようになる。 このことを通し、最小論理との比較により、論理規則が増えることが何を意味し、推論に同影響を与えるのかを理解する。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>前半では、前期に紹介した最小述語論理を例にとり、論理結合子の意味とは何かを、「証明論的意味論」と呼ばれる立場から考察する。具体的には、ベルナップの「トंक」の例を題材に、論理結合子の条件とは何かを考え、保存拡大性や証明の正規化といった論理学の基本概念を理解することを目指す。</p> <p>後半では、最小論理に論理規則を付加し拡張した論理体系を紹介する。つまり、最小論理に矛盾律、排中律と論理規則を加え、直観主義論理、古典論理の体系を得る。これらの例により、論理規則が加わるにつれて、論理式の証明は難しくなるものの、そのモデルは簡単になることを示す。また、その考察により、健全性や完全性といった記号とモデルの関係に関する基本概念の理解を目指す。</p> <p>最後に、論理学の応用的話題として、近年研究が進んでいる公理的な真理理論をとりあげ、その論理的な概観を紹介する。時間があれば、その関係で、ゲーデルの不完全性定理等も紹介する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
----- 基礎現代文化学 (基礎演習 I b) (2)へ続く -----											

## 基礎現代文化学（基礎演習 I b） (2)

### [成績評価の方法・観点及び達成度]

ほぼ毎回出題する宿題の累計成績に準じて行う。

### [教科書]

毎回ハンドアウトを配布する。

### [参考書等]

（参考書）

戸次大介 『数理論理学』（東大出版会）

小野寛晰 『情報科学における論理』（日本評論社）

Dag Prawitz 『Natural Deduction: A Proof-Theoretical Study』

### [授業外学習（予習・復習）等]

授業資料は毎回、事前（1週間前）にwebsite（下記の授業Blog）にアップします。学生は、授業前に資料にざっと目を通しておくことが望ましい。

### （その他（オフィスアワー等））

形式的体系を理解するためには、まず手を動かして練習問題の証明をやってみよう。記号の意味は何か、と考えるのはそれから。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 1 3

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学(基礎演習II) Basic course of Modern Culture & History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 永井 和 文学研究科 准教授 小野澤 透					
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2015・ 通年	曜時間	水4	授業 形態	基礎演習	使用 言語	日本語
題目	二十世紀学・現代史学研究入門										
【授業の概要・目的】											
二十世紀学と現代史学研究に関連する基礎的なテキストを輪読し、現代社会の文化、歴史に関する主要な問題につき理解を深め、あわせて基礎的な研究の方法を学ぶ。											
【到達目標】											
現代史、国際関係史、ナショナリズム論など、現代の人文社会科学に関連する重要なテーマについて、基本的な学説を理解し、それらの異同や相互関係を説明できるようになる。また、そのことを通じて、各自の研究テーマに即して学説を整理して吸収する基礎的な方法を学ぶ。											
【授業計画と内容】											
前期は、現代史学および二十世紀学に関連する新書や選書を選読し、基礎的な研究方法を学ぶとともに、現代の主要問題について考察する。取り上げる文献の一部は、下記のとおり。 入江昭 『二十世紀の戦争と平和』増補版（東京大学出版会） ジョセフ・S・ナイ、D・A・ウェルチ 『国際紛争：理論と歴史』（有斐閣） ベネディクト・アンダーソン 『定本 想像の共同体』（書籍工房早山） アントニー・D・スミス 『ナショナリズムの生命力』（晶文社）											
後期は、京都大学人文科学研究所の共同研究の成果である『現代の起点 第一次世界大戦』全4巻（岩波書店、2014年）から何本かの論文を選んで精読する。											
【履修要件】											
二十世紀学、現代史学専修志望の学生は2回生時にこの授業を受講すること。履修しない場合には、両専修の演習 いずれかで単位を代替可。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
前期に50点、後期に50点を配分し、それぞれについて平常点とレポートによって総合的に評価する。											
【教科書】											
前期の初回授業で文献リストを配布する。文献は、各自準備すること。 後期の授業では、テキストのコピーを配付する。											
【参考書等】											
（参考書） なし											
【授業外学習（予習・復習）等】											
授業で取り上げるテキストを、全員が必ず予め読了しておくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
初回に文献リストを配布し、報告者を決定する。ディスカッション中心の授業なので、毎回、全受講者が当該文献を読んでおくことが必須条件になる。											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

## 基礎現代文化学系 1 4

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学(情報技術演習 I) Humanistic Informatics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 林 晋					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	情報技術演習										
【授業の概要・目的】											
IT技術の普及以後、史学・古典学などでの文献/資料研究の方法が大きく変わり始めている。本演習では図書館の検索システムであるOPACや、デジタル・ライブラリ、デジタル・アーカイブなどによるネット上での情報収集の方法の習得から始め、IT技術を文献研究に活用するための方法を実戦的に学ぶ。											
【到達目標】											
歴史資料などの情報を集め、処理し、WEB上で発信できるようになる。											
【授業計画と内容】											
OPAC, 電子アーカイブ(ライブラリ), Wikipedia などによるWEB上情報収集の技術から始め, デジカメ, スキャナ等を利用しての文献資料の収集・整理の方法。そして, 論文, ブログなどの「作品」にまとめて発表するまでの方法を, 実際の作業を通して学ぶ。基本を学んだ後, 個人あるいはグループでテーマを決め, それについての「作品」を完成することを目標とする。「作品」は特に希望がなければブログの形で作成してもらおう。なるべく各自の能力・知識に配慮した個別指導を行う。たとえば希望する上級者には個別にプログラミングの指導を行うことも可能。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常の課題, および学期末の作品により採点する。配点は, 平常点80%, 作品20%が目安である。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書)											
【授業外学習(予習・復習)等】											
予習は必要ないが課題が授業時間だけでは行えない場合は復習が必要。											
(その他(オフィスアワー等))											
必ず「教育用コンピュータシステム利用コードECS-IDとパスワード」を第一回目に用意してくること。これがないと演習ができない。											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											



基礎現代文化学系 1 5

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学(情報技術演習II) Humanistic Informatics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	関西大学 総合情報学部 教授 喜多 千草					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	情報技術演習II										
【授業の概要・目的】											
<p>研究には、「材料を集める」、「分析する」、「考察を加える」、「まとめる」、「発表する」というステップがあります。この演習では「材料を集める」ひとつの技法としてのインタビューについて学びます。インタビューとは、基本的には「発話から意味のある情報を得る」技法であり、文系・理工系を問わず「人間」に関わるあらゆる研究領域に有用な社会調査法の一つです。ひとくちにインタビューといっても幅広く、アカデミックなインタビューの中にも社会学的・文化人類学的・歴史学的・心理学的といった様々なアプローチがあり、さらにジャーナリスティックなインタビューという領域もあります。演習では、まず、そうした様々な場面に使われるインタビューについて、基礎文献から方法論について学びます。</p>											
【到達目標】											
インタビューの基礎的技法を習得し、自らの研究に必要な応じてインタビューを採りいれることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>授業概要（それぞれの項目について1~3週の授業をする予定）</p> <p>オリエンテーション            基礎文献について            歴史研究とインタビュー            文献レジュメ発表            【小括】インタビュー技法のポイント            インタビュー・プロジェクト提案会議            インタビュー練習            分析手法について            インタビュー結果報告会            フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点評価（出席点の他、課題の発表、プロジェクトの成果への評価などを含む）											
----- 基礎現代文化学(情報技術演習II) (2)へ続く -----											

基礎現代文化学(情報技術演習II) (2)

**[教科書]**

随時、ウェブサイトを通じての文献配布や、授業内でのプリント配布を行う。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

(関連URL)

<http://www.kitalab.org/KyotoUnivSeminar/index.html>(詳しい講義計画、参考サイトへのリンク、一部配付資料のアーカイブ等(オリエンテーションでパスワード等周知))

**[授業外学習(予習・復習)等]**

基礎文献を読んだでのレジюме作成、インタビュー・プロジェクトの企画および実施は授業外学習となる。

(その他(オフィスアワー等))

昨年度、同じ演習でインタビュー方法を学んだ人が連続して履修する場合、インタビュー内容をWebサイトで公開するプロジェクトを行うことも可能。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 1 6

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学(講読Ⅰ) Basic course of Modern Culture & History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	白眉センター 特定助教 樋口 敏広(ヒグチトシロ)					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	英書講読										
[授業の概要・目的]											
<p>本授業は、Kate Brown, <i>Plutopia: Nuclear Families, Atomic Cities, and the Great Soviet and American Plutonium Disasters</i> (Oxford University Press, 2013)の精読と読解を中心とし、本書の書評や一次史料も併せて参照することで、アメリカにおける現代史研究の最新の研究動向を理解することを目的としている。</p> <p>American Historical Association's 2014 Albert J. Beveridge AwardやAmerican Society for Environmental History's 2014 George Perkins Marsh Awardをはじめとする数々の賞を受賞している本書は、冷戦対立というマクロな構造の中で展開したアメリカとソ連の兵器用プルトニウム生産というミクロな事例に注目し、それを担ったハンフォードとオゼリスクの両都市のコミュニティ形成過程を比較分析している。その中心的なテーマとは、両国でプルトニウム生産に従事する技術者・事務員・労働者が冷戦初期に自らの公民権と健康の権利を消費を享受する権利と交換することで中産化・核家族化を果たしたこと、そしてその「権利の取引」が冷戦末期に兵器需要が急減し健康被害が露呈したことにより危機に瀕したことである。</p> <p>このように、本書は米ソ関係と両社会比較というマクロとミクロの過程の双方を射程に収めつつ、環境、科学・技術、労働・消費、ジェンダー、そして国際政治といった現代史研究の論点を横断的に分析することで、これらの間の密接な連動関係を明らかにしている。また、本書は史料においても先駆的であり、冷戦後に機密解除された米ソ両国の公文書を渉猟しつつ各コミュニティの関係者への聞き取り調査も行っている。さらに、元ジャーナリストである著者による本書はその優れた文体や構成により学術書と一般書の双方の性格を有し、英書講読の材料として最適である。</p> <p>本書の精読と読解を通じて、現代史研究のための英語文献の読み方を学ぶと共に、アメリカにおける現代史研究の最新の動向を理解し、そのような研究に必要な史料の収集・分析についても習得する。同時に、福島第一原発事故を契機に注目されている原発立地における近代化の特質を歴史的に理解する視点を得ることも目指したい。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代史研究書の精読を通じて英語の読解能力を向上させる</li> <li>・アメリカにおける現代史研究の最新の動向を理解する</li> <li>・本書の書評も参照しつつ読解を進めることで、先行研究の分析・史料・文体における秀逸点と問題点を把握する批判的読解力を身につける</li> <li>・関連する一次史料も参照しつつ読解を進めることで、英語文献の利用と分析について理解を深め、受講者各自の将来の研究資源とする</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回：イントロダクション</p> <p>アメリカにおける冷戦史と環境史の最新動向を紹介し、本授業のテキストの概要を説明する。使用すべき辞書や参考書、書評や一次史料などを紹介し、授業の進め方を告知する。また、出席時における精読の解説や読解内容についての討論に関して受講生をグループ分けする。</p>											
----- 基礎現代文化学(講読Ⅰ)(2)へ続く -----											

## 基礎現代文化学(講読Ⅰ)(2)

### 第2回から第14回：テキスト（Kate Brown, Plutopia）の精読

本書は四部構成となっている。第2回から4回はIncarcerated Space on the Western Nuclear Frontier (pp. 15-74)、第5回から7回はThe Soviet Working-Class, Atom, and the American Response (pp. 75-164)を読み進め、第8回に中間のまとめを設けてそれまでの精読の成果を総括する。そして第9回から11回はThe Plutonium Disasters (pp. 165-270)、そして第12回から14回はDismantling the Plutonium Curtain (pp. 271-338)を読み進める。

各部の内容や受講生の習熟度によって進度が大きく異なるが、毎週2頁以内の精読（日本語訳）と10頁以内の読解（毎週課される質問への回答）、そして必要に応じて指示された一次史料の調査と精読を各自実施し、それを記載したレポートを授業開始時に提出する。なお、全13回のうち、1回はレポートの提出を行わなくてよい。どの回に提出しないかは、各自の裁量となる。授業では、精読の解説と内容に関する討論を行い、必要に応じてグループに分かれて行う。

### 第15回 まとめ

精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について議論する。

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点及び達成度】

評価方法は、1回を除いて毎週提出されるレポート（全12回：各7点：計84点）と討論への積極的な参加（計16点）により評価する。各レポートは、精読のレベルや読解の程度に基づき評価される。参加点については、発言回数よりもその質を重視する。発言を苦手とする受講生、もしくはその機会を逸した受講生は、毎週授業終了後に簡単なコメントを書いて提出してもよいが、評価上は授業内での発言・参加を重視する。なお、4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

### 【教科書】

Brown, Kate 『Plutopia: Nuclear Families, Atomic Cities, and the Great Soviet and American Plutonium Disasters』（Oxford University Press）ISBN:0199855765（本書はペーパーバックやKindleでも入手可能。）

授業に必須のため、受講予定者は各自必ず購入すること。

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学習（予習・復習）等】

毎週授業終了後に、次回までに日本語訳を行う範囲（2頁以内）と読解を行う範囲（10頁以内）と読解に関連して回答すべき質問について指示がある。また、必要に応じて一次史料の調査と精読を指示される場合がある。受講生は各自、これらの内容を記載したレポートを次回の授業開始時に提出する。なお、精読を実施する期間（全13回）のうち、1回はレポートの提出を行わなくてよい。どの回に提出しないかは、各自の裁量となる。

基礎現代文化学(講読Ⅰ)(3)へ続く

基礎現代文化学(講読Ⅰ)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは第1回のイントロダクションで告知する。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 17

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学(講読Ⅰ) Basic course of Modern Culture & History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 助教 小野 容照					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	英書講読										
【授業の概要・目的】											
<p>Gi-Wook Shin and Michael Robinson (ed.), Colonial modernity in Korea (Harvard University Asia Center, 1999)を読む。戦前の日本の植民地統治によって朝鮮は近代化したのか否かという議論、いわゆる植民地近代化論争は今もなお続いている。本書は、この論争を扱った英語の論文集としては最も代表的なものである。本書の精読を通して、英文読解の力を養うとともに、植民地朝鮮を見る視点、アメリカの朝鮮研究の傾向について学ぶことを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>1) 英文読解の力を養う 2) 植民地朝鮮を見る視点、アメリカの朝鮮研究の傾向について理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>本書は12の論文と序章、終章で構成されている。このなかから、いくつかの論文を選んで読んでいく予定である。授業は出席者全員が予習をしてきていることを前提として、事前に報告者(日本語訳する人)を決めない形で行なう。授業中に何人かを指名し、各自複数の文章を訳してもらう。</p> <p>初回は授業ガイダンスおよび朝鮮の歴史について簡単に説明し、第2回は講読対象となる本の説明(植民地近代化論争史)に充て、第3回から実際に英文を読んでいく予定である。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>期末試験は行わず、平常点(出席・予習)で評価する。</p>											
【教科書】											
<p>授業で使用するテキストは、担当教員が準備して配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
【授業外学習(予習・復習)等】											
<p>毎回2~4頁程度読み進める予定なので、事前に該当箇所の予習をしてもらうこと。</p>											
(その他(オフィスアワー等))											
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>											

基礎現代文化学系 1 8

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学(講読Ⅰ) Basic course of Modern Culture & History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	白眉センター 助教 丸山 善宏					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	英書講読										
【授業の概要・目的】											
Terry Eagleton, <i>The Meaning of Life: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press, 2008) を読む。英文学者 / 文学理論家として名高いイーグルトンによる「人生の意味」の考察を導き手として「意味の思想史」の鳥瞰的理解を目指す。参照される哲学はヴィトゲンシュタインからハイデガーやニーチェ、文学はシェイクスピアからコンラッドやベケットにまで至る多様性を備えており、広く人文学的素養の向上に資するものである。											
【到達目標】											
オックスフォードで長く教鞭を取ったイーグルトンの散文は、平易な装いの中にも格調高い英国の伝統英語の風合いを残しており、また議論の端々に英国文化への明示的 / 非明示的参照が見られる。それらに触れることで、「英」語本来のニュアンスに富んだ豊かな感性や、例えばモンティパイソンのコメディに見られるような、英国独特のアイロニーやユーモアの文化を学ぶ。											
【授業計画と内容】											
初回到授業のテーマと進行方法を説明する。次回から通常授業（受講者による訳読と講師による解説）に入る。最終回到全体の議論の総括を行う。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
主として平常点（出席、解釈や議論におけるパフォーマンス等）によるが期末にレポート課題か試験を課す場合がある。											
【教科書】											
必要資料は授業中に配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
テキストの予習復習に加えて、余裕があれば扱われる思想家等について事前 / 事後に調べるなど、関連事項を積極的に自学自習することが望ましい（参考文献等は適宜助言する）。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 19

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学(講読Ⅰ) Basic course of Modern Culture & History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊藤 和行					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	英書講読										
【授業の概要・目的】											
<p>Peter Harrison (ed.). The Cambridge Companion to Science and Religion (Cambridge University Press, 2010) を読む。          本書は、西洋世界における科学と宗教の問題を、中世から現代まで、ガリレオの宗教裁判や創造科学といったトピックを通じて検討したものである。西洋世界においては、科学と宗教はしばしば緊張関係あるいは競合関係にあり、その中で科学は歴史的に形成されてきた。日本においては、科学と宗教の問題はほとんど問題にならなく、そのため非常に理解し難いが、現代においても、とくに米国では大きな社会的問題となることがあり、西洋文化理解のためには重要なトピックである。</p>											
【到達目標】											
本書の精読を通じて、英文読解の実践的な基礎力を養うとともに、西洋文化に関して、より深い理解を得る。											
【授業計画と内容】											
<p>本書は、14の論文と序文から構成されてる。とくに次の二つの論文から読む予定である。          Ronald L. Numbers, "Scientific Creationism and Intelligent Life".          Jon H. Roberts, "Religious Reactions to Darwin".          授業は全員が予習していることを前提として行い、事前に担当者を決めることはしない。授業中に何人かを指名し、複数の文章を訳してもらい、担当教員が解説を行う。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点(出席・担当発表・レポートなど)によって評価する。											
【教科書】											
授業で必要なテキストは、担当教員が用意して配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
予習の際には、次回のテキストを十分何時間を掛けて精読し、疑問点等をまとめておくように。事前に担当者を決めないで、すべての出席者が予習することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											



基礎現代文化学系 2 0

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学（講読II） Basic course of Modern Culture & History(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 南川 高志					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	西洋史独書講読 I										
【授業の概要・目的】											
<p>この授業は、ドイツ語で書かれた歴史学の研究文献の読解能力を養成することを目的としている。訳読が授業の中心となるが、担当教員が文法的な説明だけでなく歴史学的な解説も加えることにより、受講者が、テキストが直接扱う範囲を越えて、歴史学な専門知識と学界動向を理解できるように試みる。今年度前期のテキストは、20世紀の西洋古代史学界を代表する研究者の一人M・ロストフツェフの著書のドイツ語版を用いる。ロストフツェフは傑出した古代史研究者であったが、ロシア革命で故国を追われ、イギリス、そしてアメリカ合衆国へと亡命し、その間、政治運動をおこないながら、膨大な歴史著述をおこなった。そのテキストを読むことで、受講者は、優れたローマ史研究者の歴史解釈を理解するだけでなく、革命で国外に移らざるをえなくなったロシア知識人の軌跡も知ることができるだろう。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ語で書かれた歴史学の文献について、平易なものであれば適切に訳読できるようになる。</li> <li>・単に文法的に正しいだけでなく、テキストの背景となる歴史学上の問題に関する知識も踏まえた文献の解釈ができるようになる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>授業では訳読する作業が中心となるが、単に日本語に訳すだけでなく、叙述の背景となった歴史事象や歴史学研究上の問題についても担当者が解説を与えることで、受講者が理解を深めていくように努める。</p> <p>テキストは、ロシア人であるロストフツェフがドイツ語で書いたもの、ないしドイツ語訳を用いるので、一般に叙述は平易である。どの作品を用いるかは、参加者の人数や学年(ドイツ語習熟度)などを勘案して調整する。</p> <p>第1回 インTRODクシヨン 授業の進め方とドイツ語で書かれた歴史学文献の扱い方に関する説明を行う。</p> <p>第2回～第14回 受講者の訳読に担当教員の説明を加えつつ、文献を読み進める。</p> <p>第15回 まとめ テキスト読解の成果を総括するが、予定していたところまでテキストを読了できなかった場合は、この時間も読解に充てる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
-----基礎現代文化学（講読II）(2)へ続く-----											

## 基礎現代文化学（講読II）(2)

### [成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点で採点する。授業に出席し、訳読を担当することが評価の前提である。個別評価は、到達目標をどこまで達成できたかに基づき評価する。

### [教科書]

テキストは担当教員が配付する。

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学習（予習・復習）等]

テキスト訳読の予習をして授業に出席することが必要である。

### （その他（オフィスアワー等））

研究でドイツ語文献を利用しようと考えている学生は、後期の同じ曜日・時限に開講される「独書講読 II」も受講することが望ましい。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 2 1

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学（講読II） Basic course of Modern Culture & History(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 南川 高志					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	西洋史独書講読 II										
【授業の概要・目的】											
この授業は、ドイツ語で書かれた歴史学の研究文献の読解能力を養成することを目的としている。訳読が授業の中心となるが、担当教員が文法的な説明だけでなく歴史学的な解説も加えることにより、受講者が、テキストが直接扱う範囲を越えて、歴史学な専門知識と学界動向を理解できるように試みる。今年度後期のテキストは、20世紀のドイツの歴史学界の重鎮の一人でベルリン自由大学教授であったフランツ・アルトハイムの作品を読む。アルトハイムは『ローマ宗教史』など多くの著作を残したが、授業では、できるだけ視野の広い叙述がみられる作品を選んで講読する。専門的な叙述の中に、東西分裂状態であった時代のドイツ知識人の考え方を垣間見ることができよう。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ語で書かれた歴史学の文献について、平易なものであれば適切に訳読できるようになる。</li> <li>・単に文法的に正しいだけでなく、テキストの背景となる歴史学上の問題に関する知識も踏まえた文献の解釈ができるようになる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>授業では訳読する作業が中心となるが、単に日本語に訳すだけでなく、叙述の背景となった歴史事象や歴史学研究上の問題についても担当者が解説を与えることで、受講者が理解を深めていくように努める。</p> <p>テキストは、アルトハイムの著書の一部ないし論文を用いるが、専門的でありすぎることのないものを選択する。どの作品を用いるかは、参加者の人数や学年(ドイツ語習熟度)などを勘案して調整する。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 授業の進め方とドイツ語で書かれた歴史学文献の扱い方に関する説明を行う。</p> <p>第2回～第14回 受講者の訳読に担当教員の説明を加えつつ、文献を読み進める。</p> <p>第15回 まとめ テキスト読解の成果を総括するが、予定していたところまでテキストを読了できなかった場合は、この時間も読解に充てる。</p>											
【履修要件】											
前期の同じ曜日・時限で開講されている「西洋史独書講読 I」を受講しておくことが望ましい。ドイツ語で書かれた歴史書・論文を研究で使用する学生は、前期・後期とも独書講読の授業を受講することを勧めたい。											
----- 基礎現代文化学（講読II）(2)へ続く -----											

基礎現代文化学（講読Ⅱ）（2）

**[成績評価の方法・観点及び達成度]**

平常点で採点する。授業に出席し、訳読を担当することが成績評価の前提である。個別評価は、到達目標をどこまで達成できたかに基づき評価する。

**[教科書]**

テキストは担当教員が配布する。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学習（予習・復習）等]**

テキスト訳読の予習をして授業に出席することが必要である。

**（その他（オフィスアワー等））**

前期の同じ曜日・時限に開講される「西洋史独書講読Ⅰ」を受講しておくことが望ましい。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 2 2

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学（講読Ⅲ） Basic course of Modern Culture & History(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 助教 小川 佐和子					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	講読	使用 言語	フランス語
題目	仏書講読										
【授業の概要・目的】											
フランス語の文献を精読することで、読解能力を高めるとともに、メディア・産業・戦争・モダニズム芸術といった観点から20世紀初頭の歴史的・文化的背景の理解を深める。											
【到達目標】											
外国語文献を精読することで、自らが課題とする歴史研究に対して自主的、継続的に取り組む能力を養う。											
【授業計画と内容】											
Georges Sadoul, Histoire générale du cinéma; Le cinéma devient un art - La première guerre mondiale, Editions Denoël, 1952を中心に読む。本書は、フランスの歴史家・映画批評家のジョルジュ・サドゥールが、産業・経済・社会・技術の観点から芸術としての映画を歴史的・包括的に記述した古典である。この授業では毎週、輪読形式でその精読を行なう。出席者は訳文を用意し、割り当てられた担当部分について調査し、解説する。歴史記述に慣れ親しむことと、20世紀初頭のヨーロッパ社会にかかわる一般的な語彙の習得を目指す。必要に応じて参考映像を見せ、文字資料のみに特化しない歴史叙述の可能性を探っていく。											
【履修要件】											
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点によって評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
事前に各自の訳文を用意し、担当者は解説ができるように準備する。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 2 3

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学（講読Ⅲ） Basic course of Modern Culture & History(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小山 哲					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	仏書講読										
【授業の概要・目的】											
フランス語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、フランス語の読解力の向上を図るとともに、歴史研究にかかわる理論、概念、研究方法についての理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史学の研究で用いられるフランス語の語彙や語法を習得する。</li> <li>・歴史学の分野にかかわる理論、概念、研究方法について、フランス語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
この授業では、次の本のなかからいくつかの項目を選んで講読する。											
Historiographies. Concepts et débats, tome I, éd. par Ch. Delacroix, F. Dosse, P. Garcia et N. Offenstadt, Gallimard, 2010.											
本書は、歴史研究にかかわる概念や論争的な問題について事項別に解説した2巻本の事典の第1巻である。各項目は、10数ページの解説と基本文献のリストから成る。この授業では、いくつかの項目を選んで講読する。授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。フランス語の歴史叙述で用いられる語彙や文体に親しむとともに、歴史研究にかかわる諸問題についての理解を深めることを目指す。											
【履修要件】											
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（出席点と、授業中の訳読の回数）により、到達目標に示した諸点をふまえて評価する。											
【教科書】											
授業の進度に応じてテキストのコピーを配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
-----基礎現代文化学（講読Ⅲ）(2)へ続く-----											

## 基礎現代文化学（講読Ⅲ）(2)

### [授業外学習（予習・復習）等]

- ・あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにフランス語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

### （その他（オフィスアワー等））

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 2 4

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学（講読Ⅳ） Basic course of Modern Culture & History(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	露書講読 1										
【授業の概要・目的】											
19世紀前半を扱った史料集の講読を通じて、ロシア語の一般的読解力を向上させるとともに、公文書・公的書簡・私的書簡・回想録などのさまざまな文体に触れさせ、19世紀的な文体に習熟させる。											
【到達目標】											
19世紀のロシア語の文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。											
【授業計画と内容】											
以下の史料集をテキストとする予定である。東アジアと関係の深い露米会社の行跡をたどることでロシア語の文章を身近に感じられるようにしたい。											
<p style="text-align: center;">-</p> <p style="text-align: center;">:</p> <p>(<span style="float: right;">XVIII-</span> XIX ), 1994, (『ロシア・アメリカ会社と太平洋北部の調査：資料集 (18世紀から19世紀前半のロシア人による太平洋探検)』)</p>											
ただし、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。 受講人数にもよるが、毎回1頁程度、一人あたり数行～十数行ずつの割当てで進行する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末テストはおこなわない。出席と予習の精度による。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 露和辞典は研究社出版のものを所持していることが望ましい。											
【授業外学習(予習・復習)等】											
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは、火曜4限とする。											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											



基礎現代文化学系 2 5

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学（講読Ⅳ） Basic course of Modern Culture & History(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	露書講読 2										
【授業の概要・目的】											
19世紀前半を扱った史料集の講読を通じて、ロシア語の一般的読解力を向上させるとともに、公文書・公的書簡・私的書簡・回想録などのさまざまな文体に触れさせ、19世紀的な文体に習熟させる。											
【到達目標】											
19世紀のロシア語の文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。											
【授業計画と内容】											
前期に引き続き、以下の史料集をテキストとする予定である。東アジアと関係の深い露米会社の行跡をたどることで、ロシア語の文章を身近に感じられるようにしたい。											
<p style="text-align: center;">-</p> <p style="text-align: center;">:</p> <p>(<span style="float: right;">XVIII-</span> XIX ), 1994, (『ロシア・アメリカ会社と太平洋北部の調査：資料集 (18世紀から19世紀前半のロシア人による太平洋探検)』)</p>											
ただし、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。 受講人数にもよるが、毎回1頁程度、一人あたり数行～十数行ずつの割当てで進行する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末テストはおこなわない。出席と予習の精度による。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 露和辞典は研究社出版のものを所持していることが望ましい。											
【授業外学習(予習・復習)等】											
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは、火曜4限とする。											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 2 6

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学（講読Ⅴ） Basic course of Modern Culture & History(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 助教 山崎 岳					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	中国語講読										
【授業の概要・目的】											
中国は日本と深い関わりを持つ隣国である。物質面・精神面を問わず、日本の歴史的文化について、中国の存在を抜きにして語ることはできない。ただし、両国の間には文化的・社会的に様々な相違があるのも事実である。この授業では、近現代中国の歴史・社会に関する中国語の論説・新聞記事などをテキストとして講読する。原文から中国人の思考を読みとることによって、学生の中国語読解能力を養うとともに、中国社会に対する理解を深め、さらなる探求への手引きを提供する。											
【到達目標】											
受講者は、現代中国語をより正しく読解・翻訳・発音することができるようになる。また近現代の中国社会、および関連文献について一定の情報と理解を得る。											
【授業計画と内容】											
初回には授業の説明を行い、講読テキストを配布する。第二回以降、出席者には順番にテキストを音読・日本語訳してもらい形式で授業を進める。速読よりは、音読と翻訳の正確さを重視する。出席者は事前に翻訳を準備するだけでなく、音読の練習を積んで授業に臨むことが求められる。											
【履修要件】											
現代中国語の発音表記であるピンイン、および基本的な文法事項は習得済みであること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
年度末に筆記試験を行う。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
テキストをあらかじめ日本語訳し、音読の練習を積んでおくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 2 7

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学（講読Ⅴ） Basic course of Modern Culture & History(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 助教 山崎 岳					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	中国語講読										
【授業の概要・目的】											
中国は日本と深い関わりを持つ隣国である。物質面・精神面を問わず、日本の歴史的文化について、中国の存在を抜きにして語ることはできない。ただし、両国の間には文化的・社会的に様々な相違があるのも事実である。この授業では、近現代中国の歴史・社会に関する中国語の論説・新聞記事などをテキストとして講読する。原文から中国人の思考を読みとることによって、学生の中国語読解能力を養うとともに、中国社会に対する理解を深め、さらなる探求への手引きを提供する。											
【到達目標】											
受講者は、現代中国語をより正しく読解・翻訳・発音することができるようになる。また近現代の中国社会、および関連文献について一定の情報と理解を得る。											
【授業計画と内容】											
初回には授業の説明を行い、講読テキストを配布する。第二回以降、出席者には順番にテキストを音読・日本語訳してもらう形式で授業を進める。速読よりは、音読と翻訳の正確さを重視する。出席者は事前に翻訳を準備するだけでなく、音読の練習を積んで授業に臨むことが求められる。											
【履修要件】											
現代中国語の発音表記であるピンイン、および基本的な文法事項は習得済みであること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
年度末に筆記試験を行う。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
テキストをあらかじめ日本語訳し、音読の練習を積んでおくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 2 8

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学（講読VI） Basic course of Modern Culture & History(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	イタリア史概説講読										
【授業の概要・目的】											
<p>ルイージ・サルヴァトレッリの“Sommaro della storia d'Italia”を講読する。今年度の前期は、第36章のIl Settecentoを精読する。</p> <p>イタリア史の理解は、イタリア文化を研究する上で必要不可欠である。特に歴史書の場合、日本人によって執筆されたものとは史観が異なるうえ、読者に要求される知識や価値観もイタリア人を念頭に置いたものであるために、これを読むことは、イタリア文化そのものにダイレクトに触れる機会を与えてくれるはずである。また著者サルヴァトレッリの文章は伝統的なイタリア語散文の流れをくむものであり、読解力を培うにはうってつけのテキストである。授業ではイタリア史の理解を深めつつ、イタリア語文献の読解力を養成することが主要な目的となる。なお予習の精度を確認するために、毎回小テストを行う。</p> <p>是非この授業を通じてイタリア語の読解力を培ってもらいたい。</p>											
【到達目標】											
イタリア語の読解力を身につけ、学術文献を自力で読み解くことができるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回（イントロダクション） 使用テキスト並びに講読対象の章について概説する。また授業の進め方、小テスト、評価方法について合わせて説明をする。テキストの冒頭部分を実際に読みながらイタリア語の読解にあたって注意すべき点を紹介する予定。</p> <p>第2回～第14回（第36章Il Settecentoの講読） 必要に応じて文法事項を確認しながらテキストを精読する。重要な専門用語や固有名詞の意味を確かめつつ正確な読解に努める。毎回1ページを目処にテキストを読み進めていく。</p> <p>第15回（フィードバック）</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
出席点・小テストをもとに評価する。											
【教科書】											
プリント配布。											
-----基礎現代文化学（講読VI）(2)へ続く-----											

基礎現代文化学（講読Ⅵ）（2）

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学習（予習・復習）等]**

予習がすべての授業である。テキストのイタリア語にきちんと目を通し、単語の意味を調べるだけでなく書かれている内容を自分なりに把握することを心掛けてもらいたい。

授業終了後は、読み違えていた箇所や文法知識の不十分なところを再確認することが肝要。また小テストで間違った箇所を見直しておくことも重要。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 2 9

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学（講読VI） Basic course of Modern Culture & History(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	イタリア史概説講読										
[授業の概要・目的]											
<p>ルイージ・サルヴァトレッリの“Sommaro della storia d'Italia”を講読する。後期の授業では、前期に読んだ第36章のIl Settecentoの続きから精読する。</p> <p>イタリア史の理解は、イタリア文化を研究する上で必要不可欠である。特に歴史書の場合、日本人によって執筆されたものとは史観が異なるうえ、読者に要求される知識や価値観もイタリア人を念頭に置いたものであるために、これを読むことは、イタリア文化そのものにダイレクトに触れる機会を与えてくれるはずである。また著者サルヴァトレッリの文章は伝統的なイタリア語散文の流れをくむものであり、読解力を培うにはうってつけのテキストである。授業ではイタリア史の理解を深めつつ、イタリア語文献の読解力を養成することが主要な目的となる。なお予習の精度を確認するために、毎回小テストを行う。</p> <p>是非この授業を通じてイタリア語の読解力を培ってもらいたい。</p>											
[到達目標]											
イタリア語の読解力を身につけ、学術文献を自力で読み解くことができるようになる。											
[授業計画と内容]											
<p>第1回（イントロダクション） 後期の講読箇所について概説する。授業の進め方、小テスト、評価方法について確認をした後、テキストの冒頭部分を実際に読み始める予定である。</p> <p>第2回～第14回（第36章Il Settecentoの講読） 前期と同様、重要な文法事項を確認しながらテキストを精読する。専門用語や固有名詞の意味を確かめつつ正確な読解に努める。毎回1.5ページを目標にテキストを読み進めていく。</p> <p>第15回（フィードバック）</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
出席点・小テストをもとに評価する。											
[教科書]											
プリント配布。											
----- 基礎現代文化学（講読VI）(2)へ続く -----											

基礎現代文化学（講読Ⅵ）（2）

【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

予習がすべての授業である。テキストのイタリア語にきちんと目を通し、単語の意味を調べるだけでなく書かれている内容を自分なりに理解することを心掛けてもらいたい。

授業終了後は、読み違えていた箇所や文法知識の不十分なところを再確認することが重要。また小テストで間違った箇所を見直しておくことも大切。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 3 0

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊藤 和行					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	量子力学の基礎理論に関する歴史的検討										
【授業の概要・目的】											
量子力学が現代物理学の基礎理論であることは周知の通りである。一方その基礎理論については、誕生からすでに100年近くが過ぎようとしているにも拘わらず、いまだに議論の対象となっており、科学史的にも科学哲学的にも重要な問題で有り続けている。また近年は、基礎理論に関わる問題を実験的に確認することが可能となってきており、単なる哲学的問題では無く、実験物理学、さらには量子光学や量子論理などと結び付いた実践的問題となっている。											
【到達目標】											
本講義を通じて、量子力学の基礎理論の歴史を辿った研究書をガイドとして、量子力学が内包している基礎的問題について、歴史的かつ哲学的に理解を深める。											
【授業計画と内容】											
授業では、最初に、担当教員（あるいはこの分野を専門とする学生）が、量子力学の基礎理論の歴史に関して概要をまとめる。 その後ガイドとして、ウィテッカー『アインシュタインのパラドックス EPR問題とベルの定理』を用い、その邦訳の各章の内容を、出席者がまとめて発表する形で授業を進めていく。 具体的なトピックは次のようなものである。各回、1～3のトピックを扱っていく。 第1部：第一期の量子論 量子論、量子論と離散性、シュレーディンガー方程式、重ね合わせ、さらに複雑な問題、量子論と正統的解釈と非正統的解釈 第2部：量子論の基礎をめぐって エンタングルメント、ジョン・ベルの功績、実験哲学—最初の十年、アラン・アスペー情報伝達の排除 ベルの不等式に関する最近の発展、不等号なしのベルの定理、新時代、ベルの最後の思い											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（出席および発表，レポート）によって評価する。											
【教科書】											
授業で必要なテキストは、担当教員が用意して配布する。											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											



科学哲学科学史(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業前に、必ずテキストの該当部分を読解し、疑問点等をまとめておくこと。  
またテキストの理解に必要な物理的知識に関しては、授業中に参考文献等を紹介するので、適宜自学するように。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 3 1

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊勢田 哲治					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	統計の哲学とその含意 Philosophy of Statistics and Its Implications										
[授業の概要・目的]											
<p>この特殊講義のテーマは科学の哲学的側面にかかわるさまざまな話題をとりあげる形で毎年変更されます。今年度は統計学の哲学とさまざまな科学分野におけるその含意について考える。統計学と統計的思考は多くの科学分野の核をなすが、その背景となる哲学が論じられることは少ない。この授業においては、統計学の哲学におけるいくつかの理論（ベイズ主義、尤度主義、錯誤統計学）とともに統計的方法を実際に使ういくつかの分野（統計力学、量子力学、集団遺伝学、社会調査など）を検討の対象にする。</p> <p>The topic of this special lecture varies every year, picking up various topics related to the philosophical aspects of science. This year, we explore philosophy of statistics and its implication in various sciences. Statistics and statistical thinking are at the core of many scientific fields, but the philosophical basis behind it is rarely discussed. In this class, we look at several theories in philosophy of statistics (Bayesianism, Likelihoodism, and Error Statistics) along with several fields that actually use statistical method (statistical mechanics, quantum mechanics, population genetics, social survey etc.).</p>											
[到達目標]											
<p>科学に対する哲学的なものの見方というのがどのようなものか理解する。とりわけ、今年度の授業においては、統計学の哲学における諸理論と、そのさまざまな科学分野への含意を理解すること。授業で取り上げた哲学理論を具体的な事例に応用できるようになること。</p> <p>To understand philosophical way of looking at science. In particular, this year, to understand various theories in philosophy of statistics and their implications for various scientific fields. To be able to apply the philosophical theories discussed in the class for concrete cases.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>The lectures will be given both in Japanese and English. Tentative list of topics (spend one or two weeks for each topic) Part I: philosophy of statistics -philosophy of probability -Bayesianism -classical statistics and its rationale -likelihoodism -error statistics -Akaike information theory Part II Implications for various fields -statistical mechanics -quantum mechanics -population genetics -social survey</p>											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 科学哲学科学史(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。

No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (邦訳オカーシャ『科学哲学』) is recommended.

### 【成績評価の方法・観点及び達成度】

中間の論文計画の提出と期末論文の提出を総合的に100点満点（60点以上合格）で評価する。評価は、授業で取り上げられた理論が適切に理解できているか、そうした理論が適切に具体例に適用できているか、という視点から行われる。講師の中間論文計画へのコメントへの反応も評価の対象となる。

a midterm paper project and the final paper. The project and the final paper as a whole is evaluated numerically, where full mark is 100 and passing mark is above 60.

The assessment is done from the viewpoint of (1) whether the paper reflects proper understanding of the theories discussed in the class and (2) whether the theories are properly applied to concrete cases. Responsiveness to the instructors comment to the paper project is also assessed.

### 【教科書】

reading assignments will be distributed in the class.

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学習（予習・復習）等】

宿題となったリーディングは事前に読み、クラスディスカッションに参加できるようにしておくことを求めます。

Students are expected to read the assigned reading before each class to be able to take part in the class discussion.

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは水曜日 15:00 - 16:30 を予定

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 3 2

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊勢田 哲治					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	人を対象とした科学の哲学										
【授業の概要・目的】											
<p>科学の多様性はさまざまな形で哲学的考察の対象となってきたが、人間や人間の営みを対象とする諸領域（医学をはじめ人間を対象とする生命系諸科学、行動系科学、社会科学全般、モード2諸科学など）は、人間が関わらない領域に比べて独自の（しかもある程度共通の）問題をかかえることが多い。まず、人間に対しては他の研究よりもはるかに研究手法への制限がきびしい。次に人間は研究結果を理解し反応するため、予言の自己成就・自己否定という現象がおきる。また、知りたいことが他の自然科学的領域と異なって、「理解」である場合がある。もう一つ、研究結果の社会や政策への含意が非常に大きいために、研究の問題設定、基本概念、研究手法や結果の公開の方法など、あらゆる面で人間を対象とする研究は気をくばる必要がある。最後に、アクション・リサーチ（研究自体が積極的に特定の価値観にコミットして行われる研究）や当事者研究（研究主体として通常想定されないタイプの人々が自らを対象に行う研究）など、自然科学の研究モデルから大きくはみだす研究が存在する。これらの特徴について考えていくことで、人を対象とした研究の姿に哲学の立場から迫ることが本講義の目的である。</p>											
【到達目標】											
<p>人を対象とした科学の哲学に特有なさまざまな問題と、それらの問題が科学哲学の観点からどのように分析されるかを理解し、その理解した内容を具体例に当てはめて考えることができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各テーマについて各2～3週かけて論じる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 人を対象とした科学とは</li> <li>2 研究手法への制約</li> <li>3 予言の自己成就と自己否定</li> <li>4 研究目標としての「理解」</li> <li>5 実践的含意の研究への影響</li> <li>6 アクション・リサーチと当事者研究</li> </ol> <p>フィードバックについては授業内で指示する。</p>											
【履修要件】											
<p>特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。</p>											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

**[成績評価の方法・観点及び達成度]**

二回のレポートで評価を行う。評価は授業内容をどの程度理解できているか、またその理解した内容をどの程度活用して具体例が分析できているか、という視点から行う。

**[教科書]**

授業内で配布

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

宿題となったリーディングは事前に読み、クラスディスカッションに参加できるようにしておくことを求める。

**(その他(オフィスアワー等))**

水曜 15:00 -16:30の時間をオフィスアワーとする予定。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	白眉センター 特定助教 江間 有次(エマアリサ)					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	科学技術と社会のパンドラの匣：ゲーム教材を考える										
【授業の概要・目的】											
<p>科学技術と社会が引き起こす「最悪の事態」の事例やゲーム教材を題材とすることで、現在の科学技術を支えているシステムや社会のあり方について逆説的に議論する授業です。サイバー犯罪で捕まらないようにする技術、パンデミックを引き起こす要因、体に害をなす食べ物、健康に悪い習慣を続けさせるシステムを作り出すためには、どのような科学技術や制度があるだろうか。また、研究不正やねつ造を可能にする環境や人々を「最悪の事態」へと誘導するレトリックとはどのようなものだろうか。そして、その「最悪の事態」を防ぐためにはどうすればよいのか。</p> <p>授業では、なぜそのような悪いことが起きるのか（心理的・構造的問題）、取り締まりをきつくすればなくなる問題なのか（政策的・制度的問題）、そして「最悪の事態」とは誰にとってなぜ「最悪」なのか（文化的・解釈的問題）など、最先端の研究や事例を紹介しながら多角的な視点での分析・議論を行います。また同時に「最悪の事態」を防ぐためのゲームデザインに着目し、ボードゲーム・カードゲーム・シミュレーションゲームなどいくつか実際にゲームを体験することで、その問題の切り出し方の効果と限界についても議論を行います。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、科学技術と社会の間で問題となっていること・なりそうな事例について学ぶ</li> <li>・まだ見ぬ科学技術や社会に対する想像力を養い、リスクに備えるための思考法を身に着ける</li> <li>・多分野の知見を用いながら、多角的に問題を議論する方法論を身に着ける</li> <li>・常識を疑い、自分と異なる意見を尊重しながら、自らの知見を他者に説明する能力を養う</li> <li>・科学技術社会の間での問題をゲームデザインに落とし込むうえで、科学的正確さとわかりやすさのジレンマについての理解を深める</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>8月25日（火）：13:00-18:00 ケース1）研究環境：不正・ねつ造・偽造・倫理など</p> <p>8月26日（水）：10:30-18:00 ケース2）情報技術：ロボット兵士・人工知能管理・サイバー犯罪など</p> <p>8月27日（木）：10:30-18:00 ケース3）生命科学・医療：生活習慣病・パンデミック・エンハンスメントなど</p> <p>8月28日（金）：10:30-18:00 ケース4）エネルギー・環境・宇宙：原子力・地球温暖化・宇宙開発など</p>											
<p>本講義に関連する事件や事故の発生などによって、取り上げる個別トピックを変更することがあります。</p>											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点及び達成度]**

本授業は、講義のほかにグループワークやディスカッション、ゲーム教材を用いた交渉や討論、シミュレーションなどが行われる双方向参加型授業です。

- 1) 議論や討論、ゲームへの積極的な参加 (30点)
- 2) 最終レポート (70点)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

本講義では最先端の科学、技術や社会問題についての議論も行うため、新聞やウェブなどで、日々ニュースに目を通しておくことが望ましい。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 3 4

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	関西大学 総合情報学部 教授 喜多 千草					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	「情報技術と戦争」について考える										
【授業の概要・目的】											
この講義では、戦争と技術の関わりについて、コンピューティング史の観点から考察する。 具体的には、第二次世界大戦中のデジタルコンピュータの開発や暗号解読、冷戦時の全米防空網の構築からコンピュータ・ネットワークの開発などの諸問題を取り上げる。これにより、受講生はコンピューティング史のアプローチを学び、過去の経緯・帰結が現在のありようにどのように影響してきたかについて理解を深めることになるだろう。											
【到達目標】											
コンピューティング史の文献の扱い方の基本を学び、戦争と技術の関わりについて研究するための視点を得る。											
【授業計画と内容】											
授業概要（各項目について1～3回程度の授業を行う） オリエンテーション Giant Brainの構築 暗号解読と計算機 人間機械混成系という概念 全米防空網SAGE 航空宇宙開発と計算機 コンピュータ・ネットワークの発展 まとめ・フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点による（授業でのディスカッションなどと学期末のレポート）。											
【教科書】											
適宜、授業内にプリント配布、およびウェブサイトに資料をアップロードなどする。											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											



## 科学哲学科学史(特殊講義)(2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### (関連URL)

[www.kitalab.org/KyotoUnivLecture/index.html](http://www.kitalab.org/KyotoUnivLecture/index.html) ((詳しい授業計画や参考資料。オリエンテーションでパスワード等を周知する。))

### [授業外学習(予習・復習)等]

授業で言及する文献の一部については、予習して参加することが望ましい。

### (その他(オフィスアワー等))

詳しくは授業用ウェブサイトから指示する。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 3 5

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	日本大学 生産工学部 准教授 北島 雄一郎					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	量子力学における実在と非局所性										
【授業の概要・目的】											
この授業の目的は、量子力学において概念的に重要な問題があることを、哲学系の学生に知ってもらうことである。数学や量子力学の予備知識は仮定しない。はじめに量子力学における概念的問題を論じるために必要な数学を述べる。その後、実在と非局所性に関する、量子力学における概念的問題を考えていく。											
【到達目標】											
量子力学における哲学的問題に関して論じた文献を、自力で読むことができるようになる。											
【授業計画と内容】											
1 数学的準備（2行2列や3行3列の行列など） 2 アインシュタイン・ポドルスキー・ローゼン（EPR）の議論 3 ベルの不等式 4 コッヘン・シュペッカーの定理 5 EPRに対するボアの反論											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポート：100%											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
（参考書） Jeffrey Bub 『Interpreting the Quantum World』（Cambridge University Press）ISBN:052165386X											
【授業外学習（予習・復習）等】											
予習：事前に配布するプリントに目を通す。 復習：授業中に紹介した文献を読んでみる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 3 6

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 児玉 聡					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	規範倫理学1										
【授業の概要・目的】											
普段から倫理理論や原則に従って意識的に行動している人は少ないかもしれないが、本講義で受講生は功利主義や義務論といった規範的な倫理理論およびいわゆる応用倫理学における規範的な議論について学び、批判的に検討することを通じて、規範理論の基礎的知識を身に付けるとともに、体系的な倫理的思考を行うにあたっての基礎的能力を身に付ける。											
【到達目標】											
現代倫理学の基本をなす功利主義や義務論の立場の要点を理解し、その視点から現代社会の諸問題を吟味し、考察することができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【 】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本講義の視座と問題意識【2週】</li> <li>2. 加藤尚武『バイオエシックスとは何か』の検討【5～6週】 功利主義(批判), 世代間倫理, 安楽死</li> <li>3. 加藤尚武『現代倫理学入門』の検討【7～8週】 カント倫理学(批判), ロールズ正義論</li> </ol> <p>フィードバック方法は授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポート試験の成績(70%) 平常点評価(30%) 平常点評価は毎回の出席と積極的な発言、テキストの概要の発表を含む。											
【教科書】											
加藤 尚武 『バイオエシックスとは何か』(未来社) ISBN:4624010825 加藤 尚武 『現代倫理学入門』(講談社) ISBN:406159267X											
【参考書等】											
(参考書) 加藤尚武 『脳死・クローン・遺伝子治療』(PHP新書) ISBN:4569607144											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 科学哲学科学史(特殊講義)(2)

加藤尚武 『応用倫理学入門』（晃洋書房）ISBN:47710127079

加藤尚武・飯田巨之編 『バイオエシックスの基礎』（東海大学出版会）ISBN:4486009932

児玉 聡 『功利主義入門』（ちくま書房）ISBN:4480066713

児玉 聡 『功利と直観』（勁草書房）ISBN:4326154136

### [授業外学習（予習・復習）等]

本年度は加藤尚武のテキストを中心に検討するので、参考書に挙げた関連文献も含めて読んでおくことが望ましい。

### （その他（オフィスアワー等））

授業中はディスカッションの時間を取れるように工夫するので積極的に参加すること。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 3 7

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 児玉 聡					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	規範倫理学2										
【授業の概要・目的】											
規範倫理学1で学んだ知識を基礎に、さらに規範理論の批判的検討を行なう。本講義を通じて受講生は、今日的な問題を考える際に体系的な倫理学の知識を当てはめて考えると同時に、さまざまな規範理論の意義と問題点に関する理解を深める。											
【到達目標】											
現代倫理学の基本をなす功利主義や義務論の立場の要点を理解し、その視点から現代社会の諸問題を吟味し、考察することができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【 】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。											
<p>1.本講義の視座と問題意識【2週】</p> <p>2.加藤尚武『環境倫理学のすすめ』の検討【5~6週】 自然の生存権, 世代間倫理, 地球全体主義</p> <p>3.加藤尚武『応用倫理学のすすめ』の検討【7~8週】 他者危害の原則, アファーマティヴ・アクション</p> <p>フィードバック方法は授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
前期の規範倫理学Iを受講していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポート試験の成績(70%) 平常点評価(30%) 平常点評価は毎回の出席と積極的な発言、テキストの概要の発表を含む。											
【教科書】											
加藤尚武『環境倫理学のすすめ』(丸善出版)ISBN:462105032X 加藤尚武『応用倫理学のすすめ』(丸善出版)ISBN:4621051253											
【参考書等】											
(参考書) 加藤尚武編『環境と倫理』(有斐閣)ISBN:4641122660 加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』(丸善出版)ISBN:4621053736											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

加藤尚武 『現代を読み解く倫理学』（丸善出版）ISBN:4621051962

**[授業外学習（予習・復習）等]**

本年度は加藤尚武のテキストを中心に検討するので、参考書に挙げた関連文献も含めて読んでおくことが望ましい。

**（その他（オフィスアワー等））**

講義中にディスカッションの時間が取れるよう工夫するので、積極的な参加を求める。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 林 晋					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	I T と哲学の相即										
【授業の概要・目的】											
<p>IT(情報技術)は社会を根底から変えつつある。そのため人文社会学の様々な分野で「社会と情報技術」や「人間と情報技術」の問題が検討され議論されている。たとえば情報社会論、情報倫理学、情報の哲学などである。これらは、人文社会学の諸学が、その学問の立場の中からITという新しい技術的・社会的存在を理解するものである。一方で、WEB登場後には、IT技術者が、自分たちが持つ技術により社会の根幹を変革できるという希望と期待が生まれた。その典型は、Google社の活動に見ることができる。これはITという技術からの社会への働きかけである。</p> <p>本講義の目的は、このどちらの立場とも異なり、これらの反対方向の二つの「現象」の背後にある「形而上学的仕組み」とでもいべきものの存在を明らかにすることである。それは、何故ITは他の技術に比べて容易に「社会的」になってしまうのかの理由を、哲学とITの構造的類似性の観点から説明しようという試みである。取り上げるテーマは、プラトン・アリストテレス形而上学とオブジェクト志向アーキテクチャから、マックス・シェーラーの実質倫理学とGoogle検索、西谷啓治の回互的連関とNFSネットワーク・ファイル・システムなどであり、これらの構造的な類似性をITと哲学の双方の概念を説明し、また、関連付けることにより明らかにする。</p>											
【到達目標】											
人文学からの技術論、テクノロジーからの社会変革論などには、しばしば、それぞれの分野の観点のみから、異質なものを理解しようとする一面的な思考が見られる。その一面性に陥らないような視点を養うことを目的とする。											
【授業計画と内容】											
次の項目をそれぞれ2-3回講義する。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.導入：様々な情報社会論・情報技術論とIT社会変革運動</li> <li>2.存在：プラトン・アリストテレスの形而上学とJava言語（オブジェクト志向）</li> <li>3.連続：西谷の回互とNFS 京都学派とITの相即の理由</li> <li>4.倫理：シェーラーの実質倫理学とGoogle Page Rank</li> <li>5.現存在：HCI(Human Computer Interaction)が「存在と時間」をモデルにする理由</li> <li>6.Umwelt:ユクスキュルの環世界(Umwelt)とロボット工学</li> <li>7.他の思想・研究との比較：L. Floridi The 4th Revolution など。</li> </ol>											
項目のオーダーは、この通りではない。たとえば、7は1の導入の後に行う可能性も高い。											
各項目とも、哲学とITの基本的知識の解説を行い、その上で、両者を結び付ける。できれば、どちらかの知識を持っていると理解に助けになるが、基本的にはどちらも知らなくても理解できるように講義する。											
また、各講義の終わりに5分ほど時間を取り、質問票に質問を書いてもらい、次回の冒頭に、それに答える。											
----- 科学哲学科学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義) (2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点及び達成度】**

レポートにより採点する。

**【教科書】**

使用しない

教科書は使わないが、毎回、詳細な講義資料を作成し、それを講義のサイトで公開する。

**【参考書等】**

(参考書)

授業中に紹介する

**【授業外学習(予習・復習)等】**

基本事項から説明するが、項目が多いので、各自、講義資料、講義中に紹介する参考文献などでの復習が必要である。参考文献は講義のためのサイトに掲示する。

**(その他(オフィスアワー等))**

KULASIS以外に講義用のサイトを開設し、講義資料、参考文献などを掲示する。そのサイトのURLは最初の講義の際に伝える。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。



基礎現代文化学系 3 9

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊藤 和行					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	ダーウィンの進化論 『種の起源』を読む										
【授業の概要・目的】											
進化論は、現代生物学において重要な領域の一つであり、科学史のみならず、科学哲学においても常に話題となっているテーマである。とりわけ近代の本格的な理論的進化論の創始者ダーウィンの進化論は、現代生物学にも大きな影響を与え続けていると言えよう。このダーウィンの理論を歴史的な文脈において理解することは、現代生物学を歴史的および哲学的文脈において論じる上で重要である。											
【到達目標】											
授業では『種の起源』（The Origin of Species, 1859）を、自然選択説を論じた部分を中心に精読することによって、彼の進化理論について理解を深める。また生物学の歴史および哲学において中心的問題の一つである進化論の基本的な用語や概念を理解する。											
【授業計画と内容】											
『種の起源』は全14章から構成される、かなり大きな著作である。演習では、とくに自然選択説の議論が展開されている第4章を、主として第1版をテキストとして読解を行うが、必要に応じて、第2版以降との内容の異同についても検討し、彼の進化論についての理解を深める。授業の最初に進化論の概要と歴史的発展、ダーウィンの人生と業績について概括する。毎回適当な分量を出席者に翻訳してもらい、教員が説明を行う形で授業を進める。読解の際には必要に応じて、大幅な改訂が行われたことが知られている第6版（1872）との内容の異同についても検討していく。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（出席および発表，レポート）によって評価する。											
【教科書】											
授業で使用するテキストは、担当教員が準備して配布する。 『種の起源』原典のpdfファイルはウェブ上でダウンロード可能である。 Darwin Online ( <a href="http://darwin-online.org.uk/">http://darwin-online.org.uk/</a> )											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
授業前に、必ずテキストの該当部分を読解し、疑問点等をまとめておくこと。 テキストは19世紀中頃のものであるので、予習の際には、十分に時間を掛けて精読することが不可欠である。											
（その他（オフィスアワー等））											
特になし。											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 4 0

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊勢田 哲治					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	イメージと論理：ギャリソンの科学哲学										
【授業の概要・目的】											
<p>ピーター・ギャリソンの『イメージと論理:ミクロ物理学の物質文化』(1997)は重厚な事例研究に裏打ちされながら、物理学内部におけるさまざまなローカルな文化の存在と、その相互関係について哲学的な考察を行った著作であり、交易圏(trading zone)という独自の概念を提案したことで知られる。本書の重要性はよく認識されるべきところでありながら、大部でテクニカルな内容のため、具体的な内容が検討されることは少ない。この授業では、いくつかの箇所を抜粋して読んでいくことで、ギャリソンの問題意識とプロジェクトの全体像を大づかみにすることを旨とする。</p>											
【到達目標】											
<p>ピーター・ギャリソンの哲学的立場と事例研究を理解し、その議論を批判的に検討できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に一回の授業でテキスト15ページ程度を読み、それについてディスカッションする形です。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する(担当者は事前に決めておく)。詳しくは授業開始時に連絡するが、Galison 1997 の第1章、第9章のほぼ全体と、他の各章の結論部分を主に読んでいく。</p> <p>フィードバックについては授業内で指示する。</p>											
【履修要件】											
<p>特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』(岩波書店)は全体を読み理解しておくことが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。 発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかどうかを評価基準になる。</p>											
【教科書】											
<p>P. Galison (1997) Image and Logic: A Material Culture of Microphysics. The University of Chicago Press. 実際に読む箇所を授業内で配布</p>											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

(その他(オフィスアワー等))

水曜 15:00 -16:30の時間をオフィスアワーとする予定。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 4 1

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊勢田 哲治					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	科学の不統一性										
【授業の概要・目的】											
<p>「統一科学」は論理実証主義のスローガンの一つであり、科学の進むべき方向の一つのイメージとしてさまざまな科学分野が橋渡しされ、統一されていくことが目標とされた。そのスローガンが過去のものになってからも、科学哲学は暗黙のうちに科学を一枚岩のものにとらえ、「科学一般」を扱う研究を行ってきた。しかし、1990年代には、科学の多様性と、その多様性を踏まえた新しい科学の諸分野の関わりのありかたが問題となるようになってきた。今回の演習ではその運動の中心となったアンソロジー『科学の不統一性』の論文などを読み、科学の諸分野の関係について一緒に考えたい。</p>											
【到達目標】											
科学の不統一性という問題について科学哲学の中でどのような議論が行われているか理解し、それらの議論を批判的に検討できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に一回の授業でテキスト15ページ程度を読み、それについてディスカッションする形です。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。現時点ではテキスト中の以下のような論文を読むことを想定しているが、詳しくは受講生の興味に応じて決定する。</p> <p>J. Cat “unity of science” stanford encyclopedia of philosophy  <a href="http://plato.stanford.edu/entries/scientific-unity/">http://plato.stanford.edu/entries/scientific-unity/</a>          I.Hacking “The disunity of science”          A.I. Davidson “Styles of reasoning, conceptual history and the emergence of psychiatry”          J. Dupre “Metaphysical disorder and scientific disunity”          R. Creath “The unity of science: Carnap, Neurath and beyond”</p> <p>フィードバックについては授業内で指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。          発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかどうかを評価基準になる。</p>											
【教科書】											
<p>Galison and Stump (1996) The Disunity of Science. Stanford University Press.          授業に使用する部分を配布</p>											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

**(その他(オフィスアワー等))**

水曜 15:00 -16:30の時間をオフィスアワーとする予定。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 4 2

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史（卒論演習Ⅰ） Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊勢田 哲治					
配当 学年	4回生のみ	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	科学哲学科学史セミナー										
【授業の概要・目的】											
科学史および科学哲学における，基礎的な知識の理解を向上させるとともに，近年の研究動向についての知識を得る． それらを基盤として，卒業論文の作成に必要な基礎的な力を養う．											
【到達目標】											
科学哲学・科学史の基礎知識を向上させるとともに、論文作成のための基礎的な力を身につける											
【授業計画と内容】											
授業に出席する各学生に研究の進行状況を報告してもらい，研究テーマの設定，先行研究についての理解などについて個別に指導を行う． 発表順や具体的な発表課題・内容等については，出席学生と担当教員とで相談をして決める．											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（出席および発表等）によって評価する											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） なし											
【授業外学習（予習・復習）等】											
発表担当時の準備、その他授業外作業がある場合は適宜指示する。											
（その他（オフィスアワー等））											
なし											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 4 3

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史（卒論演習Ⅱ） Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊勢田 哲治 文学研究科 教授 伊藤 和行					
配当 学年	4回生のみ	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	科学哲学科学史セミナー										
【授業の概要・目的】											
科学史および科学哲学における，基礎的な知識の理解を向上させるとともに，近年の研究動向についての知識を得る． それらを基盤として，卒業論文の作成に必要な基礎的な力を養う．											
【到達目標】											
科学哲学・科学史の基礎知識を向上させるとともに，論文作成のための基礎的な力を身につける											
【授業計画と内容】											
授業に出席する各学生に研究の進行状況を報告してもらい，研究テーマの設定，先行研究についての理解などについて個別に指導を行う． 発表順や具体的な発表課題・内容等については，出席学生と担当教員とで相談をして決める．											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（出席および発表等）によって評価する											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） なし											
【授業外学習（予習・復習）等】											
発表担当時の準備、その他授業外作業がある場合は適宜指示する。											
（その他（オフィスアワー等））											
なし											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 林 晋					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	I T と哲学の相即										
[授業の概要・目的]											
<p>IT(情報技術)は社会を根底から変えつつある。そのため人文社会学の様々な分野で「社会と情報技術」や「人間と情報技術」の問題が検討され議論されている。たとえば情報社会論、情報倫理学、情報の哲学などである。これらは、人文社会学の諸学が、その学問の立場の中からITという新しい技術的・社会的存在を理解するものである。一方で、WEB登場後には、IT技術者が、自分たちが持つ技術により社会の根幹を変革できるという希望と期待が生まれた。その典型は、Google社の活動に見ることができる。これはITという技術からの社会への働きかけである。</p> <p>本講義の目的は、このどちらの立場とも異なり、これらの反対方向の二つの「現象」の背後にある「形而上学的仕組み」とでもいうべきものの存在を明らかにすることである。それは、何故ITは他の技術に比べて容易に「社会的」になってしまうのかの理由を、哲学とITの構造的類似性の観点から説明しようという試みである。取り上げるテーマは、プラトン・アリストテレス形而上学とオブジェクト志向アーキテクチャから、マックス・シェーラーの実質倫理学とGoogle検索、西谷啓治の回互的連関とNFSネットワーク・ファイル・システムなどであり、これらの構造的な類似性をITと哲学の双方の概念を説明し、また、関連付けることにより明らかにする。</p>											
[到達目標]											
人文学からの技術論、テクノロジーからの社会変革論などには、しばしば、それぞれの分野の観点のみから、異質なものを理解しようとする一面的な思考が見られる。その一面性に陥らないような視点を養うことを目的とする。											
[授業計画と内容]											
次の項目をそれぞれ2-3回講義する。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.導入：様々な情報社会論・情報技術論とIT社会変革運動</li> <li>2.存在：プラトン・アリストテレスの形而上学とJava言語（オブジェクト志向）</li> <li>3.連続：西谷の回互とNFS 京都学派とITの相即の理由</li> <li>4.倫理：シェーラーの実質倫理学とGoogle Page Rank</li> <li>5.現存在：HCI(Human Computer Interaction)が「存在と時間」をモデルにする理由</li> <li>6.Umwelt:ユクスキュルの環世界(Umwelt)とロボット工学</li> <li>7.他の思想・研究との比較：L. Floridi The 4th Revolution など。</li> </ol>											
項目のオーダーは、この通りではない。たとえば、7は1の導入の後に行う可能性も高い。											
各項目とも、哲学とITの基本的知識の解説を行い、その上で、両者を結び付ける。できれば、どちらかの知識を持っていると理解に助けになるが、基本的にはどちらも知らなくても理解できるように講義する。											
また、各講義の終わりに5分ほど時間を取り、質問票に質問を書いてもらい、次回の冒頭に、それに答える。											
----- 情報・史料学(特殊講義)(2)へ続く -----											



情報・史料学(特殊講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点及び達成度】**

レポートにより採点する。

**【教科書】**

使用しない

教科書は使わないが、毎回、詳細な講義資料を作成し、それを講義のサイトで公開する。

**【参考書等】**

(参考書)

授業中に紹介する

**【授業外学習(予習・復習)等】**

基本事項から説明するが、項目が多いので、各自、講義資料、講義中に紹介する参考文献などでの復習が必要である。参考文献は講義のためのサイトに掲示する。

**(その他(オフィスアワー等))**

KULASIS以外に講義用のサイトを開設し、講義資料、参考文献などを掲示する。そのサイトのURLは最初の講義の際に伝える。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 4 5

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 林 晋					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	京都学派、ある思想の系譜 2 : 西田幾多郎、田辺元、西谷啓治										
【授業の概要・目的】											
<p>2014年度後期と同じテーマであるが、2014年度には十分議論ができなかった西田哲学の田辺哲学、西谷哲学への影響に重点を置いて講義を進める。</p> <p>西田幾多郎と田辺元、西田幾多郎と西谷啓治が比較議論されることは多い。しかし、田辺と西谷というテーマは、今まで、殆んど取り上げられることがなかった。しかし、この二人は、ドイツに留学して同じハイデガーに師事し、その後、ハイデガー哲学との対峙が、その哲学の重要な柱となったという共通点をもち、個人的にも非常に近い関係にあったことが知られている。この二人の間に哲学的関係性がないと想定することは奇妙なことである。</p> <p>それにも拘わらず、この二人の対比が成されなかった理由は、この両者の哲学が表面上は「対立しているからであろう。田辺哲学と西谷哲学は一見大きく異なるが、実はその関係は表・裏の関係にある。種の論理の研究に当時の数学基礎論の連続体論が大きな役割を果たしていたように、田辺哲学は「数理を中心とする自然科学と切り離せない哲学」という新カント派マールブルグ学派的性格をもつ。一方で、西谷哲学の柱の一つは、自然科学的世界観がもたらす価値体系の喪失を主題とするニヒリズム論である。</p> <p>これだけを見れば、両者は水と油といえるのであるが、この田辺哲学の「数理哲学的性格」を西谷が誰よりも深く理解していたことを考慮すれば、実は、この水と油の関係が、表と裏の関係として見えてくるのである。</p> <p>例えば、西谷の「回互構造」は、局所的にみれば、田辺の種の論理における「切断構造」に形態的に非常に近い。しかし、大域的にみれば、西谷では、田辺の種を中心とする「種と個」のトポロジーが、回互という対等な関係に置き換えられることにより「中心」が消される。この様に解釈すれば、西谷哲学の多くは田辺哲学の裏返しとして理解することさえできるのである。</p> <p>講義では、この様な田辺、西谷の関係を、両者に大きな影響を与えた西田哲学、特に、不連続の連続、一般者の自己限定、述語的論理主義などの思想、そして、西田とともに両者の師でありかつ乗り越えるべきものであったハイデガー哲学との対比を通して分析する。</p>											
【到達目標】											
日本哲学の研究は哲学・哲学史の立場からのみ研究されるのが通常であるが、この講義では思想史という歴史学の観点から、哲学を理解する方法を理解することを目標とする。											
【授業計画と内容】											
次の項目を、それぞれ 1-3 回講義する。ただし、B, C を分離せず、Aの一部にすることもある。											
<p>A. 導入部</p> <p>A0. 西谷哲学：ニヒリズム論と回互・空の思想を中心として。</p> <p>A1. 田辺哲学：種の論理以後を中心として。</p> <p>A2. 西田哲学：不連続の連続、述語的論理主義、一般者の自己限定について。</p> <p>A3. 田辺・西谷哲学における西田の影響</p> <p>A4. 田辺・西谷哲学におけるハイデガーの影響。</p> <p>A5. 歴史的背景：新カント派からハイデガー後期哲学まで。</p>											
----- 情報・史料学(特殊講義)(2)へ続く -----											

情報・史料学(特殊講義)(2)

B. 分析部

B1. 田辺の切断と西谷の二つの部屋：局所構造

B2. 回互と個・種・類のトポロジーと西田哲学：大域構造

B3. 世界思想史的背景：パース、ベルグソンの「連続論」

C. 総合部

C1. 西田・田辺・西谷を貫く「一つの伝統」は見いだせるか。

毎回最後の5分程度に質問票を書いてもらう時間をとる。次回に、その主なものに答える。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

期末レポートを実施し、それにより採点する。

【教科書】

使用しない

教科書は使わないが、毎回、詳細な講義資料を作成し、それを講義のサイトで公開する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

基本事項から説明するが、項目が多いので、各自、講義資料、講義中に紹介する参考文献などでの復習が必要である。参考文献は講義のためのサイトに掲示する。

(その他(オフィスアワー等))

KULASIS以外に講義用のサイトを開設し、講義資料、参考文献などを掲示する。そのサイトのURLは最初の講義の際に伝える。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 4 6

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	情報学研究科 教授 鹿島 久嗣					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	アルゴリズムとデータ構造入門										
[授業の概要・目的]											
<p>コンピュータのプログラムは具体的な計算の手続きであるアルゴリズムと、これらが処理する情報を適切に管理するデータ構造から構成される。</p> <p>本講義では、アルゴリズムやデータ構造の基本的な考え方やその具体的な設計法、またコンピュータサイエンスにおける重要な概念について学ぶ。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計算機の数理的モデルと、計算量の概念について理解する</li> <li>・ 基本的なアルゴリズムと基本的なデータ構造について理解する</li> <li>・ 分割統治法や動的計画法などのアルゴリズムの設計法について理解する</li> <li>・ グラフアルゴリズム、乱択アルゴリズム、近似アルゴリズムの基本的事項について理解する</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計算機のモデル</li> <li>・ 基本アルゴリズム（ソート、検索）</li> <li>・ 基本データ構造（リスト、スタック、キュー、二分探索木、ヒープ、ハッシュ）</li> <li>・ アルゴリズムの設計法（分割統治法、動的計画法）</li> <li>・ グラフアルゴリズム（深さ・幅優先探索、最短路、最大流）</li> <li>・ 計算複雑度（P、NP、NP完全、NP困難）</li> <li>・ 乱択アルゴリズム、近似アルゴリズム</li> </ul>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
試験 70 点（持ち込みなし）、レポート 30 点											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） なし											
[授業外学習（予習・復習）等]											
特に設けない											
（その他（オフィスアワー等））											
面談が必要な場合にはメールで予約を行ってください。											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	京都産業大学 経済学部 教授 小田 宗兵衛					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	実験経済学：ゲーム理論の体験的入門と人文社会科学における経済実験の可能性										
[授業の概要・目的]											
<p>本講義は、実験経済学の体験的入門講座である。  講義の目標は、(1) 経済実験の体験と分析を通じて経済学の思考と方法について基礎的理解を得ることと、(2) 経済学に限らず人文社会科学における新たな実験研究の可能性を考察することである。</p> <p>(1) 経済は多くの意思決定主体からなる体系であり、実験経済学は、各主体の意思決定と体系全体の挙動を調べるために、ゲーム（経済実験）を作って人間にプレイさせ、結果を経済理論に照らして分析する。</p> <p>(2) 経済実験は、人間の意思決定と人間を要素とする体系の挙動を知るための有力な方法であり、他の分野の研究にも応用可能である。  これについて担当者の展望を述べる。  具体的には、人間だけでなく計算機エージェントを意思決定者とする実験、自然な環境での実験室外実験、意思決定時の脳活動の観測に基づく神経経済学などに言及するとともに、人文社会科学における新たな実験研究の可能性として、英語圏で盛んになりつつある哲学実験を経済実験にする担当者の試みを述べる。</p>											
[到達目標]											
<p>(1) 受講者は、経済実験に被験者として参加するとともに、実験者として実験結果の分析に当る。これによって、経済を二重に---体系内の個々の意思決定者の視点からと体系外の全体の観察者の視点から---理解できるだろう。</p> <p>(2) 上の経験と学習のなかで、受講者は、ミクロ経済学とゲーム理論の基礎的知識と基本的方法を習得するとともに、概念の観察可能性、理論の反証可能性、主体の計算能力、意思決定における自己言及や体系からの脱出など、経済学をめぐる様々な方法論的考察を深めるとともに、各々の専門分野における実験研究の理解を深められるだろう。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1講から第9講までは、授業時間の前半に実験を実施し、後半の実験の解説をする。  実験の内容を具体的に述べると実験結果に影響する恐れがあるので実験の詳細を述べないが、実験は実験経済学とゲーム理論を効率よく学べるように配置される。</p> <p>第1講義：経済理論の基本を理解するための実験と実験経済学の解説。  第2講義：ゲーム理論の基本を理解するための実験と解説。  第3講義：動学ゲーム理論の基本を理解するための実験と解説。  第4講義：繰り返しゲームの基本を理解するための実験と解説  第5講義：進化ゲームの基本を理解するための実験と解説  第6講義：共有知識を理解するための実験と解説</p>											
情報・史料学(特殊講義)(2)へ続く											

## 情報・史料学(特殊講義)(2)

第7講義：期待利得の最大化を理解するための実験と行動経済学の解説

第8講義：時間選好と不確実性下での意思決定を理解するための実験と神経経済学の解説

第9講義：副作用効果を理解するための実験と実験哲学の解説

第10講義からは以上の実験を参考にしつつ、講義と受講者の発表を組みあわせる。

受講者の関心に応じて内容と方法が変更されるかもしれないが、現時点での講義計画は以下の通りである。

第10講義：ゲーム理論のまとめ

第11講義：ミクロ経済学のまとめ

第12講義：近代経済学史（効用について）

第13講義：近代経済学史（経済学の数学化と科学化について）

第14講義：社会科学における実験（心理学と経済学）

第15講義：社会科学における実験（哲学と経済学）

第16講義：フィードバック

### 【履修要件】

受講者の多くは経済学を専門としない諸君であろうから、経済学の知識を前提にしない。経済あるいは経済学に興味のある人も、自分の専門や興味から遠いと感じる人も歓迎する。自分の専門から離れたことを楽しむつもりで参加してもらえばよい。経済実験をするためには、ある程度の人数が必要なので、気楽に受講してほしい。

もちろん熱心に勉強したいという受講者には、京都産業大学の経済実験室での実験の便宜を含め、支援をする。

### 【成績評価の方法・観点及び達成度】

レポートのできに応じて評価する予定。

### 【教科書】

使用しない

参考文献については、授業中に指示する。

### 【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

### 【授業外学習（予習・復習）等】

授業中に参考文献を示すので、それに従って予習と復習をすることが望まれる。

それぞれの専門の勉強に配慮して、過大な負担をかけないように配慮する。

情報・史料学(特殊講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

経済実験に興味のある受講生には、京都産業大学の経済実験室での実験の便宜をはかります。(受講すべきかどうかも含めて)相談があれば、気楽にoda@cc.kyoto-su.ac.jpにメールを送ってください。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 4 8

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	関西大学 総合情報学部 教授 喜多 千草					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	「情報技術と戦争」について考える										
【授業の概要・目的】											
この講義では、戦争と技術の関わりについて、コンピューティング史の観点から考察する。 具体的には、第二次世界大戦中のデジタルコンピュータの開発や暗号解読、冷戦時の全米防空網の構築からコンピュータ・ネットワークの開発などの諸問題を取り上げる。これにより、受講生はコンピューティング史のアプローチを学び、過去の経緯・帰結が現在のありようにどのように影響してきたかについて理解を深めることになるだろう。											
【到達目標】											
コンピューティング史の文献の扱い方の基本を学び、戦争と技術の関わりについて研究するための視点を得る。											
【授業計画と内容】											
授業概要（各項目について1～3回程度の授業を行う）											
授業概要（各項目について1～3回程度の授業を行う） オリエンテーション Giant Brainの構築 暗号解読と計算機 人間機械混成系という概念 全米防空網SAGE 航空宇宙開発と計算機 コンピュータ・ネットワークの発展 まとめ・フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点による（授業でのディスカッションなどと学期末のレポート）。											
【教科書】											
適宜、授業内にプリント配布、およびウェブサイトに資料をアップロードなどする。											
----- 情報・史料学(特殊講義)(2)へ続く -----											



情報・史料学(特殊講義)(2)

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

(関連URL)

[www.kitalab.org/KyotoUnivLecture/index.html](http://www.kitalab.org/KyotoUnivLecture/index.html)( ( 詳しい授業計画や参考資料。オリエンテーションでパスワード等を周知する。 ) )

**[授業外学習(予習・復習)等]**

授業で言及する文献の一部については、予習して参加することが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

詳しくは授業用ウェブサイトから指示する。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	関西大学 総合情報学部 教授 研谷 紀夫					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	Digital Heritageの展開と視覚資料										
[授業の概要・目的]											
<p>現在様々な文化資源や歴史史料をデジタル化した、デジタルアーカイブやデジタルミュージアム、デジタルライブラリーが多数公開されていますが、これらは海外においてはDigital Cultural HeritageやDigital Heritageなどと総称されています。(以下Digital Heritageと表記)。こうしたコンテンツは、図書館(Library)、博物館(Museum)、文書館(Archives)の他に、大学(University)、企業&amp;各種機関(Industry &amp; Institute)などによって担われていますが、近年ではこれらの機関の頭文字をとったMALUI連携によって、コンテンツの横断検索や、各種規格の標準化が模索されています。</p> <p>また、こうしたDigital Heritageによって、図書や文書といった活字資料の他に、絵画、写真、ポスター、絵葉書、映像などの視覚資料が多く公開されており、このような視覚資料を人文学研究にどのように活用していくかが、改めて課題となっています。本講では前半において、これらのDigital Heritage公開の状況や、標準化の進展、さらにMALUI連携の現状などを理解した上で、後半においては各種Digital Heritageに納められた視覚資料が、建築・景観、美術・服飾、地域・家族、メディアなどを対象とした諸分野の研究の中で、どのように活用されるかを考察します。その上で、Digital Heritageの役割と課題を考察していきます。</p>											
[到達目標]											
文化資源をデジタル化して公開するDigital Heritageの現状を学んだ上で、それらのコンテンツに納められた視覚資料が各種の人文科学の研究にどのような影響を与えるかについて学び、考えることを目標とします。そして、講義が一通り終了した後は、自らDigital Heritageを利用し、資(史)料批判を行いながら、視覚資料などを研究に活用していく素養を身に付けることを目標とします。											
[授業計画と内容]											
第01講：Digital Heritageの歴史 第02講：Digital HeritageとLibrary 第03講：Digital HeritageとMuseum 第04講：Digital HeritageとArchives 第05講：Digital Heritageとメディア産業 第06講：Digital HeritageとMALUI連携 第07講：Digital Heritageと標準化 第08講：Digital Heritageと視覚資料1(建築史・景観研究の視点から) 第09講：Digital Heritageと視覚資料2(美術・服飾史の視点から) 第10講：Digital Heritageと視覚資料3(地域・家族の歴史を研究する視点から) 第11講：Digital Heritageと視覚資料4(メディア史の視点から) 第12講：Digital Heritageと視覚資料5(写真史の視点からI) 第13講：Digital Heritageと視覚資料6(写真史の視点からII) 第14講：歴史・文化研究におけるDigital Heritageの活用とその課題 第15講：まとめ											
----- 情報・史料学(特殊講義) (2)へ続く -----											

情報・史料学(特殊講義) (2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点及び達成度】**

- ・ 出席（30点）とレポート（70点）により評価する。
- ・ 4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。
- ・ レポートは全回提出を必須とする。
- ・ 独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。

**【教科書】**

授業中に指示する

**【参考書等】**

（参考書）

研谷紀夫 『デジタルアーカイブにおける「資料基盤」統合化モデルの研究』（勉誠出版）ISBN: 4585104429

ピーターバーク 『時代の目撃者 資料としての視覚イメージを利用した歴史研究』（中央公論美術出版）ISBN:4805505486

**【授業外学習（予習・復習）等】**

あらかじめ示した内容について予習し、授業後に課題が提示された場合は提出すること。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 5 0

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 吉田 純					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	情報ネットワーク社会論										
【授業の概要・目的】											
ハーバーマス、ギデنز、ベック、ルーマンらの社会理論を枠組として、インターネット空間を中心とした情報ネットワーク社会の諸問題について考察する。											
【到達目標】											
現代の情報ネットワーク社会の諸問題について、社会学を中心とした学術的観点から理解する。											
【授業計画と内容】											
以下の順序で、各項目について1～3回の講義をおこなう。 1 情報ネットワーク社会への視点 2 日本社会における 情報化 3 アメリカ社会における 情報化 4 CMC空間の展開 5 再帰的近代化としての 情報化 6 生活世界のリアリティの再編成 7 監視社会論 8 リスク社会論 9 社会空間の再編成 10 親密圏・公共圏の再編成											
【履修要件】											
社会学関係の全学共通科目または学部での概論科目を履修していることが望ましい											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
素点(100点満点)で評価する。 ・平常点(30点)+期末レポート(70点) ・平常点は、PandAまたはTwitterを用いた課題(中間レポートを含む)の提出による											
【教科書】											
使用しない											
----- 情報・史料学(特殊講義)(2)へ続く -----											

情報・史料学(特殊講義)(2)

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

- ・毎回の授業資料を、前日午前中までにPandAの「リソース」にアップロードするので、あらかじめダウンロードし、予習しておくこと。
- ・TwitterおよびPandAの「フォーラム」を、授業前・授業中・授業後の質疑応答・感想等の提出に利用するので、積極的に活用すること。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 5 1

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	情報学研究科 教授 情報学研究科 助教		五十嵐 淳 馬谷 誠二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	Java言語を使った計算機プログラミングへの入門										
【授業の概要・目的】											
この講義では、計算機プログラミングの基本的な概念と技法について学びます。プログラミング言語 Java を使い、マウスの動きやクリックに反応して様々な動作を行うプログラムを実際に作成することで、プログラミングの本質である抽象化や、計算機科学に欠かせない再帰といった概念を習得します。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>- 手続きや状態，その組合せであるオブジェクトを使ったシステムの抽象化の概念と技法を習得</li> <li>- イベント駆動プログラミングの概念と技法を習得</li> <li>- 再帰の概念と再帰を利用したプログラミング技法の習得</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要 (1週) プログラミングとは何かについて講述する。</li> <li>2. イベント駆動プログラミング (2週) マウスの動きやクリックに反応する簡単なインタラクティブ・プログラムの作成を通じて、イベント駆動プログラミングの基本，メソッド，インスタンス変数について学ぶ。</li> <li>3. 基本的データと条件分岐 (2-3週) 数値，文字列，浮動小数点数などの基本的なデータ型，真偽値を使った条件分岐について学ぶ。</li> <li>4. クラスとインターフェース (2-3週) クラスを使った複合的なデータ構造の表現と，インターフェースによる実装の隠蔽・抽象化について学ぶ。</li> <li>5. 制御構造とアクティブオブジェクト (2-3週) プログラムのループ構造，並行動作を行うアクティブオブジェクトについて学ぶ。</li> <li>6. 再帰 (2-3週) 再帰的なデータ構造の表現と，再帰的な処理について学ぶ。</li> <li>7. 学習到達度の評価 (1週)</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末試験とプログラミング演習についての数回のレポート											
----- 情報・史料学(特殊講義) (2)へ続く -----											

情報・史料学(特殊講義) (2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)

Kim B. Bruce, Andrea Pohoreckyj Danyluk, Thomas P. Murtagh 『Java: An Eventful Approach』 (Pearson Education, Inc.) ISBN:9780131424159

**[授業外学習(予習・復習)等]**

配布資料の予習とプログラミング課題による復習

(その他(オフィスアワー等))

当該年度の受講生の理解度に応じて一部省略，追加がありうる．

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 5 2

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(演習) Humanistic Informatics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 林 晋					
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2015・ 通年	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	歴史学的・社会的に読む										
【授業の概要・目的】											
現代の状況を歴史学的方法、特に歴史社会学・思想史の方法で読むことを演習を通して学ぶ。											
<p>目標は、現在を、現在の状況だけで理解せず、その由来・来歴も考慮に入れて理解する力を養うこと。自然科学や自然科学的社会科学が注目する対象とは異なり、我々が現実社会の中で経験するイベントの多くは時空を超える普遍的法則だけでは説明できない。その背景に、社会というコンテキストと、当時に歴史・文化というコンテキストがあり、我々が棲む「その歴史」は唯一のものだからである。</p> <p>たとえば現代のIT（情報技術）や情報社会の思想・現象でさえ、歴史的コンテキストを探れば、そのルーツが哲学、経済、政治、数学・自然科学、心理学などに見いだされ、たとえば、アダム・スミスの「国富論」の分業思想のチャールズ・バベッジへの影響のように、ルーツを数世紀も遡れる場合さえ珍しくない。</p> <p>現代を理解するには、このような視点が欠かせない。その視点・手法を学ぶのが、この演習の目的である。</p>											
【到達目標】											
現代の状況を歴史学的方法、特に歴史社会学・思想史の方法で読むことのできる基本的能力を身に付けることを目標とする。											
【授業計画と内容】											
<p>この科目は、基本的に購読であり、各自が本や論文などを一つ決め、また、毎回担当者を決め、報告資料を作成・提出して、それをもとに報告してもらい、参加者全員で議論を行う。それぞれが読む本などは、林と相談の上で決めてもらう。なるべく受講生の希望を尊重するが、易しすぎるもの、テーマが本科目にあわないもの、などは「ノー」ということがたまにある。そのような場合には、林が担当者の興味に合わせて別の候補を示唆することもある。</p> <p>同じ本を複数名が読んでよい。また、参加者の数にもよるが、最低でも1年に4, 5度は発表できるように調整する。発表担当者は、他のメンバーが、その資料を理解できるように、資料のコピー、レジュメの配布などを適切に行う。これらの作成に必要な費用（コピー代など）は、情報・史料学専修の経費で行う。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 情報・史料学(演習)(2)へ続く -----											



情報・史料学(演習)(2)

**[成績評価の方法・観点及び達成度]**

平常点．特に発表や議論の内容・仕方により採点する．

**[教科書]**

上に書いたように相談の上で受講者ごとに決める。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

担当となったものは、レジユメの作成に相当量の予習が必要．他の者も配布されたレジユメを元に演習中の議論を反芻しておくこと．

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 5 3

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(演習) Humanistic Informatics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 林 晋					
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2015・ 通年	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	田辺元を読む										
【授業の概要・目的】											
<p>手稿・日記などの一次資料を通して過去の偉大な思索者の思想を読み解く。読み解く対象は、哲学者田辺元の種の論理が誕生した昭和9年の特殊講義「認識の形而上学」の講義準備ノートである。これは田辺の特殊な筆跡のため没後50年間、田辺哲学の専門家にも読めなかった史料だが、本演習を通して開発された「ITツールを利用する協同翻刻」の手法により、田辺哲学を理解していない学部学生でも十分翻刻ができるようになってきている。また、そのことにより従来の田辺哲学像、特に「種の論理」の解釈が大きく変わりつつある。つまり、演習自体が最前線の研究なのである。この演習の目的は、このような史料とITに基づく思想史研究の面白さを経験してもらい、その手法を身につけてもらうことであり、日本哲学史を専攻していなくても、史料研究に興味をもつすべての人に役立つ演習となることを目指している。</p>											
【到達目標】											
<p>手書き史料をITツールを用いて読む方法を学び、それにより日本哲学史の古典の一つ田辺元の「種の論理」の発生の過程の一端を理解することを目指す。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>まず史料の背景を説明する講義を行い、その準備のもとで演習を行う。史料読みの演習では、史料のオリジナルではなく、その電子画像を使ひ、難解な崩し字を読むために、歴史史料研究用のツール SMART-GS を使う。出席者の知識や能力に応じて、講義と演習の比重は変化する。史料2枚（原稿用紙2枚）程度を、2名のチームで担当し、1チームが2、3週を担当することを計画しているが、参加者の人数などで変化する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
担当箇所の報告資料と発表の様子で評価する。											
【教科書】											
使用しない											
----- 情報・史料学(演習)(2)へ続く -----											

## 情報・史料学(演習)(2)

### [参考書等]

(参考書)

(関連URL)

<http://sourceforge.jp/projects/smart-gs/>(演習に使うITツールのページ)

<http://kyoto-gakuha.info/>(演習の成果が公開されるデジタル・アーカイブ)

<http://www.shayashi.jp/xoopsMain/html/modules/wordpress/index.php?p=234>(本演習で過去に得られた成果を紹介している岩波「思想」の記事)

### [授業外学習(予習・復習)等]

担当にあたったものは、かなりの量の準備が必要となる。それ以外のものは、演習中の議論を担当者がメーリングリスト経由で配布する最新の翻刻で確認しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

手稿分析などに史料分析用ソフトウェアSMART-GS <http://sourceforge.jp/projects/smart-gs/> を多用する講義参加者用のノートPCを数台用意しているが、自習などを考慮し自分のPCを持ってくるとよい。データなどは、外付けハードディスクに入れて貸与する。

この演習の成果は、京都学派アーカイブ <http://kyoto-gakuha.info/> を通して広く京都学派の研究者に公開されている。学問の最前線に貢献する楽しさを味わって欲しい。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 5 4

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(卒論演習) Humanistic Informatics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 林 晋					
配当 学年	4回生のみ	単位数	4	開講年度・ 開講期	2015・ 通年	曜時限	火1	授業 形態	卒論演習	使用 言語	日本語
題目	卒論演習										
【授業の概要・目的】											
卒業論文執筆を目的とする研究についての演習を行う。卒業論文提出予定の4回生は必ず履修しなくてはならない。											
【到達目標】											
卒業論文執筆のための基本的能力を養うことを目的とする。											
【授業計画と内容】											
卒業論文執筆を目的とする研究を指導教員の下で行う演習である。演習の内容は、当初は研究の方向の妥当性、研究の方針（計画）、そして、研究の方法などの指導となる。最初の時期は、これらの相談や、調査・研究結果の報告が演習の主な内容となる。通常演習では、報告は断片的・部分的なものとなる。しかし、前期の終わりか後期の最初までの時期を目処の中間報告会を開催するので、その際には、論文執筆の最終段階に向けて、まとめた内容の報告を行わねばならない。また受講生各自の研究の進捗状況などを個別に考慮して、11から12月を目処に、何度か中間報告会の形式の包括的報告を行うように指示する。											
【履修要件】											
卒業の見込みがあること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
途中経過の発表等で評価する。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） なし											
【授業外学習（予習・復習）等】											
基本的に演習なので相当量の予習が必要となる。											
（その他（オフィスアワー等））											
卒業論文提出予定の4回生は必ず履修しなくてはならない。卒業論文だけでなく、この演習にも合格しないと卒業ができないので注意すること。											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 5 5

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 永原 陽子					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	ソル・プラーキと20世紀初頭の南アフリカ										
[授業の概要・目的]											
ソル・プラーキ (Solomon Tshekisho Plaatje, 1876-1932)は、20世紀初めに活躍した南アフリカの思想家・政治活動家・文学者である。植民地主義からアパルトヘイトへと極端な差別と抑圧の体制が展開する時代にあって、プラーキは多面的に活動し、アメリカの黒人解放運動家などとも接点をもちつつ、南アフリカの歴史に大きな足跡を残した。この稀有な知性の思想と行動を、本人の書き残したものとその他の史料に基づいて辿ることにより、アフリカにおける植民主義とそれに対する批判のあり方について考察する。											
[到達目標]											
プラーキという一人の人物の思想と行動、その背景となる20世紀の南アフリカの政治と社会について理解し、植民地の視点から現代史を見ることの意味をとらえる。											
[授業計画と内容]											
下記のテーマについて各2～3回で扱う。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.20世紀の南アフリカ社会</li> <li>2.南アフリカ戦争とプラーキ</li> <li>3.「南アフリカ原住民民族会議」の結成とプラーキ</li> <li>4.1913年土地法とプラーキ</li> <li>5.第一次世界大戦とプラーキ</li> </ol>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
学期末の試験で評価する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
参考文献および使用する史料を講義の中で配布するので、指示にしたがって読んでおく必要がある。											
(その他(オフィスアワー等))											
とくになし。											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 5 6

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 永原 陽子					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	アフリカ植民地兵をめぐる諸問題										
【授業の概要・目的】											
<p>植民地時代から現在までのアフリカでは、植民地分割の戦争、反植民地主義的な抵抗を鎮圧するための戦争、二度の世界大戦、内戦など、様々な戦争が繰り返されてきた。植民地時代の戦争では多くの植民地兵(=アフリカ人兵)が、植民地の境界を越えて動員された。</p> <p>本講義では植民地兵という存在に注目してアフリカ植民地にかかわる戦争を再検討し、植民地主義暴力の複合的な性格について考察する。</p>											
【到達目標】											
アフリカ植民地における植民地兵について多面的に考察し、植民地暴力についての理解を深める。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.植民地兵とはどのような人々か</li> <li>2.仏領植民地における植民地兵</li> <li>3.英領植民地における植民地兵</li> <li>4.植民地兵と女性</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末の試験で評価する。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書)											
【授業外学習(予習・復習)等】											
講義の中で紹介する参考文献を適宜読んでおくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
とくになし。											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 5 7

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小野澤 透					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	冷戦とアメリカ外交										
【授業の概要・目的】											
米ソ対立を軸に据えた冷戦史の見方を大幅に修正するひとつのアプローチとして、非共産世界の同盟国間外交や地域秩序の構築に着目する研究潮流が存在するが、中東に関してはそのような観点からの分析は必ずしも進んでいない。本特殊講義では、そのような問題関心にに基づき、1950年代の米・英と中東の関係史を外交文書の実証的分析を通じて考察する。											
【到達目標】											
外交文書の実証的な分析に関するケース・スタディを通じて、国際関係史・外交史の方法論を修得するとともに、学術論文作成の際に必要な、米英の外交関係史料の探索方法や読解の技術の基礎を修得する。											
【授業計画と内容】											
冷戦を歴史的に理解しようとするとき、それを米ソ対立を基調とする国際政治の枠組みと捉えるだけでは不十分である。冷戦とは、米ソ間の対立・競争の契機と、東西それぞれの陣営内における超大国を頂点とする政治的・経済的・軍事的統合およびシステムを創造・維持・改変しようとする契機が、国際政治のみならず、多くの国々の政治・経済・社会のあり方をも大きく規定する世界秩序の枠組みであった。 以上のような問題意識に立ち、本年度は、昨年度に引き続き、1950年代における、米・中東関係にかかわる諸問題を検討する。おおまかな内容は以下のとおり。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アメリカと中東（概観）</li> <li>2. 英国の帝國的秩序とアメリカ</li> <li>3. 中東石油資源とアメリカ</li> <li>4. 地域的秩序構想の形成（1950-52）</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
Semester末のレポート											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 五十嵐武士 『アメリカ外交と21世紀の世界』（昭和堂）ISBN:4-8122-0623-5											
----- 二十世紀学(特殊講義) (2)へ続く -----											

二十世紀学(特殊講義) (2)

[授業外学習（予習・復習）等]

参考書も含め、授業中に適宜指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。



授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小野澤 透					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	冷戦とアメリカ外交										
[授業の概要・目的]											
米ソ対立を軸に据えた冷戦史の見方を大幅に修正するひとつのアプローチとして、非共産世界の同盟国間外交や地域秩序の構築に着目する研究潮流が存在するが、中東に関してはそのような観点からの分析は必ずしも進んでいない。本特殊講義では、そのような問題関心に基づき、1950年代の米・英と中東の関係史を外交文書の実証的分析を通じて考察する。(前期からの継続授業)											
[到達目標]											
外交文書の実証的な分析に関するケース・スタディを通じて、国際関係史・外交史の方法論を修得するとともに、学術論文作成の際に必要な、米英の外交関係史料の探索方法や読解の技術の基礎を修得する。											
[授業計画と内容]											
(授業計画と内容) 冷戦を歴史的に理解しようとするとき、それを米ソ対立を基調とする国際政治の枠組みと捉えるだけでは不十分である。冷戦とは、米ソ間の対立・競争の契機と、東西それぞれの陣営内における超大国を頂点とする政治的・経済的・軍事的統合およびシステムを創造・維持・改変しようとする契機が、国際政治のみならず、多くの国々の政治・経済・社会のあり方をも大きく規定する世界秩序の枠組みであった。 以上のような問題意識に立ち、本年度は、昨年度に引き続き、1950年代における、米・中東関係にかかわる諸問題を検討する。 後期の授業は、前期の授業を受講している前提で進める。おおまかな内容は以下のとおり。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域的秩序の追求 (1953-1957)</li> <li>2. 西側陣営統合政策の挫折 (1957-1958)</li> <li>3. 新たな地域的政策の枠組み (1958-1963)</li> <li>4. 新たな石油秩序の展望 (1958-1960)</li> </ol>											
[履修要件]											
前期の特殊講義(小野沢)を受講すること(前期の議論を前提に、説明を進める)											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
Semester末のレポート											
[教科書]											
使用しない											
----- 二十世紀学(特殊講義) (2)へ続く -----											

二十世紀学(特殊講義) (2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

参考書も含め、授業中に適宜指示する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 HAYASHI, Brian					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目	アメリカ社会・文化史										
【授業の概要・目的】											
The overall aim of this course is for students to develop a foundational understanding for why the United States of America became the world's superpower in the twentieth and twenty-first centuries. It takes as its subject the economic, legal/constitutional, political, military, social, and cultural aspects of the history of the United States, focusing on a society that emerged from a Third World-like condition to becoming a global power on the world stage by 1920.											
【到達目標】											
For the spring semester, the focus 到達目標 is on providing student with an informational background into economic, legal/constitutional, military, and political aspects as to how and why the United States of America became a world power. Every year, I add new lecture materials and change the topics around so that you will hear about new aspects of what I consider to be a very exciting research field called US History. Included in these sets of lectures are some "hot" topics like war and intelligence.											
【授業計画と内容】											
The fall semester focuses on the "softer" subjects of the demographic (especially immigration), cultural (gender, women's reform movements, leisure and entertainment), and social such as how the United States transformed itself into a nation with many "subnations" and why I believe it is erroneous to treat America as a single unified (and uniform) cultural entity. While the lectures are in English, lecture outlines, multimedia presentations, and other visual aids are part of this course to help you understand the contents. Lecture outlines are given out to each student so that one can follow the lecture. One of the outstanding characteristics of this course is to encourage students to participate verbally in the discussion. I usually begin any given lecture with a discussion first of the broader, comparative themes of the topic, and then move into the specific case of the United States and how it differs or parallels similar processes in other countries. Thus foreign students with knowledge of their respective country's history are particularly encouraged to take this course and are invited to speak up during class discussion.											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
For Bungakubu undergraduates, your grade is based on one paper, about 4-10 pages in length (in Japanese or English), on the topic of your choice due at the end of the spring semester (we will do the same for the fall semester), an oral presentation ("Meeting of the Minds"), and weekly short written summaries of the readings (to be assigned for each week). For Bungakubu graduate students, you also must turn in one paper per semester, about 6-12 pages in length, on the topic of your choice, due at the end of the spring and fall semesters, respectively. In addition to class discussions, we will do a "Meeting of the Minds" oral presentation on an appropriate historical character assigned to you. For SoJin students, the course requirements and grading are the same as for the Bungakubu undergraduate students, except that you are on a one-semester basis. As for your "Meeting of the Minds" oral presentation, you will choose (or be assigned)											
----- 二十世紀学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 二十世紀学(特殊講義)(2)

a given character to “ play ” in the discussion in which you are, consistent with your character, are to present your own views of a given topic (to be announced later). Hence, your grade is based on the short, weekly summaries of the readings, your semester-end report, participation in the “ Meeting of the Minds, ” and participation in class discussions.

### [教科書]

The textbook for this course are the off-prints (プリント) located in the 現代文化学系共同研究室Room 819 of the 文学部新館. You should copy and return all items to the box. Please note many of the readings are new and have not been used before for this course.

### [参考書等]

( 参考書 )

Mary Beth Norton 『A People and a Nation』 ( Houghton Mifflin )  
紀平英作 『アメリカ史』 ( 山川出版社 )

### [授業外学習 ( 予習・復習 ) 等]

You are expected to have the week ' s reading completed BEFORE the class begins. Each of the week ' s readings will, of course, be summarized and handed in. Much of our discussion revolves around those readings, so be mentally prepared to discuss the particular topic assigned for that week.

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

Fridays, 15:00-16:50 at F 407 ( 吉田南 4 号館 ) Tel.: 753-6623

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 HAYASHI, Brian					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目	アメリカ社会・文化史										
【授業の概要・目的】											
<p>The overall aim of this course is for students to develop a foundational understanding for why the United States of America became the world's superpower in the twentieth and twenty-first centuries. It takes as its subject the economic, legal/constitutional, political, military, social, and cultural aspects of the history of the United States, focusing on a society that emerged from a Third World-like condition to becoming a global power on the world stage by 1920.</p>											
【到達目標】											
<p>For the spring semester, the focus 到達目標 is on providing student with an informational background into economic, legal/constitutional, military, and political aspects as to how and why the United States of America became a world power. Every year, I add new lecture materials and change the topics around so that you will hear about new aspects of what I consider to be a very exciting research field called US History. Included in these sets of lectures are some "hot" topics like war and intelligence.</p> <p>The fall semester focuses on the "softer" subjects of the demographic (especially immigration), cultural (gender, women's reform movements, leisure and entertainment), and social such as how the United States transformed itself into a nation with many "subnations" and why I believe it is erroneous to treat America as a single unified (and uniform) cultural entity. While the lectures are in English, lectures outlines, multimedia presentations, and other visual aids are part of this course to help you understand the contents. Lecture outlines are given out to each student so that one can follow the lecture.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>One of the outstanding characteristic of this course is to encourage students to participate verbally in the discussion. I usually begin any given lecture with a discussion first of the broader, comparative themes of the topic, and then move into the specific case of the United States and how it differs or parallels similar processes in other countries. Thus foreign students with knowledge of their respective country's history are particularly encouraged to take this course and are invited to speak up during class discussion.</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>For Bungakubu undergraduates, your grade is based on one paper, about 4-10 pages in length (in Japanese or English), on the topic of your choice due at the end of the spring semester (we will do the same for the fall semester), an oral presentation ("Meeting of the Minds"), and weekly short written summaries of the readings (to be assigned for each week). For Bungakubu graduate students, you also must turn in one paper per semester, about 6-12 pages in length, on the topic of your choice, due at the end of the spring and fall semesters, respectively. In addition to class discussions, we will do a "Meeting of the Minds" oral presentation on an appropriate historical character assigned to you. For SoJin students, the course requirements and grading are the same as for the Bungakubu undergraduate students, except that you are on a</p>											
----- 二十世紀学(特殊講義) (2)へ続く -----											

## 二十世紀学(特殊講義) (2)

one-semester basis. As for your “ Meeting of the Minds ” oral presentation, you will choose (or be assigned) a given character to “ play ” in the discussion in which you are, consistent with your character, are to present your own views of a given topic (to be announced later). Hence, your grade is based on the short, weekly summaries of the readings, your semester-end report, participation in the “ Meeting of the Minds, ” and participation in class discussions.

### [教科書]

The textbook for this course are the off-prints (プリント) located in the 現代文化学系共同研究室Room 819 of the 文学部新館. You should copy and return all items to the box. Please note many of the readings are new and have not been used before for this course.

### [参考書等]

( 参考書 )

Mary Beth Norton 『A People and a Nation』 ( Houghton Mifflin )  
紀平英作 『アメリカ史』 ( 山川出版社 )

### [授業外学習 ( 予習・復習 ) 等]

( その他 ( オフィスアワー等 ) )

Fridays, 15:00-16:50 at F 407 ( 吉田南 4 号館 ) Tel.: 753-6623

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 6 1

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 村上 衛					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	仲介者のつくる歴史 伝統中国										
【授業の概要・目的】											
グローバル化が進展する現在、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割はますます大きくなっている。例えば、企業がある地域に進出する場合、現地の言語・事情に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わるであろう。本講義は、こうした仲介者の意義について、伝統中国（主として19世紀中葉まで）における事例を中心に、中国経済の歴史的展開をふまえて考察してみたい。											
【到達目標】											
前近代における中国経済の展開を把握したうえで、伝統中国における仲介者の役割について理解する。											
【授業計画と内容】											
1.ガイダンス 2.古代中国経済と商業 3.隋唐帝国経済と商業 4.宋代商業の発展と仲介者 5.モンゴル時代のユーラシア商業 6.明代経済の展開と牙行 7.明代中期の商業の発展と仲介者 8.明代後期の商業の発展と仲介者 9.東アジア海域交流と仲介者 10.倭寇的状况と仲介地(1) 11.倭寇的状况と仲介地(2) 12.明清交替期の海域世界と仲介者 13.清代海上貿易の展開と仲介者 14.まとめ											
【履修要件】											
前期・後期ともに履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。											
----- 二十世紀学(特殊講義) (2)へ続く -----											

二十世紀学(特殊講義) (2)

**[教科書]**

使用しない  
毎回レジュメを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。



基礎現代文化学系 6 2

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 村上 衛					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	仲介者のつくる歴史 近現代中国										
【授業の概要・目的】											
<p>グローバル化が進展する現在、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割はますます大きくなっている。例えば、企業がある地域に進出する場合、現地の言語・事情に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わるであろう。本講義はこうした仲介者の意義について、近現代中国（19世紀中葉～20世紀中葉）の事例を中心に、中国経済の変容をふまえつつ考察する。同時に世界の他地域の仲介者や現在の仲介者と比較してみたい。</p>											
【到達目標】											
<p>近現代における仲介者の役割を把握したうえで、前近代や他地域の仲介者と比較してその特徴を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 海峽近代のはじまりと仲介者</li> <li>3. 開港場貿易：外国人商人と買弁</li> <li>4. 苦力貿易と客頭</li> <li>5. 開港場貿易の発展と行棧</li> <li>6. 外国籍華人と在華外国領事の役割（1）</li> <li>7. 外国籍華人と在華外国領事の役割（2）</li> <li>8. 工業化と日系企業のあり方：日系商社、在華紡</li> <li>9. 前近代東南アジア海域の仲介者</li> <li>10. 前近代インド洋世界の仲介者</li> <li>11. 前近代地中海世界の仲介者</li> <li>12. 現代の多国籍企業と仲介者</li> <li>13. 現代中国の仲介の場：香港・「経済特区」</li> <li>14. まとめ</li> </ol>											
【履修要件】											
<p>前期・後期ともに履修することが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。</p>											
----- 二十世紀学(特殊講義) (2)へ続く -----											

二十世紀学(特殊講義) (2)

**[教科書]**

使用しない  
毎回レジュメを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 6 3

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 水野 直樹					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	日中戦争・アジア太平洋戦争期の朝鮮社会										
【授業の概要・目的】											
朝鮮近代史の中でも、戦時期は朝鮮社会の変化が大きかった時期である。日本は戦争遂行のために植民地朝鮮を総動員体制に組み込み、「皇民化政策」を進めた。志願兵制度・徴兵制度をはじめ、日本語常用、「皇国臣民ノ誓詞」朗誦、神社参拝、労務動員、「従軍慰安婦」動員などがよく知られているが、社会・文化の様々な面でも大きな変化が見られた。これらの諸問題を考察することによって、現在の歴史認識問題を考える糸口とする。											
【到達目標】											
さまざまに議論されている植民地支配の諸問題、とりわけ戦時期の支配政策について考察するうえで基礎的な資料を理解し読み解く知識、能力を養う。											
【授業計画と内容】											
各週の授業では、上記のような問題を1つずつ取り上げて講義するとともに、受講者にも調査・発表を課すこととする。取り上げるテーマは、初回の授業で説明する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポート(50%)および平常点(50%)											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
取り上げるテーマに沿って事前に文献・資料調査をすること。発表の際には、調査にもとづいて配布資料を作成すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 助教 小野 容照					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	朝鮮独立運動と国際関係										
【授業の概要・目的】											
1910年から1945年まで日本の統治下にあった朝鮮では、様々な形で独立運動が展開された。現在、韓国政府は独立運動の功労者の発掘や顕彰を行っており、韓国の歴史教科書でも独立運動に少なくない紙幅が割かれるなど、植民地時代の独立運動に関する記憶は、韓国の民族アイデンティティを示すものとして重要視されている。しかしその一方で、朝鮮独立運動と国際社会との関係については、十分に明らかになっていない。この講義では、朝鮮独立運動と同時代の国際社会との関係について考察する。とりわけ、人類史上初の総力戦として世界規模で影響を及ぼした第一次世界大戦に着目しながら、大戦を契機として朝鮮独立運動が他国・他地域・他民族の運動とつながっていく過程について考え、グローバルな視野で朝鮮独立運動史を捉え直していきたい。											
【到達目標】											
1) 朝鮮独立運動の概要を理解する。あわせて、朝鮮独立運動の記憶が現在の韓国・北朝鮮でどのように活用されているのか理解を深める 2) 第一次世界大戦期の朝鮮を取り巻く国際状況について理解を深めるとともに、グローバルな観点から歴史を見る目を養う											
【授業計画と内容】											
以下のようなテーマについて、各々1～3週の授業をする予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：韓国における独立運動家の顕彰と対日協力者の清算事業</li> <li>2. 韓国併合以前の抗日運動</li> <li>3. ウラジオストクにおける朝鮮独立運動：帝政ロシアと日露再戦への期待</li> <li>4. 第一次世界大戦の勃発と朝鮮独立運動：中国、ドイツとの提携の摸索</li> <li>5. 日本における朝鮮独立運動：中国人革命家、台湾人と日本在留朝鮮人</li> <li>6. 民族受決主義と朝鮮人：ロシア二月革命、十月革命、ウィルソンの十四か条</li> <li>7. パリ講和会議と三・一独立運動</li> <li>8. コミンテルン、ソ連と朝鮮独立運動</li> <li>9. 朝鮮人の世界認識の拡大</li> <li>10. 北朝鮮における独立運動史研究について考える</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（20%）と期末レポート（80%）による。											
----- 二十世紀学(特殊講義)(2)へ続く -----											

二十世紀学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない  
プリントなどを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

興味のある人は、授業中に紹介する参考書を読み、理解を深めて欲しい

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 6 5

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 藤原 辰史					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	食と農の現代史										
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食 べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えること ではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食 と農の未来の構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブで とらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である。											
1 日本の食をめぐる現状											
2 世界の飢餓と飽食をめぐる現状											
3 トラクターの歴史											
4 第一次世界大戦期のドイツの飢餓											
5 台所の歴史学											
6 レシピの歴史											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末にレポートを課す。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書)											
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』											
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』											
藤原辰史 『ナチスのキッチン』											
藤原辰史 『カブラの冬』											
ポール・ロバーツ 『食の終焉』											
----- 二十世紀学(特殊講義) (2)へ続く -----											

二十世紀学(特殊講義) (2)

( 関連URL )

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

**[授業外学習(予習・復習)等]**

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 6 6

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 藤原 辰史					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	食と農の現代史										
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 食べる場所の歴史</li> <li>2 有機農業の歴史</li> <li>3 品種改良の歴史</li> <li>4 農婦の歴史</li> <li>5 伊藤永之介とその時代</li> </ol>											
【履修要件】											
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末にレポートを課す。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>(参考書)</p> <p>以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。</p> <p>池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』</p> <p>藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』</p> <p>藤原辰史 『ナチスのキッチン』</p> <p>藤原辰史 『カブラの冬』</p> <p>ポール・ロバーツ 『食の終焉』</p>											
											----- 二十世紀学(特殊講義) (2)へ続く -----



二十世紀学(特殊講義) (2)

( 関連URL )

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

**[授業外学習(予習・復習)等]**

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 6 7

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	教育学研究科 教授 佐藤 卓己					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	メディア文化学概論										
【授業の概要・目的】											
<p>メディア論を中心に、現代社会における情報とコミュニケーションの変容を考察する。とくに、「メディア論とはメディア史である」という立場から、歴史社会学的な視点を重視する。具体的には以下3つの「通説」あるいは「常識」の批判的検討を中心に考察し、メディア論的思考の理解を深める。</p> <p>「メディアは、人々のコミュニケーションを豊かにする。」</p> <p>マス・コミュニケーション研究が戦時動員体制という20世紀パラダイムにおいて構築されてきた経緯を検討する。</p> <p>「世論を重視する政治が、正しい民主主義である。」 大衆社会における「輿論の世論化」を検討し、「世論の輿論化」の可能性を探る。</p> <p>「日本のメディアは特殊である。」 現代日本のメディア環境を、世界システムの同時代性の中で比較検討し、現代社会への批判的視座の獲得を目指す。</p>											
【到達目標】											
メディア文化学の基本をなす比較メディア論の立場がどのように形成されたかを理解し、その視点からメディア史を吟味し、現代社会の合意形成システムを考察することができるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>第1-3回 メディア社会とは何か</p> <p>第4回 メディア史としてのコミュニケーション研究</p> <p>第5回 メディア都市の成立</p> <p>第6章 出版資本主義と近代精神</p> <p>第7回 大衆新聞の成立</p> <p>第8回 視覚人間の国民化</p> <p>第9回 宣伝のシステム化と動員のメディア</p> <p>第10回 ラジオとファシスト的公共性</p> <p>第11回 トーキー映画と総力戦体制</p> <p>第12回 テレビによるシステム統合</p> <p>第13回 情報化の未来史</p> <p>第14回 脱・情報化社会へ</p> <p>第15回 試験</p>											
【履修要件】											
メディアに関心があり、情報への感度が高いこと。											
----- 二十世紀学(特殊講義) (2)へ続く -----											

## 二十世紀学(特殊講義) (2)

### [成績評価の方法・観点及び達成度]

試験を行う。評価基準については、講義中に説明する。

### [教科書]

佐藤卓己『現代メディア史』（岩波テキストブックス・1998）ISBN:4000260154（中国からの留学生は佐藤卓己『現代伝媒史』（北京大学世界伝播学経典教材中文版）北京大学出版社2004年を利用してよい。）

### [参考書等]

（参考書）

佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店・2009年）ISBN:4000283227（メディア史＝メディア論の発想法について、参照のこと。）

（関連URL）

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/satolab/>(メディア文化論研究室HP)

### [授業外学習（予習・復習）等]

テキスト『現代メディア史』の各章、第一節、第二節を読んで授業に出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

メディア文化学の初学者は、  
佐藤卓己『メディア社会 現代を読む視点』（岩波新書・2006年）を、  
歴史学の初学者は、  
佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波新書・2009年）を、  
事前に読んでおくことが望ましい。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	三菱UFJリサーチ&コン サルティング株式会社 石尾 和哉					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	戦後日本経済史 ～ カルチャー研究のプラットフォームとして ～										
【授業の概要・目的】											
<p>日本の第二次大戦後の経済史を概観することで、各時代の大衆文化の背景を理解するための素養を身に付けることを目的とする。</p> <p>経済変動は所得増減や失業率などへの影響を通じて、人々のマインドに影響を与える。それが大衆文化に大なり小なり影響を与えているものと考えられる。</p> <p>各時代の出来事や空気感と共に立体的に経済的背景を理解し感じて頂くことで、カルチャー研究の一助として頂きたい。</p>											
【到達目標】											
<p>歴史に「必然」があるのか否かは不明。しかし因果はあるだろう。即ち現在が過去の行動の結果であるなら、歴史を学ぶことで現在のカルチャーを理解する一助となる。</p> <p>経済情勢は人々の生活に影響を与え、将来見通しに影響を与える。</p> <p>一方、大衆文化は人々の潜在ニーズが大きな潮流となって発現するものであるならば、経済情勢が大衆カルチャーの発現にかなりの影響を与えていると考えられる。従って経済史を学ぶことで、現在を含め、各時代の大衆文化の背景を理解することが可能となる。各自の研究テーマを深く考察するために、本講義を通じて経済史の知識を活用できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>概ね、時代区分毎に各回独立的に講ずる。</p> <p>経済史を概観した後に、各時代の代表的なカルチャーや商品を紹介し、経済情勢がどのように大衆文化に影響を与えたのかを考察する。</p> <p>(授業の進捗によっては各回の内容が変わる場合がある)</p>											
第1回	オリエンテーション										
第2回	戦後経済史概観										
第3回	戦中～戦後復興期										
第4・5回	高度成長期の経済、カルチャー、商品										
第6回	安定成長期の経済、カルチャー、商品										
第7回	IT経済とカルチャーへの影響(注)										
第8・9回	バブル期の経済、カルチャー、商品										
第10・11回	経済停滞期の経済、カルチャー、商品										
第12・13回	小泉改革と反動期の経済、カルチャー、商品										
第14回	アベノミクス時代の経済、カルチャー、商品										
第15回	全体まとめ										
<p>(注)第7回はゲスト講師を予定 (三菱UFJリサーチ&amp;コンサルティング(株) 経営コンサルタント。京大情報学研究科卒)</p>											
----- 二十世紀学(特殊講義)(2)へ続く -----											

二十世紀学(特殊講義)(2)

「1990～2010年代のIT発達による経済とカルチャーへの影響」

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

出席点と期末レポート(3000字～5000字)の成績を総合的に評価する。  
尚、レポートのテーマ、字数、提出要領などは授業中に示す。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

八代尚宏『日本経済論・入門』(有斐閣)ISBN:978-4641164116(コンパクトに戦後日本経済史が概観できる)

野口悠紀雄『戦後日本経済史』(新潮選書)ISBN:978-4-10-603596-8(戦後経済政策の立案者側の情報が得られる)

(関連URL)

<http://www.murc.jp/corporate/professionals/37397> (講師所属企業のホームページ)

【授業外学習(予習・復習)等】

自身の研究テーマを明確にして、各回の授業内容を元に、自分のテーマに関する考察を深めていく材料として活用して頂きたい。

(その他(オフィスアワー等))

講師は、メーカー勤務の後、現在のシンクタンクで経営コンサルティング活動と並行して、経営学研究、カルチャー研究を行っています。

(京都大学博士(経済学)、及び 二十世紀学専修卒業)

授業に関する質問・意見、あるいは市場経済、企業経営に関する質問などメール等でお寄せ頂くことを歓迎します。

ishio@murc.jp

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 6 9

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 秋田 茂					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	戦後アジア国際経済秩序の形成・変容 グローバルヒストリーの視点から										
【授業の概要・目的】											
<p>現代の東アジアの「経済的再興」の歴史的起源を、グローバルヒストリーの視点から考察する。グローバルヒストリーのキイ概念は、「比較」と「関係性」であるが、本講義では関係性を重視し、関係史として、第二次大戦後のアジア国際経済秩序を再考する。</p> <p>具体的には、冷戦、脱植民地化、経済開発（開発主義）の相互関連性を、ヘゲモニーの移行、アジア・ナショナリズムの勃興、経済援助と絡めて考察することで、戦後アジアの国際経済秩序の形成と変容、その世界史的な意義を明らかにしたい。</p>											
【到達目標】											
戦後の世界史の大きな流れを理解し、グローバル経済史の最新の研究動向を把握することが可能になる。											
【授業計画と内容】											
<p>以下のような課題で、1 課題当たり1-2週の講義を行う予定である：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 . 1930年代のアジア国際秩序</li> <li>2 . 第二次世界大戦期</li> <li>3 . 南アジアの脱植民地化とインド</li> <li>4 . 1950年代の東アジア国際経済秩序とスターリング圏</li> <li>5 . コロンボ・プランの変容とスターリング圏</li> <li>6 . インド援助コンソーシアムの展開</li> <li>7 . シンガポールの工業化</li> <li>8 . 香港の工業化</li> <li>9 . 開発体制の展開 韓国・韓国</li> <li>10. 日本の経済援助</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポート試験（80％）、平常点評価（20％）											
【教科書】											
使用しない 毎回、関連の資料を配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 秋田茂編 『アジアからみたグローバルヒストリー』（ミネルヴァ書房）ISBN:978-4-623-06717-6（											
----- 二十世紀学(特殊講義) (2)へ続く -----											

二十世紀学(特殊講義) (2)

グローバルヒストリーとアジアの関連を考える必読文献)

杉原 薫 『アジア太平洋経済圏の興隆』(大阪大学出版会) ISBN:4-87259-127-5 C1333 (世界経済の大きな見取り図を提示)

秋田茂・籠谷直人編 『1930年代のアジア国際秩序』(溪水社) ISBN:4-87440-556-8 C3033 (戦前からの連続性を考察する上での必読文献)

上記の3冊以外にも、毎回の授業に関連する文献を紹介するので、レポートの作成のために十分に活用して欲しい。

[授業外学習(予習・復習)等]

毎回の授業に関連する参考文献を事前に紹介するので、そのうち最低1点を読んで授業

(その他(オフィスアワー等))

一国史の枠組を超えたグローバルヒストリーの観点を重視するため、柔軟な発想と、積極的な探究力が求められる。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	埼玉大学 教養学部 准教授 一ノ瀬 俊也					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	戦艦武蔵の戦後史										
【授業の概要・目的】											
<p>戦後日本における「戦争体験」の内容や語られ方が、日本社会の戦争観を大きく規定していることは論を俟たない。この講義では、太平洋戦争中の1944年に撃沈された日本海軍の巨大戦艦武蔵について戦後に編まれた諸テキストとその語られ方、時代背景などを時系列に即して概観することにより、戦後日本社会では先の戦争について何が選択的に語られ、何が無視されてきたのか解明することが目標である。</p> <p>具体的には吉村昭の小説『戦艦武蔵』（1968）、同『戦艦武蔵ノート』（1970）や渡辺清『戦艦武蔵の最期』（1970）、同『戦艦武蔵のさいご』（1974）、手塚正己『軍艦武蔵』（上下、2003）、同『『軍艦武蔵』取材記』（2004）などをとりあげる。もちろん単なる文学論ではなく、その背後にある社会との関係が主要な論点となる。</p> <p>もう一つのテーマとして、戦艦武蔵（およびその物語）と戦艦大和との比較を行う。戦艦大和は吉田満の小説『戦艦大和ノ最期』によって今日に至るまで著名であるが、武蔵は必ずしもそうではない。両艦の差は何によって生じたのか、そこから戦後日本の戦争観についてどのような特徴が読みとれるのかを考えたい。</p>											
【到達目標】											
日本の戦後社会史と戦争体験について、諸史料の読解およびこれに即した叙述が可能となる。											
【授業計画と内容】											
第1回 はじめに 日本海軍略史 第2回 戦艦武蔵の歴史 第3回 吉田満『戦艦大和ノ最期』と佐藤太郎『戦艦武蔵の最後（ママ）』 第4回 物語上における戦艦武蔵の復活 1950～60年代 第5回 吉村昭『戦艦武蔵』とその社会的背景 1960～70年代 第6回 吉村昭『戦艦武蔵ノート』 第7回 渡辺清『戦艦武蔵の最期』とその社会的背景 吉田満と何が違うか 第8回 同『戦艦武蔵のさいご』 児童文学と戦争 第9回 没になった映画『戦艦武蔵』シナリオ なぜ武蔵は人々に必要とされなかったのか 第10回 語りはじめた乗組員たち 「戦争体験」に関する諸問題 第11回 手塚正己『軍艦武蔵』『『軍艦武蔵』取材記』 吉村昭と何が違うか 第12回 手塚『ドキュメンタリー戦艦武蔵』をめぐってその1 第13回 手塚『ドキュメンタリー戦艦武蔵』をめぐってその2 第14回 戦艦武蔵の仮想戦記群 日本社会はなぜ「トンデモ」戦記を必要とするのか？ 第15回 まとめ											
----- 二十世紀学(特殊講義) (2)へ続く -----											



二十世紀学(特殊講義) (2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点及び達成度】**

レポート(100点)

**【教科書】**

使用しない

特定の教科書の代わりに、随時プリントを配布して進めていく。

**【参考書等】**

(参考書)

一ノ瀬俊也『題名未定、戦艦大和の戦後史について』((人文書院)(2015年4月頃発刊予定 興味がある人は一読していただけると幸いです(購入する必要はありません)。)

**【授業外学習(予習・復習)等】**

事前に吉村昭『戦艦武蔵』はじめ、上記の諸テキストを読んでおいていただけると理解が深まると思います。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 7 1

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	同志社大学 グローバル地域文化学部 准教授 小川原 宏幸					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	近代における日朝交渉・関係史										
【授業の概要・目的】											
<p>日本と朝鮮との間で歴史的に形成されてきた関係は、現在の朝鮮民主主義人民共和国・大韓民国をめぐるさまざまな情勢を大きく規定している。したがって現在における日本と朝鮮半島とのかわりを理解する上で両地域間の歴史に対する理解が不可欠である。</p> <p>この講義では、同時代の東アジア国際関係を踏まえながら、近世から20世紀はじめまでの日朝・日韓間における歴史を、特に日本と朝鮮半島との政治文化の差異に注目しながら検討する。</p>											
【到達目標】											
日本と朝鮮とのかわりを歴史の展開過程を理解するための視野を確立するとともに、現代の日朝・日韓関係を考える手がかりをつかむことができるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>(1) イントロダクション：近現代史を見るまなざし</p> <p>(2) 近世の朝鮮社会と日本</p> <p>(3) 通信使外交の虚実</p> <p>(4) 明治維新と征韓論の形成</p> <p>(5) 大院君政権の攘夷政策と日本</p> <p>(6) 江華条約の締結</p> <p>(7) 壬午軍乱と日本</p> <p>(8) 甲申政変と日本</p> <p>(9) 朝鮮中立化構想と日本</p> <p>(10) 日清戦争と朝鮮</p> <p>(11) 日露戦争と朝鮮</p> <p>(12) 国権回復運動と日本</p> <p>(13) 朝鮮の植民地化と韓国併合</p> <p>(14) 近代日本の朝鮮観</p> <p>(15) まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点（出席，授業態度）40%：授業時に毎回，授業内容についてリアクションペーパーを提出してもらおう。その内容に応じて平常点を算出し，単なる出席点は付与しない。</p> <p>期末レポート60%：期末レポートでは，次の基準にもとづいて評価を行う。</p> <p>分析能力：具体的事実を掘り下げた上で，どの程度客観的に分析できるか</p> <p>論述能力：論旨一貫した他人にわかりやすい論述ができるか</p> <p>課題提示能力：自己の分析にもとづいて論点をどの程度提示できるか</p> <p>なお，分析能力35%，論述能力35%，課題提示能力30%の配点とする</p>											
----- 二十世紀学(特殊講義) (2)へ続く -----											

二十世紀学(特殊講義) (2)

**[教科書]**

趙景達編 『近代日朝関係史』（有志舎）ISBN:978-4-903426-62-4  
プリントを配布する。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学習（予習・復習）等]**

授業の前に、教科書の該当部分を読んでくること。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	関西大学 総合情報学部 教授 喜多 千草					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	「情報技術と戦争」について考える										
【授業の概要・目的】											
この講義では、戦争と技術の関わりについて、コンピューティング史の観点から考察する。 具体的には、第二次世界大戦中のデジタルコンピュータの開発や暗号解読、冷戦時の全米防空網の構築からコンピュータ・ネットワークの開発などの諸問題を取り上げる。これにより、受講生はコンピューティング史のアプローチを学び、過去の経緯・帰結が現在のありようにどのように影響してきたかについて理解を深めることになるだろう。											
【到達目標】											
コンピューティング史の文献の扱い方の基本を学び、戦争と技術の関わりについて研究するための視点を得る。											
【授業計画と内容】											
授業概要（各項目について1～3回程度の授業を行う） オリエンテーション Giant Brainの構築 暗号解読と計算機 人間機械混成系という概念 全米防空網SAGE 航空宇宙開発と計算機 コンピュータ・ネットワークの発展 まとめ・フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点による（授業でのディスカッションなどと学期末のレポート）。											
【教科書】											
適宜、授業内にプリント配布、およびウェブサイトに資料をアップロードなどする。											
----- 二十世紀学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 二十世紀学(特殊講義)(2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### (関連URL)

[www.kitalab.org/KyotoUnivLecture/index.html](http://www.kitalab.org/KyotoUnivLecture/index.html) ( (詳しい授業計画や参考資料。オリエンテーションでパスワード等を周知する。 ) )

### [授業外学習(予習・復習)等]

授業で言及する文献の一部については、予習して参加することが望ましい。

### (その他(オフィスアワー等))

詳しくは授業用ウェブサイトから指示する。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 7 3

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 小関 隆					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	第一次世界大戦の「長い影」										
【授業の概要・目的】											
今年度の授業では、「現代の起点」ともいふべき第一次世界大戦が惹起した諸問題が、その後の「現代世界」の展開をいかに規定したかを考える。さしあたりの射程はいわゆる「戦間期」となるが、必要に応じて第二次世界大戦後にも論及する。また、イギリスに議論の焦点を合わせつつ、アイルランド、アメリカ、さらにはヨーロッパ大陸諸国の情勢も適宜参照する。とりあげる論点は、ナショナリズム、デモクラシー、帝国、資本主義、平和主義、等である。第一次世界大戦の「長い影」が差す時代として「戦間期」を理解することが授業の眼目となる。											
【到達目標】											
第一次世界大戦との連続性という歴史的パースペクティブの下で、「戦間期」を把握する能力を身につけること。											
【授業計画と内容】											
以下に掲げたテーマの各々につき、1～3回程度の授業を充てる予定である。 (1) 第一次世界大戦とはいかなる戦争であったか？ (2) ナショナリズム (3) デモクラシー (4) 帝国 (5) 資本主義 (6) 芸術 (7) コメモレイション (8) 平和主義 (9) その他											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポートによる評価を基本とする。											
【教科書】											
使用しない											
----- 二十世紀学(特殊講義) (2)へ続く -----											

## 二十世紀学(特殊講義) (2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学習(予習・復習)等]

以下の文献を参照することが望ましい。

山室信一・岡田暁生・小関隆・藤原辰史(編)『現代の起点 第一次世界大戦』(全4巻)岩波書店2014年。

人文書院刊の「レクチャー：第一次世界大戦を考える」シリーズ(既刊12冊、続刊予定)。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 7 4

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	津田塾大学 学芸学部 准教授 吉岡 潤					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	「ソ連・東欧圏」の形成過程										
【授業の概要・目的】											
第二次世界大戦から戦後初期にかけての「ソ連・東欧圏」の形成をめぐる国際関係を、いわゆる冷戦起源論争と重ね合わせながら分析する。冷戦初期のヨーロッパにおける地域秩序の形成過程を、ソ連やポーランドなど東欧諸国の視点から論じてみたい。											
具体的には、中・東欧地域にとっての第二次世界大戦の意義、戦時および戦後初期におけるソ連の対東欧政策（特に対ポーランド政策）、冷戦の起源とソ連・東欧圏の形成などを検討課題とする。											
【到達目標】											
冷戦終結後に進んだソ連側の史料公開・研究を踏まえると冷戦下の「ソ連・東欧圏」の形成過程がどのように描けるのか（描き直せるのか）、理解すること。											
今日の中・東欧における国際関係にまで影響がおよぶ地域秩序のあり方が歴史的に考察できるようになるための手がかりを得ること。											
【授業計画と内容】											
以下の通りに進めることができればいいな、と思っている。											
1. ソ連・東欧圏とは何か、何だったか											
2. 第二次世界大戦と東欧・ソ連 (1) 独ソ不可侵条約体制とソ連の領土拡大 (2) 独ソ戦期ソ連の戦時外交と東欧：ポーランド問題を中心に											
3. 戦後初期の東欧・ソ連 (1) 東欧における戦後処理とソ連 (2) 冷戦の開始とソ連・東欧圏の確立											
4. 改めて、ソ連・東欧圏とは何だったか											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
講義最後に実施する試験にて評価（出席状況により受験資格を制限することもありえる）。											
【教科書】											
使用しない											
----- 二十世紀学(特殊講義) (2)へ続く -----											



二十世紀学(特殊講義) (2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

いわゆる冷戦起源論争について事前にある程度調べておくと講義の理解に役立つだろう。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 7 5

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	地域研究統合情報センター 教授 貴志 俊彦					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	非文字資料から読む日中関係史										
【授業の概要・目的】											
<p>東アジア域内では、歴史認識問題や領土問題を契機として、相互イメージが悪化し、さまざまな面で緊張した局面が発生している。この種の政治的、社会的な対立が激化する一方で、各地では協調、融和的な社会を築こうとする意識が働きつつあることも忘れてはならない。</p> <p>本授業では、近100年に日本と中国との間で起こった歴史的な事件、あるいは時代の画期となるトピックをとりあげ、それぞれの局面で登場した非文字資料が果たした役割と、その受容者の解釈を検討することを目的とする。</p> <p>日中関係を対象とした非文資料を取り上げることで、日中間の紛争を地域、世論、社会集団、個人などから捉える視座と、それらを客観的に比較対照するメディア・リテラシーを習得する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近100年間の日中関係の理解を深めることができる。</li> <li>・日中関係史について最先端の研究の状況を知ることができる。</li> <li>・PPTによるプレゼン能力が高まる。</li> <li>・ヒアリング調査の方法を取得し、かつその能力を高めることができる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．授業の目的と方法</li> <li>2．「日本」「中国」とは何か？</li> <li>3．日中関係の捉え方についての諸説</li> <li>4．[1900年代]日露戦争の影響</li> <li>5．[1910年代]五四運動と対日観の変化</li> <li>6．[1920年代] 対華21か条条約と日貨排斥運動</li> <li>7．[1930年代] 満洲国問題と日中戦争</li> <li>8．[1940年代] 太平洋戦争の終結と中華人民共和国の成立</li> <li>9．[1950年代]サンフランシスコ講和条約と日華条約</li> <li>10．[1960年代] LT (MT) 貿易と文化大革命</li> <li>11．[1970年代]日中国交正常化と日台断交</li> <li>12．[1980年代]天安門事件と歴史教科書問題</li> <li>13．[1990年代]日中共同宣言</li> <li>14．[21世紀]現在の日中関係</li> <li>15．総合討論</li> </ol>											
----- 二十世紀学(特殊講義) (2)へ続く -----											

## 二十世紀学(特殊講義) (2)

### 【履修要件】

・日本語の会話に不自由でないこと。

### 【成績評価の方法・観点及び達成度】

評価ポイントは、以下のとおり。

- 1．出席状況
- 2．非文字資料を用いた小発表（授業中）
- 3．授業中の議論への参加姿勢（質疑応答）
- 4．レポートの量と質

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学習（予習・復習）等】

・当日の授業内容に即した情報を、インターネットなどを使って収集する。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 7 6

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 高橋 幸平					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	横光利一の作品と近代文学研究の諸相										
【授業の概要・目的】											
横光利一は大正末から昭和戦前・戦中を駆け抜けた小説家である。この授業では横光の代表的な小説や文学論を読む。またその際、各テキストについてこれまで何がどのように議論されてきたのかを確認しながら、伝記批評、典拠論、文体論（レトリック）、ジェンダー論、ポストコロニアル批評、メディア論、文化研究など、近代文学研究における主な研究手法とその特徴について学ぶ。											
【到達目標】											
1．横光利一の代表的なテキストを文学史に位置づけることができる。 2．近代文学研究におけるいくつかの手法について、その特徴を説明することができる。 3．2．のいずれかの立場を意識しながら近代文学作品を論じることができる。											
【授業計画と内容】											
次の各テーマについて、それぞれ2～4週ずつ講義を行う。ただし、理解の程度にあわせて進度や内容を調整することがある。											
1．横光利一の作品と生涯 2．「蠅」と物語論・構造主義 3．「街の底」と文体論・都市論 4．「春は馬車に乗って」と伝記批評 5．「上海」とポストコロニアル批評・典拠論											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
受講態度...50% レポート...50%											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
授業で取り上げる作品を受講前に読んでおくこと。授業中に取り上げる作品の内容について感想や意見を求めることがある。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 77

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 高橋 幸平					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時間	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	横光利一の作品と近代文学研究の諸相										
【授業の概要・目的】											
横光利一は大正末から昭和戦前・戦中を駆け抜けた小説家である。この授業では横光の代表的な小説や文学論を読む。またその際、各テキストについてこれまで何がどのように議論されてきたのかを確認しながら、伝記批評、典拠論、文体論（レトリック）、ジェンダー論、ポストコロニアル批評、メディア論、文化研究など、近代文学研究における主な研究手法とその特徴について学ぶ。											
【到達目標】											
1．横光利一の代表的なテキストを文学史に位置づけることができる。 2．近代文学研究におけるいくつかの手法について、その特徴を説明することができる。 3．2．のいずれかの立場を意識しながら近代文学作品を論じることができる。											
【授業計画と内容】											
次の各テーマについて、それぞれ2～4週ずつ講義を行う。ただし、理解の程度にあわせて進度や内容を調整することがある。											
1．「時間」と生成論 2．「機械」とジャンル論・文化研究 3．「花花」とジェンダー論・メディア論・フィクション論 4．「純粹小説論」と間テキスト性 5．「旅愁」とナショナリズム研究											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
受講態度...50% レポート...50%											
【教科書】											
プリントを配布する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
授業で取り上げる作品を受講前に読んでおくこと。授業中に取り上げる作品の内容について感想や意見を求めることがある。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 7 8

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学文学研究科 教授 出原 隆俊					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	日本近現代文学読解										
【授業の概要・目的】											
日本文学における近現代の分野において、テキスト読解という基本について、受講者が、小説の分析・整理・統合や資料の集め方に習熟し、独力で様々なアプローチができるようになることを目指す。											
【到達目標】											
作品に応じて、様々な方法があり得ることを理解するとともに、文学史的視野も広げ、柔軟でかつ独自の視点で読解する力量を習得する。それを通じて、日本近現代文学の実態への理解も深める。											
【授業計画と内容】											
受講者数に応じて担当者を決め、その担当者が任意に取り上げた作品を、原則として一作品を二週かけて扱う。第一回の授業の時に、おおよその担当者と作品を決める。 受講者も質問・批判することを求められる。適宜、講義に準じた解説も行う。 2．以降は順次に変更があり得る。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．ガイダンス...昭和文学史の大枠を見通す。</li> <li>2．小島信夫『小銃』を戦争小説として読む(1)。</li> <li>3．小島信夫『小銃』を戦争小説として読む(2)。</li> <li>4．山川方夫『夏の葬列』の方法を検討する(!)。</li> <li>5．山川方夫『夏の葬列』の方法を検討する(2)。</li> <li>6．幸田文『黒い裾』の方法を検討する(1)。</li> <li>7．幸田文『黒い裾』の方法を検討する(2)。</li> <li>8．庄野潤三『結婚』を家庭小説の一環として読む(1)。</li> <li>9．庄野潤三『結婚』を家庭小説の一環として読む(2)。</li> <li>10．中野重治『萩のもんかきや』の方法を検討する。</li> <li>11．円地文子『二世の縁 拾遺』の小説作法を検討する(1)。</li> <li>12．円地文子『二世の縁 拾遺』の小説作法を検討する(2)。</li> <li>13．花田清輝『群猿図』を歴史小説の一環として読む(1)。</li> <li>14．花田清輝『群猿図』を歴史小説の一環として読む(2)。</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポートおよび出席状況により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。											
【教科書】											
紅野謙介他編『日本近代短編小説選 昭和篇3』（岩波書店）											
----- 二十世紀学(特殊講義) (2)へ続く -----											

二十世紀学(特殊講義) (2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

事前に当該作品を熟読しておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 7 9

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学文学研究科 教授 出原 隆俊					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	日本近現代文学読解										
【授業の概要・目的】											
日本文学における近現代の分野において、テキスト読解という基本について、受講者が、小説の分析・整理・統合や資料の集め方に習熟し、独力で様々なアプローチができるようになることを目指す。											
【到達目標】											
作品に応じて、様々な方法があり得ることを理解するとともに、文学史的視野も広げ、柔軟でかつ独自の視点で読解する力量を習得する。それを通じて、日本近現代文学の実態への理解も深める。											
【授業計画と内容】											
受講者数に応じて担当者を決め、その担当者が任意に取り上げた作品を、原則として一作品を二週かけて扱う。第一回の授業の時に、おおよその担当者と作品を決める。 受講者も質問・批判することを求められる。適宜、講義に準じた解説も行う。 2．以降は順次に変更があり得る。											
授業計画											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．ガイダンス...昭和文学史の大枠を見通す。</li> <li>2．富士正晴『帝国軍隊に於ける学習・序』を戦争小説として読む(1)。</li> <li>3．富士正晴『帝国軍隊に於ける学習・序』を戦争小説として読む(2)。</li> <li>4．島尾敏雄『出発は遂に訪れず』を戦争小説として読む(1)。</li> <li>5．島尾敏雄『出発は遂に訪れず』を戦争小説として読む(2)。</li> <li>6．島尾敏雄『出発は遂に訪れず』を戦争小説として読む(3)。</li> <li>7．埴谷雄高『闇の中の黒い馬』の方法を検討する(1)。</li> <li>8．埴谷雄高『闇の中の黒い馬』の方法を検討する(2)。</li> <li>9．埴谷雄高『闇の中の黒い馬』の方法を検討する(3)。</li> <li>10．深沢七郎『無妙記』の小説作法を検討する(1)。</li> <li>11．深沢七郎『無妙記』の小説作法を検討する(2)。</li> <li>12．深沢七郎『無妙記』の小説作法を検討する(3)。</li> <li>13．三島由紀夫『蘭陵王』を時代背景を踏まえて読む(1)。</li> <li>14．三島由紀夫『蘭陵王』を時代背景を踏まえて読む(2)。</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
----- 二十世紀学(特殊講義) (2)へ続く -----											



二十世紀学(特殊講義) (2)

**[成績評価の方法・観点及び達成度]**

レポートおよび出席状況により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。

**[教科書]**

紅野謙介他編 『日本近代短編小説選 昭和篇3』（岩波書店）

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学習（予習・復習）等]**

事前に当該作品を熟読しておくこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 8 0

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習 I) Twentieth Century Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉本 淑彦					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	現代文化の諸問題 A										
【授業の概要・目的】											
各自が現代文化に関する研究文献（学術書ないし学術論文）を任意で選び、その内容を報告する。その後、全員によるディスカッションをおこなう。現代文化の諸問題を幅広く学ぶことが目的である。											
【到達目標】											
既存の学術書・学術論文を読み込むことで、自身に取り組むべき研究テーマを発見する力を養うことができる。											
【授業計画と内容】											
1 回目：テーマの選び方、および、文献調査方法について講述する 2 回目以降：各回とも、1 名ないし 2 名の受講生が、任意で選んだ文献について、著者の経歴、内容、評価、当該テーマの関連文献、について紹介する。そのうえで、全員によるディスカッションをおこなう。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点による											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） なし											
【授業外学習（予習・復習）等】											
関心のあるテーマについて、既存の学術書・論文はどのようなアプローチをしているのだろうか。まず 3 ~ 4 点ほどの学術書・論文を熟読することからはじめて、アプローチの仕方を事前に考えよう。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 8 1

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習 I) Twentieth Century Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉本 淑彦					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	現代文化の諸問題 B										
【授業の概要・目的】											
各自が現代文化に関するテーマを任意で選び、それについてのリサーチ結果を報告する。その後、全員によるディスカッションをおこなう。研究論文執筆につながりうるテーマを選択できる眼力の涵養と、資料発見能力の育成を目的とする。											
【到達目標】											
研究論文を書くには、研究状況と資料状況を踏まえて、自身を取りくみえる研究テーマを発見することが重要である。この授業では、そのような発見力を養うことができる。											
【授業計画と内容】											
1 回目：テーマの選び方について講述する 2 回目以降：各回とも、1 名ないし 2 名の受講生が、任意で選んだテーマについて、研究意義、研究史の整理、論旨、関連文献を報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、報告の問題点を洗い出し、研究論文執筆のうえで今後取り組むべき課題を考える。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点による											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) なし											
【授業外学習(予習・復習)等】											
関心のあるテーマについて、既存の学術書・論文はどのような資料を用いて論じているのだろうか。そのことに注意を払いながら、まず 3 ~ 4 点ほどの学術書・論文を熟読してみよう。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 8 2

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 石川 禎浩					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	中国現代史演習										
【授業の概要・目的】											
中国現代史にかんして現代中国語で書かれた文献・資料をいくつか選んで精読し、併せてそれら史料の成り立ちや編纂経緯についての理解を深める。											
【到達目標】											
歴史学に欠かせない資料読解の水準を高め、中国語文献にもとづいて議論をする能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
各回の授業において、中国現代史にかんするさまざまな中国語文献を日本語訳しながら精読し、記述されている内容が裏付けられるかどうか、他の資料を発掘・対照しながら精査していく。それぞれの文献の読了後には、当該文献に関連する歴史事象をとりあげ、報告・討論を行う。講読する文献については、授業初回に受講生の顔ぶれや中国語習熟程度を勘案して決める。											
【履修要件】											
現代中国語で書かれた文献を教材とするので、中国語の基礎を有する必要がある。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点と期末レポートの総合評価											
【教科書】											
授業中に指示する テキストは授業で配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
授業前には入念な予習が必要である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 8 3

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 石川 禎浩					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	中国現代史演習										
【授業の概要・目的】											
中国現代史にかんして現代中国語で書かれた文献・資料をいくつか選んで精読し、併せてそれら史料の成り立ちや編纂経緯についての理解を深める。											
【到達目標】											
歴史学に欠かせない資料読解の水準を高め、中国語文献にもとづいて議論をする能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
各回の授業において、中国現代史にかんするさまざまな中国語文献を日本語訳しながら精読し、記述されている内容が裏付けられるかどうか、他の資料を発掘・対照しながら精査していく。それぞれの文献の読了後には、当該文献に関連する歴史事象をとりあげ、報告・討論を行う。講読する文献については、授業初回に受講生の顔ぶれや中国語習熟程度を勘案して決める。											
【履修要件】											
現代中国語で書かれた文献を教材とするので、中国語の基礎を有する必要がある。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点と期末レポートの総合評価											
【教科書】											
授業中に指示する テキストは授業で配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
授業前には入念な予習が必要である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 8 4

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 助教 小野 容照					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	朝鮮のサッカーに関する文献講読										
【授業の概要・目的】											
現代朝鮮語で書かれた文献をテキストとして講読し、テキストに登場する人物・事件・事柄などについて調査する。この作業を通して、朝鮮語の読解能力を高めるとともに、関連事項を調査するための方法（とくに韓国側のインターネット情報へのアクセス）を習得することを目指す。											
【到達目標】											
1) 朝鮮語の読解能力を高める 2) 朝鮮の言語や歴史に関する韓国のインターネット・リソースを活用できるようにする 3) 朝鮮の歴史に関する理解を深める											
【授業計画と内容】											
日本の植民地時代（1910～1945年）の朝鮮のサッカーの歴史を扱った韓国体育史編纂室編『国技蹴球 その燦爛たる朝』（ソウル新聞出版事業部、1997年、原文朝鮮語）をテキストとする予定である。植民地時代の朝鮮人は、日本人としてオリンピックに出場しなければならず、1936年のベルリンオリンピックのサッカー日本代表には朝鮮人選手も含まれていた。同書の精読を通して、朝鮮語の読解能力の向上のみならず、植民地支配とスポーツの関係についても理解を深められるようにしたい。授業は、受講者による音読・日本語訳と授業担当者による解説を中心に進め、日本語訳の担当者は事前に指定する予定である。											
【履修要件】											
予定しているテキストは現代朝鮮語で書かれているため比較的平易だが、初級程度の朝鮮語を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末試験は行わず、平常点を重視する。											
【教科書】											
授業で使用するテキストは、担当教員が準備して配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
受講者数にもよるが、毎回2-3頁程度読み進める予定である。日本語訳を指定されていない人も、該当するページの予習をしてもらうことが望ましい。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 8 5

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 水野 直樹					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	朝鮮近現代史に関する文献講読										
【授業の概要・目的】											
朝鮮近現代史に関する朝鮮語文献の読解に慣れるために、朝鮮語の論文や新聞記事を選んで読み進める。											
【到達目標】											
朝鮮近現代史を研究するうえで必要な朝鮮語文献を読解する力を養う。特に現代韓国での綴りと異なる文章にも慣れるようにする。											
【授業計画と内容】											
(1) 朝鮮近現代史に関する朝鮮語の論文を輪読形式で読む。論文は未定。受講者の関心に応じて選ぶ。第1-6週をこれにあてる。											
(2) 受講者全員が関心に応じて、『東亜日報』など朝鮮語新聞の記事を選び、それを翻訳するとともに、その歴史的背景や関連事項について発表する。第7-14週をこれにあてる。											
【履修要件】											
朝鮮語初級程度を終えていること											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポート(40%)および平常点(60%)											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
選んだテキスト、記事を事前に翻訳してくること。また、関わりのあることからその歴史的背景について調べること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 8 6

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉本 淑彦					
配当 学年	2,3回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	マンガ・アニメ学入門										
【授業の概要・目的】											
マンガおよびアニメに関する内外の研究文献を輪読する。マンガ学およびアニメ学の諸テーマを幅広く学び、さらに、その方法論に通暁することをめざす。											
【到達目標】											
マンガ・アニメ学の研究テーマは多様である。その多様性を理解したうえで、自身の関心に合致し、かつ、研究可能なテーマを選び抜く力を養うことができる。											
【授業計画と内容】											
<p>* 1回目～4回目：マンガ・アニメ学の研究文献の紹介と、レジュメの作り方などの詳しい説明、および研究発表の一例を示す</p> <p>* 5回目以降：各回とも、2名程度の受講生が、任意で選んだ研究文献について、内容の紹介と評価をおこなう。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、当該文献の問題点を洗い出し、さらに研究を進める場合の課題を考える。</p> <p>* 最終回：課題マンガ本についてディスカッションをおこなう。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
課題マンガ本(2種類)をあらかじめ熟読したうえで、最終回の講義に出席すること。 課題マンガ本は、受講生の希望に基づき決定する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											



基礎現代文化学系 8 7

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 客員准教授 上杉 和央					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	戦争の記憶の現在										
【授業の概要・目的】											
<p>過去の事象が記憶されるとき、事象に深く関わる地域に根差しつつ記憶が紡がれる場合と、地域から拡散するかたちで形成される場合とがある。この両者は二分されるものではないことはもちろんであり、両者の関係性を読み解くことが必要となる。</p> <p>本授業では、戦後70年をむかえるなかで、戦争の記憶に即してこの関係性を検討することをテーマとしたい。</p> <p>具体的には、沖縄戦を取り上げる。</p> <p>班ごとに1つ事例を調査・報告し、議論を行う中で、沖縄戦がどのように語られてきたのか、そして沖縄戦の記憶がどのように表出してきたのかについての理解を深める。さらに、地域に根差した記憶を考えるために、現地調査についても実施する。</p>											
【到達目標】											
戦争に即した記憶について、先行研究の理解と現地調査による考察・理解を通じて、地域の記憶をめぐる問題について主体的・継続的に取り組む能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>以下のような課題について、1課題あたり1～3週を用いて報告と討論を実施し、理解を深めていく予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄戦の概要</li> <li>・白梅の記憶</li> <li>・男子学徒と女子学徒</li> <li>・自治体史と沖縄戦</li> <li>・沖縄と京都の戦後</li> <li>・字誌と沖縄戦</li> <li>・沖縄の慰霊碑</li> <li>・沖縄の慰霊祭</li> </ul> <p>また、沖縄への現地調査を実施する。</p>											
【履修要件】											
<p>現地調査への参加が可能な者 (現地調査の日程は、受講生全体で相談して決定する)</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点と年度末のレポート なお、平常点には授業内および現地調査での積極的な姿勢を考慮する。</p>											
【教科書】											
使用しない											
----- 二十世紀学(演習II)(2)へ続く -----											

二十世紀学(演習II)(2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

沖縄戦に関するメディアを適宜、確認しておくこと。  
班ごとの発表に際しては、事前に班内で十分な討議を重ねておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 8 8

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 客員准教授 上杉 和央					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	20世紀へのアプローチ ～景観調査を通じて～										
【授業の概要・目的】											
<p>現在の社会は、戦後生まれが主役となっているとはいえ、戦前・戦中生まれの者も健在である。一方、大学生は平成生まれの者が大半となってくる状況にもなっている。</p> <p>本授業の目的は、平成生まれの学生・院生が、いわゆる「古老」への聞き取り調査をおこなうときに生じる諸課題を、自らの経験を通じて問いかけることで、20世紀へのアプローチ法についての理解を深めることにある。</p> <p>授業では、京都府内の農山漁村集落を選び、「景観変化」を題材として聞き取り調査を複数回実施する。そして、その経験を報告し、議論していくというスタイルをとる。</p>											
【到達目標】											
<p>先行研究のレビューと、現地での景観調査と聞き取り調査を通じて、自身の20世紀像の曖昧さを振り返り、より具体的な地域に即した理解ができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のような課題をテーマとし、現地調査をふまえつつ1課題あたり1～3週の授業をする予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 景観概念について</li> <li>・ 文化的景観 / Cultural Landscape</li> <li>・ 近世城下町の記憶</li> <li>・ 茶の香り漂う街並み</li> <li>・ 山の暮らしの変化</li> <li>・ 景観と法</li> <li>・ 地域調査</li> </ul>											
【履修要件】											
<p>現地調査に参加できる者 (現地調査の日程は、受講生全体で決定する)</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点と年度末のレポート。 なお、平常点には授業内および現地見学の際の積極的な姿勢を考慮する。</p>											
【教科書】											
使用しない											
----- 二十世紀学(演習II)(2)へ続く -----											

## 二十世紀学(演習II)(2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学習(予習・復習)等]

現地調査で訪問する地域については、事前に十分に調べておくこと。  
また、調査訪問後も別途、再訪するなどして地域への理解を深めることが望ましい。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学大学院文学研究科 中野 耕太郎					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	第一次世界大戦と現代史 アメリカ合衆国を中心に										
【授業の概要・目的】											
<p>第一次世界大戦が20世紀の国民国家に与えた影響を多様な角度から考察し、この戦争が生み出した「現代」という時代の意味を考察する。特に戦争後半(1917年)に参戦し、戦争の終結と戦後秩序の形成に大きな役割を果たしたアメリカの事例を中心に検討を進める。</p> <p>具体的には、以下のような論点を取り上げ考察を深める予定である。1. 民主主義の国のナショナリズムとは何か? 2. アメリカ参戦のコンテクストはどこに見いだせるか? 3. 民意と総力戦の関係は? 4. 世界大戦はマイノリティ問題にどんな影響を与えたか? 6. 第一次大戦の遺産とはなにか? 「アメリカの世紀」を考える。</p> <p>第一次大戦を再考することは、その後の人類の100年間の歴史が何を目指し、何に挫折したかを知ることにつながる。そして、この検討から浮かび上がる諸論点は、歴史を学ぶ私たちが、今どの時点に立っているのかを指し示す光となるだろう。</p>											
【到達目標】											
<p>以下の3つのことを到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第一次世界大戦が持った歴史的意義を説明できる。</li> <li>2. アメリカのナショナリズムの特性を論じることができる。</li> <li>3. 現代という歴史時代の特色を3つ以上述べるができる。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>15回の講義予定は以下のとおりである。</p> <p>第1回 現代史はいつ始まるか 第一次世界大戦の意味</p> <p>第2回 ウィルソン主義とアメリカ・ナショナリズム</p> <p>第3回 アメリカ参戦と中南米問題</p> <p>第4回 総力戦下の国家と社会</p> <p>第5回 戦争プロパガンダと被治者の合意</p> <p>第6回 自由の国の徴兵制</p> <p>第7回 移民コミュニティと戦争</p> <p>第8回 二つの祖国</p> <p>第9回 アメリカ化政策</p> <p>第10回 軍隊と外国人</p> <p>第11回 民主主義の戦争と人種問題</p> <p>第12回 総力戦と人種暴力</p> <p>第13回 国策としてのカラーライン</p> <p>第14回 戦後の展望 第一次大戦の遺産</p> <p>第15回 総括 歴史のなかの第一次大戦、そして、アメリカの現代</p>											
----- 二十世紀学(演習II)(2)へ続く -----											

二十世紀学(演習II)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点及び達成度】**

出席点（20点）、学期末の試験（80点）で、総合的に評価する。積極的な参加を期待します。

**【教科書】**

中野耕太郎 『戦争のつぼ 第一次世界大戦とアメリカニズム』（人文書院）ISBN:978-4-409-51119-0

**【参考書等】**

（参考書）  
授業中に紹介する

**【授業外学習（予習・復習）等】**

教科書の該当箇所を事前に読んでおいてください。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 9 0

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 伊藤 遊					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	二十世紀以降の日本のマンガ環境について考える マンガ雑誌を手がかりに										
【授業の概要・目的】											
<p>現代日本に居住する私たちの身の回りには、ひとりではとうてい網羅できないほど、多種多様なマンガの雑誌や単行本があふれている。二十世紀、とりわけ戦後の日本社会を考察する上で、マンガは避けて通れない視覚表現・メディアと言えよう。</p> <p>本講義では、そうしたマンガ環境の一側面を具体的に考察するために、マンガ雑誌を資料とした演習を行う。掲載された作品はもとより、活字記事や広告等から、そのメディア的特徴、各誌の出版戦略、マンガ誌の文化的意義、「マンガ読者」という共同体の有様など、複眼的な考察を行い、微視的には「マンガ文化のあり方」を、巨視的には「二十世紀以降の大衆文化の有様」の一端を把握することがねらいである。</p> <p>形式は、受講者による発表が基本。これをふまえ、受講者全体でのディスカッション、担当教員のコメントを加える。</p>											
【到達目標】											
<p>マンガ雑誌という具体的な素材に実際に触れる機会を持つことで、ポピュラー文化研究における文献調査の方法論を学ぶ。</p> <p>同時に、プレゼンテーションの技術と方法論を実践的に学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：ガイダンス。発表順・日程の調整。</p> <p>第2回：担当教員による講義。現在のマンガ雑誌に関する情報と視点を提供。</p> <p>第3回：担当教員による「京都国際マンガミュージアム」における講義。マンガミュージアム所管のマンガ雑誌資料について解説。テーマ設定についてディスカッション。</p> <p>第4回～最終回：受講者による発表。（*）</p> <p>（*） 最低1冊のマンガ雑誌を取り上げ、テーマを設定した上で、少なくとも5年分を調査の上、そこにおける変化やそのコンテキスト等について分析する。</p>											
【履修要件】											
<p>特にないが、少なくとも1回、「京都国際マンガミュージアム」（京都市中京区）での授業を実施する。</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>出席点30点、発表内容・ディスカッションへの貢献度：40点、レポート30点</p>											
----- 二十世紀学(演習II) (2)へ続く -----											

二十世紀学(演習II) (2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

発表のための文献調査を各自で行うことが必要となる。必要に応じて、担当教員がその調査をサポートする。

**(その他(オフィスアワー等))**

「京都国際マンガミュージアム」(京都市中京区)での授業を実施する。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。



授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	同志社大学 社会学部 教授 佐伯 順子					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	男性同性愛の表象と女性										
【授業の概要・目的】											
日本のポピュラーカルチャーにおいて、男性同性愛の表象が女性向けコンテンツで人気を獲得しているという特徴はよく知られている。この授業では、「同性愛」の概念を問い直しつつ、日本の小説、映画、漫画等における男性同性愛の表象をジェンダー論の観点から考察し、女性の表象と男性同性愛のモチーフとの関係性、そこに含まれる二十世紀から現代にいたる日本社会のジェンダーの問題を考える。											
【到達目標】											
男性同性愛の表象が含むジェンダーの問題についての意識を高め、ジェンダー論の観点からの表象分析の方法を実践する。											
【授業計画と内容】											
教員から日本の男性同性愛の表象についての説明を数回行った後、各自で具体的事例をみつけて分析、発表する。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．日本の近現代の男性同性愛の表象について～その事例と分析（講義数回）</li> <li>2．受講生による発表と議論（演習）</li> </ol> <p>なお、受講生の人数によって講義回数と演習の回数の配分を調整する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末のレポートおよび平常点（出席回数と発表内容、議論への積極的参加）。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>佐伯順子1992 『男色の美学』（江戸期の「男色」との比較の観点のために）</p> <p>木村尚三郎編 『歴史を旅する』（TBSブリタニカ）</p>											
【授業外学習（予習・復習）等】											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 9 2

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	テレビプロデューサー 山登 義明					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	映像メディア論										
【授業の概要・目的】											
映像は現代の暮らしに大きな影響を与えている。作為であれ不作為であれ映像は操作されて視聴者に届けられる。ドキュメンタリーの過去の作品10本余を取り上げて、作り手の意図、視点を読み解いていく。											
【到達目標】											
映像メディアの発達史をひもときながら、テレビドキュメンタリーの特性と映像表現を学ぶことにより、メディアのもつ「作為性」についての考察を深める											
【授業計画と内容】											
1、オリエンテーション：テレビという文化の歴史 2、ドキュメンタリーとは何か：虚構と事実の関係 3、番組のジャンル：フィクション、エンターテインメントと並存する事実番組 4、ヒューマンドキュメンタリー：ヒトを描く、ウゴキ、時代を掴む 5、主題としての戦争：亀井文夫の映画と比べながら 6、戦争の記憶：8・15をめぐって編成された作品群 7、ドキュメンタリーの演出とは何か：ヤラセの構造と風土 8、他のメディアと融合する：マンガ、アニメ、CG、ネットを活用する を活用する											
【履修要件】											
藤子不二雄Aの『まんが道』か『愛 しりぞめし頃』を読むこと											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
受講後のレポート											
【教科書】											
山登義明 『テレビ制作入門』（平凡社） 河島伸子 『コンテンツ産業論』（ミネルヴァ書房）ISBN:4623055620											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
次の映画作品のうち1つは視聴すること。「ジョーズ」(スピルバーグ)、「蛍の墓」(高畑勲)、「仁義なき戦い」(深作欣治)。											
（その他（オフィスアワー等））											
集中講義なので「オフィスアワー」はとくに設けません。											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 9 3

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(卒論演習) Twentieth Century Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉本 淑彦					
配当 学年	4回生のみ	単位数	4	開講年度・ 開講期	2015・ 通年	曜時限	金3,4	授業 形態	卒論演習	使用 言語	日本語
題目	卒業論文作成演習										
【授業の概要・目的】											
卒業論文作成に向けて、テーマの設定、先行研究の評価、議論構築、文献調査、聞き取り調査などについて、受講生に個別指導すると同時に、集団ディスカッションを通じて、現代文化に関わる多様な研究テーマに対する学知を深める。											
【到達目標】											
卒業論文を作成する上で必要になる力を養うことができる。											
【授業計画と内容】											
1 回目：卒論予定テーマについて全員が、その要略を説明する。 2 回目以降：各回とも、1名の受講生が、卒論予定テーマについて、研究の意義、先行研究、論旨、文献について報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、当該報告の問題点を洗い出し、さらに研究を進める場合の課題を考える。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（60点）と、卒論中間報告（40点）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） なし											
【授業外学習（予習・復習）等】											
各自が個別報告するにあたって配布するレジュメについて、報告の二日前までには完成させるよう、心がけなさい。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 9 4

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 永原 陽子					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	ソル・プラーキと20世紀初頭の南アフリカ										
【授業の概要・目的】											
ソル・プラーキ (Solomon Tshekisho Plaatje, 1876-1932)は、20世紀初めに活躍した南アフリカの思想家・政治活動家・文学者である。植民地主義からアパルトヘイトへと極端な差別と抑圧の体制が展開する時代にあって、プラーキは多面的に活動し、アメリカの黒人解放運動家などとも接点をもちつつ、南アフリカの歴史に大きな足跡を残した。この稀有な知性の思想と行動を、本人の書き残したもののやその他の史料に基づいて辿ることにより、アフリカにおける植民主義とそれに対する批判のあり方について考察する。											
【到達目標】											
プラーキという一人の人物の思想と行動、その背景となる20世紀の南アフリカの政治と社会について理解し、植民地の視点から現代史を見ることの意味をとらえる。											
【授業計画と内容】											
下記のテーマについて各2～3回で扱う。											
1.20世紀の南アフリカ社会 2.南アフリカ戦争とプラーキ 3.「南アフリカ原住民民族会議」の結成とプラーキ 4.1913年土地法とプラーキ 5.第一次世界大戦とプラーキ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末の試験で評価する。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
参考文献および使用する史料を講義の中で配布するので、指示にしたがって読んでおく必要がある。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 9 5

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 永原 陽子					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	アフリカ植民地兵をめぐる諸問題										
【授業の概要・目的】											
<p>植民地時代から現在までのアフリカでは、植民地分割の戦争、反植民地主義的な抵抗を鎮圧するための戦争、二度の世界大戦、内戦など、様々な戦争が繰り返されてきた。植民地時代の戦争では多くの植民地兵(=アフリカ人兵)が、植民地の境界を越えて動員された。</p> <p>本講義では植民地兵という存在に注目してアフリカ植民地にかかわる戦争を再検討し、植民地主義暴力の複合的な性格について考察する。</p>											
【到達目標】											
アフリカ植民地における植民地兵について多面的に考察し、植民地暴力についての理解を深める。											
【授業計画と内容】											
以下のテーマについて各3～4回で講義する。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 植民地兵とはどのような人々か</li> <li>2. 仏領植民地における植民地兵</li> <li>3. 英領植民地における植民地兵</li> <li>4. 植民地兵と女性</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末の試験で評価する。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
講義の中で紹介する参考文献を適宜読んでおくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 9 6

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小野澤 透					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	冷戦とアメリカ外交										
【授業の概要・目的】											
米ソ対立を軸に据えた冷戦史の見方を大幅に修正するひとつのアプローチとして、非共産世界の同盟国間外交や地域秩序の構築に着目する研究潮流が存在するが、中東に関してはそのような観点からの分析は必ずしも進んでいない。本特殊講義では、そのような問題関心に基づき、1950年代の米・英と中東の関係史を外交文書の実証的分析を通じて考察する。											
【到達目標】											
外交文書の実証的な分析に関するケース・スタディを通じて、国際関係史・外交史の方法論を修得するとともに、学術論文作成の際に必要な、米英の外交関係史料の探索方法や読解の技術の基礎を修得する。											
【授業計画と内容】											
冷戦を歴史的に理解しようとするとき、それを米ソ対立を基調とする国際政治の枠組みと捉えるだけでは不十分である。冷戦とは、米ソ間の対立・競争の契機と、東西それぞれの陣営内における超大国を頂点とする政治的・経済的・軍事的統合およびシステムを創造・維持・改変しようとする契機が、国際政治のみならず、多くの国々の政治・経済・社会のあり方をも大きく規定する世界秩序の枠組みであった。 以上のような問題意識に立ち、本年度は、昨年度に引き続き、1950年代における、米・中東関係にかかわる諸問題を検討する。おおまかな内容は以下のとおり。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．アメリカと中東（概観）</li> <li>2．英国の帝國的秩序とアメリカ</li> <li>3．中東石油資源とアメリカ</li> <li>4．地域的秩序構想の形成（1950-52）</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
Semester末のレポート											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義) (2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)

五十嵐武士 『アメリカ外交と21世紀の世界』 (昭和堂) ISBN:4-8122-0623-5

**[授業外学習(予習・復習)等]**

参考書も含め、授業中に適宜指示する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小野澤 透					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	冷戦とアメリカ外交										
【授業の概要・目的】											
米ソ対立を軸に据えた冷戦史の見方を大幅に修正するひとつのアプローチとして、非共産世界の同盟国間外交や地域秩序の構築に着目する研究潮流が存在するが、中東に関してはそのような観点からの分析は必ずしも進んでいない。本特殊講義では、そのような問題関心に基づき、1950年代の米・英と中東の関係史を外交文書の実証的分析を通じて考察する。(前期からの継続授業)											
【到達目標】											
外交文書の実証的な分析に関するケース・スタディを通じて、国際関係史・外交史の方法論を修得するとともに、学術論文作成の際に必要な、米英の外交関係史料の探索方法や読解の技術の基礎を修得する。											
【授業計画と内容】											
(授業計画と内容) 冷戦を歴史的に理解しようとするとき、それを米ソ対立を基調とする国際政治の枠組みと捉えるだけでは不十分である。冷戦とは、米ソ間の対立・競争の契機と、東西それぞれの陣営内における超大国を頂点とする政治的・経済的・軍事的統合およびシステムを創造・維持・改変しようとする契機が、国際政治のみならず、多くの国々の政治・経済・社会のあり方をも大きく規定する世界秩序の枠組みであった。 以上のような問題意識に立ち、本年度は、昨年度に引き続き、1950年代における、米・中東関係にかかわる諸問題を検討する。 後期の授業は、前期の授業を受講している前提で進める。おおまかな内容は以下のとおり。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．地域的秩序の追求（1953-1957）</li> <li>2．西側陣営統合政策の挫折（1957-1958）</li> <li>3．新たな地域的政策の枠組み（1958-1963）</li> <li>4．新たな石油秩序の展望（1958-1960）</li> </ol>											
【履修要件】											
前期の特殊講義（小野沢）を受講すること（前期の議論を前提に、説明を進める）											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
Semester末のレポート											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											



現代史学(特殊講義) (2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)

**[授業外学習(予習・復習)等]**

参考書も含め、授業中に適宜指示する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 HAYASHI, Brian					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目	アメリカ社会・文化史										
[授業の概要・目的]											
<p>The overall aim of this course is for students to develop a foundational understanding for why the United States of America became the world's superpower in the twentieth and twenty-first centuries. It takes as its subject the economic, legal/constitutional, political, military, social, and cultural aspects of the history of the United States, focusing on a society that emerged from a Third World-like condition to becoming a global power on the world stage by 1920.</p>											
[到達目標]											
<p>For the spring semester, the focus 到達目標 is on providing student with an informational background into economic, legal/constitutional, military, and political aspects as to how and why the United States of America became a world power. Every year, I add new lecture materials and change the topics around so that you will hear about new aspects of what I consider to be a very exciting research field called US History. Included in these sets of lectures are some "hot" topics like war and intelligence.</p> <p>The fall semester focuses on the "softer" subjects of the demographic (especially immigration), cultural (gender, women's reform movements, leisure and entertainment), and social such as how the United States transformed itself into a nation with many "subnations" and why I believe it is erroneous to treat America as a single unified (and uniform) cultural entity. While the lectures are in English, lectures outlines, multimedia presentations, and other visual aids are part of this course to help you understand the contents. Lecture outlines are given out to each student so that one can follow the lecture.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>One of the outstanding characteristic of this course is to encourage students to participate verbally in the discussion. I usually begin any given lecture with a discussion first of the broader, comparative themes of the topic, and then move into the specific case of the United States and how it differs or parallels similar processes in other countries. Thus foreign students with knowledge of their respective country's history are particularly encouraged to take this course and are invited to speak up during class discussion.</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
<p>For Bungakubu undergraduates, your grade is based on one paper, about 4-10 pages in length (in Japanese or English), on the topic of your choice due at the end of the spring semester (we will do the same for the fall semester), an oral presentation ("Meeting of the Minds"), and weekly short written summaries of the readings (to be assigned for each week). For Bungakubu graduate students, you also must turn in one paper per semester, about 6-12 pages in length, on the topic of your choice, due at the end of the spring and fall semesters, respectively. In addition to class discussions, we will do a "Meeting of the Minds" oral presentation on an appropriate historical character assigned to you. For SoJin students, the course requirements and grading are the same as for the Bungakubu undergraduate students, except that you are on a</p>											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

## 現代史学(特殊講義) (2)

one-semester basis. As for your “ Meeting of the Minds ” oral presentation, you will choose (or be assigned) a given character to “ play ” in the discussion in which you are, consistent with your character, are to present your own views of a given topic (to be announced later). Hence, your grade is based on the short, weekly summaries of the readings, your semester-end report, participation in the “ Meeting of the Minds, ” and participation in class discussions.

### [教科書]

The textbook for this course are the off-prints (プリント) located in the 現代文化学系共同研究室Room 819 of the 文学部新館. You should copy and return all items to the box. Please note many of the readings are new and have not been used before for this course.

### [参考書等]

( 参考書 )

Mary Beth Norton 『A People and a Nation』 ( Houghton Mifflin )  
紀平英作 『アメリカ史』 ( 山川出版社 )

### [授業外学習 ( 予習・復習 ) 等]

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

Fridays, 15:00-16:50 at F 407 ( 吉田南 4 号館 ) Tel.: 753-6623

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 HAYASHI, Brian					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目	アメリカ社会・文化史										
[授業の概要・目的]											
<p>The overall aim of this course is for students to develop a foundational understanding for why the United States of America became the world's superpower in the twentieth and twenty-first centuries. It takes as its subject the economic, legal/constitutional, political, military, social, and cultural aspects of the history of the United States, focusing on a society that emerged from a Third World-like condition to becoming a global power on the world stage by 1920.</p>											
[到達目標]											
<p>For the spring semester, the focus 到達目標 is on providing student with an informational background into economic, legal/constitutional, military, and political aspects as to how and why the United States of America became a world power. Every year, I add new lecture materials and change the topics around so that you will hear about new aspects of what I consider to be a very exciting research field called US History. Included in these sets of lectures are some "hot" topics like war and intelligence.</p> <p>The fall semester focuses on the "softer" subjects of the demographic (especially immigration), cultural (gender, women's reform movements, leisure and entertainment), and social such as how the United States transformed itself into a nation with many "subnations" and why I believe it is erroneous to treat America as a single unified (and uniform) cultural entity. While the lectures are in English, lecture outlines, multimedia presentations, and other visual aids are part of this course to help you understand the contents. Lecture outlines are given out to each student so that one can follow the lecture.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>One of the outstanding characteristics of this course is to encourage students to participate verbally in the discussion. I usually begin any given lecture with a discussion first of the broader, comparative themes of the topic, and then move into the specific case of the United States and how it differs or parallels similar processes in other countries. Thus foreign students with knowledge of their respective country's history are particularly encouraged to take this course and are invited to speak up during class discussion. In the discussion, lecture outlines will be passed out.</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
<p>For Bungakubu undergraduates, your grade is based on one paper, about 4-10 pages in length (in Japanese or English), on the topic of your choice due at the end of the spring semester (we will do the same for the fall semester), an oral presentation ("Meeting of the Minds"), and weekly short written summaries of the readings (to be assigned for each week). For Bungakubu graduate students, you also must turn in one paper per semester, about 6-12 pages in length, on the topic of your choice, due at the end of the spring and fall semesters, respectively. In addition to class discussions, we will do a "Meeting of the Minds" oral presentation on an appropriate historical character assigned to you. For SoJin students, the course</p>											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

## 現代史学(特殊講義) (2)

requirements and grading are the same as for the Bungakubu undergraduate students, except that you are on a one-semester basis. As for your “ Meeting of the Minds ” oral presentation, you will choose (or be assigned) a given character to “ play ” in the discussion in which you are, consistent with your character, are to present your own views of a given topic (to be announced later). Hence, your grade is based on the short, weekly summaries of the readings, your semester-end report, participation in the “ Meeting of the Minds, ” and participation in class discussions.

### [教科書]

The textbook for this course are the off-prints (プリント) located in the 現代文化学系共同研究室Room 819 of the 文学部新館. You should copy and return all items to the box. Please note many of the readings are new and have not been used before for this course.

### [参考書等]

( 参考書 )

Mary Beth Norton 『A People and a Nation』 ( Houghton Mifflin )

紀平英作 『アメリカ史』 ( 山川出版社 )

### [授業外学習 ( 予習・復習 ) 等]

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

Fridays, 15:00-16:50 at F 407 ( 吉田南 4 号館 ) Tel.: 753-6623

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 村上 衛					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	仲介者のつくる歴史 伝統中国										
【授業の概要・目的】											
グローバル化が進展する現在、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割はますます大きくなっている。例えば、企業がある地域に進出する場合、現地の言語・事情に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わるであろう。本講義は、こうした仲介者の意義について、伝統中国（主として19世紀中葉まで）における事例を中心に、中国経済の歴史的展開をふまえて考察してみたい。											
【到達目標】											
前近代における中国経済の展開を把握したうえで、伝統中国における仲介者の役割について理解する。											
【授業計画と内容】											
1. ガイダンス 2. 古代中国経済と商業 3. 隋唐帝国経済と商業 4. 宋代商業の発展と仲介者 5. モンゴル時代のユーラシア商業 6. 明代経済の展開と牙行 7. 明代中期の商業の発展と仲介者 8. 明代後期の商業の発展と仲介者 9. 東アジア海域交流と仲介者 10. 倭寇的状况と仲介地(1) 11. 倭寇的状况と仲介地(2) 12. 明清交替期の海域世界と仲介者 13. 清代海上貿易の展開と仲介者 14. まとめ											
【履修要件】											
前期・後期ともに履修することが望ましい											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義) (2)

**[教科書]**

使用しない  
毎回レジュメを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 村上 衛					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	仲介者のつくる歴史 近現代中国										
【授業の概要・目的】											
<p>グローバル化が進展する現在、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割はますます大きくなっている。例えば、企業がある地域に進出する場合、現地の言語・事情に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わるであろう。本講義はこうした仲介者の意義について、近現代中国（19世紀中葉～20世紀中葉）の事例を中心に、中国経済の変容をふまえつつ考察する。同時に世界の他地域の仲介者や現在の仲介者と比較してみたい。</p>											
【到達目標】											
<p>近現代における仲介者の役割を把握したうえで、前近代や他地域の仲介者と比較してその特徴を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 海峽近代のはじまりと仲介者</li> <li>3. 開港場貿易：外国人商人と買弁</li> <li>4. 苦力貿易と客頭</li> <li>5. 開港場貿易の発展と行棧</li> <li>6. 外国籍華人と在華外国領事の役割（1）</li> <li>7. 外国籍華人と在華外国領事の役割（2）</li> <li>8. 工業化と日系企業のあり方：日系商社、在華紡</li> <li>9. 前近代東南アジア海域の仲介者</li> <li>10. 前近代インド洋世界の仲介者</li> <li>11. 前近代地中海世界の仲介者</li> <li>12. 現代の多国籍企業と仲介者</li> <li>13. 現代中国の仲介の場：香港・「経済特区」</li> <li>14. まとめ</li> </ol>											
【履修要件】											
<p>前期・後期ともに履修することが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。</p>											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											



現代史学(特殊講義) (2)

**[教科書]**

使用しない  
毎回レジュメを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 102

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 水野 直樹					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	日中戦争・アジア太平洋戦争期の朝鮮社会										
【授業の概要・目的】											
朝鮮近代史の中でも、戦時期は朝鮮社会の変化が大きかった時期である。日本は戦争遂行のために植民地朝鮮を総動員体制に組み込み、「皇民化政策」を進めた。志願兵制度・徴兵制度をはじめ、日本語常用、「皇国臣民ノ誓詞」朗読、神社参拝、労務動員、「従軍慰安婦」動員などがよく知られているが、社会・文化の様々な面でも大きな変化が見られた。これらの諸問題を考察することによって、現在の歴史認識問題を考える糸口とする。											
【到達目標】											
さまざまに議論されている植民地支配の諸問題、とりわけ戦時期の支配政策について考察するうえで基礎的な資料を理解し読み解く知識、能力を養う。											
【授業計画と内容】											
各週の授業では、上記のような問題を1つずつ取り上げて講義するとともに、受講者にも調査・発表を課すこととする。取り上げるテーマは、初回の授業で説明する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポート(50%)および平常点(50%)											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
取り上げるテーマに沿って事前に文献・資料調査をすること。発表の際には、調査にもとづいて配布資料を作成すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 助教 小野 容照					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	朝鮮独立運動と国際関係										
【授業の概要・目的】											
1910年から1945年まで日本の統治下にあった朝鮮では、様々な形で独立運動が展開された。現在、韓国政府は独立運動の功労者の発掘や顕彰を行っており、韓国の歴史教科書でも独立運動に少なくない紙幅が割かれるなど、植民地時代の独立運動に関する記憶は、韓国の民族アイデンティティを示すものとして重要視されている。しかしその一方で、朝鮮独立運動と国際社会との関係については、十分に明らかになっていない。この講義では、朝鮮独立運動と同時代の国際社会との関係について考察する。とりわけ、人類史上初の総力戦として世界規模で影響を及ぼした第一次世界大戦に着目しながら、大戦を契機として朝鮮独立運動が他国・他地域・他民族の運動とつながっていく過程について考え、グローバルな視野で朝鮮独立運動史を捉え直していきたい。											
【到達目標】											
1) 朝鮮独立運動の概要を理解する。あわせて、朝鮮独立運動の記憶が現在の韓国・北朝鮮でどのように活用されているのか理解を深める 2) 第一次世界大戦期の朝鮮を取り巻く国際状況について理解を深めるとともに、グローバルな観点から歴史を見る目を養う											
【授業計画と内容】											
以下のようなテーマについて、各々1～3週の授業をする予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：韓国における独立運動家の顕彰と対日協力者の清算事業</li> <li>2. 韓国併合以前の抗日運動</li> <li>3. ウラジオストクにおける朝鮮独立運動：帝政ロシアと日露再戦への期待</li> <li>4. 第一次世界大戦の勃発と朝鮮独立運動：中国、ドイツとの提携の摸索</li> <li>5. 日本における朝鮮独立運動：中国人革命家、台湾人と日本在留朝鮮人</li> <li>6. 民族受決主義と朝鮮人：ロシア二月革命、十月革命、ウィルソンの十四か条</li> <li>7. パリ講和会議と三・一独立運動</li> <li>8. コミンテルン、ソ連と朝鮮独立運動</li> <li>9. 朝鮮人の世界認識の拡大</li> <li>10. 北朝鮮における独立運動史研究について考える</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（20%）と期末レポート（80%）による。											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義) (2)

**[教科書]**

使用しない  
プリントなどを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

興味のある人は、授業中に紹介する参考書を読み、理解を深めて欲しい

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 高木 博志					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	古都の近現代										
【授業の概要・目的】											
奈良・京都の古都とは、かつて天皇が住んだ旧都であり、近代天皇制の課題である。昨今、空前の古都観光ブームで、2013年には5000万人を超える京都市観光客であり、「京都検定」、大学の「京都学」も盛んである。こうした観光言説としての古都論を批判的に見て、近現代における「歴史」「伝統」「古代」の意味を通史的に考えたい。また古都イメージの起源（京都＝「日本文化」、「雅」、「貴族」、「町衆」、奈良＝「天平文化」、「日本のギリシャ」）を近現代史を通じて考えたい。後期は主に20世紀の古都を取り上げるが、扱う問題は、政治・美術・文化財・観光・儀礼など多岐にわたり、具体的には授業計画を参照されたい。											
【到達目標】											
注のある形式の論文が作成できるように指導する。古都の近現代について、授業とフィールドの両面から、理解を深めるようにする。											
【授業計画と内容】											
<p>1 , 「日本文化」のなかの奈良・京都</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宝物調査・帝室博物館・古社寺保存法 美術・文化財の「制度化」</li> <li>・ 帝国博物館のコンセプト 東京・京都・奈良</li> <li>・ 第四回内国博覧会・平安遷都千百年記念祭（1895）</li> <li>・ 1900年、パリ万国博覧会 パビリオン、ジャポニズム、『稿本日本帝国美術略史』</li> <li>・ 名所の近代的再編（吉野山と桜、宇治・嵯峨野と古典文学） など</li> </ul> <p>2 , 大衆社会と古都 第一次世界大戦後の社会へのひろがり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大正大礼（1915）と昭和大礼（1928）の段階性と、古都の変化</li> <li>・ 1919年史蹟名勝天然紀念物保存法 嵐山・吉野山・月ヶ瀬・平城京</li> <li>・ 黒板勝美による帝国の中の文化財行政</li> <li>・ 1920年代以降の天皇制の荘厳化 陵墓・神社景観・御物の制度化</li> <li>・ 紀元2600年祝典と橿原神宮 など</li> </ul> <p>3 , 戦後社会と古都</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関東大震災・空襲・ウォーナー伝説 帝都の破壊と古都へのノスタルジー</li> <li>・ 法隆寺と文化財保護法、文化国家</li> <li>・ 象徴天皇制と古都 文化・「伝統」・儀礼の政治</li> <li>・ 世界遺産と文化財保護法</li> <li>・ 「さあ、京都行こう」、21世紀の観光 など</li> </ul>											
【履修要件】											
特になし											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義) (2)

**[成績評価の方法・観点及び達成度]**

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。授業で指示。平常点も加味する。

**[教科書]**

プリントを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究』(校倉書房)

高木博志 『近代天皇制と古都』(岩波書店)

**[授業外学習(予習・復習)等]**

東山、嵯峨野、京都御苑、神武陵など、古都の近代に関わる巡見を希望者で行う。

**(その他(オフィスアワー等))**

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 105

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 藤原 辰史					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	食と農の現代史										
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食 べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えること ではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食 と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブで とらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である。 1 日本の食をめぐる現状 2 世界の飢餓と飽食をめぐる現状 3 トラクターの歴史 4 第一次世界大戦期のドイツの飢餓 5 台所の歴史学 6 レシピの歴史											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末にレポートを課す。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。 池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』 藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』 藤原辰史 『ナチスのキッチン』 藤原辰史 『カブラの冬』 ポール・ロバーツ 『食の終焉』											
											----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----

現代史学(特殊講義) (2)

( 関連URL )

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

**[授業外学習(予習・復習)等]**

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。



授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 藤原 辰史					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	食と農の現代史										
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、将来の食と農の構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 食べる場所の歴史</li> <li>2 有機農業の歴史</li> <li>3 品種改良の歴史</li> <li>4 農婦の歴史</li> <li>5 伊藤永之介とその時代</li> </ol>											
【履修要件】											
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末にレポートを課す。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>(参考書)</p> <p>以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。</p> <p>池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』</p> <p>藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』</p> <p>藤原辰史 『ナチスのキッチン』</p> <p>藤原辰史 『カブラの冬』</p> <p>ポール・ロバーツ 『食の終焉』</p>											
											----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----

現代史学(特殊講義) (2)

( 関連URL )

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

**[授業外学習(予習・復習)等]**

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	教育学研究科 教授 佐藤 卓己					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	メディア文化学概論										
【授業の概要・目的】											
<p>メディア論を中心に、現代社会における情報とコミュニケーションの変容を考察する。とくに、「メディア論とはメディア史である」という立場から、歴史社会学的な視点を重視する。具体的には以下3つの「通説」あるいは「常識」の批判的検討を中心に考察し、メディア論的思考の理解を深める。</p> <p>「メディアは、人々のコミュニケーションを豊かにする。」</p> <p>マス・コミュニケーション研究が戦時動員体制という20世紀パラダイムにおいて構築されてきた経緯を検討する。</p> <p>「世論を重視する政治が、正しい民主主義である。」 大衆社会における「輿論の世論化」を検討し、「世論の輿論化」の可能性を探る。</p> <p>「日本のメディアは特殊である。」 現代日本のメディア環境を、世界システムの同時代性の中で比較検討し、現代社会への批判的視座の獲得を目指す。</p>											
【到達目標】											
メディア文化学の基本をなす比較メディア論の立場がどのように形成されたかを理解し、その視点からメディア史を吟味し、現代社会の合意形成システムを考察することができるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1-3回 メディア社会とは何か 第4回 メディア史としてのコミュニケーション研究 第5回 メディア都市の成立 第6章 出版資本主義と近代精神 第7回 大衆新聞の成立 第8回 視覚人間の国民化 第9回 宣伝のシステム化と動員のメディア 第10回 ラジオとファシスト的公共性 第11回 トーキー映画と総力戦体制 第12回 テレビによるシステム統合 第13回 情報化の未来史 第14回 脱・情報化社会へ 第15回 試験											
【履修要件】											
メディアに関心があり、情報への感度が高いこと。											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義) (2)

**[成績評価の方法・観点及び達成度]**

試験を行う。評価基準については、講義中に説明する。

**[教科書]**

佐藤卓己『現代メディア史』（岩波テキストブックス・1998）ISBN:4000260154（中国からの留学生は佐藤卓己『現代伝媒史』（北京大学世界伝播学経典教材中文版）北京大学出版社2004年を利用してよい。）

**[参考書等]**

（参考書）

佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店・2009年）ISBN:4000283227（メディア史＝メディア論の発想法について、参照のこと。）

（関連URL）

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/satolab/>(メディア文化論研究室HP)

**[授業外学習（予習・復習）等]**

テキスト『現代メディア史』の各章、第一節、第二節を読んで授業に出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

メディア文化学の初学者は、  
佐藤卓己『メディア社会 現代を読む視点』（岩波新書・2006年）を、  
歴史学の初学者は、  
佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波新書・2009年）を、  
事前に読んでおくことが望ましい。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	津田塾大学 学芸学部 准教授 吉岡 潤					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	「ソ連・東欧圏」の形成過程										
【授業の概要・目的】											
第二次世界大戦から戦後初期にかけての「ソ連・東欧圏」の形成をめぐる国際関係を、いわゆる冷戦起源論争と重ね合わせながら分析する。冷戦初期のヨーロッパにおける地域秩序の形成過程を、ソ連やポーランドなど東欧諸国の視点から論じてみたい。											
具体的には、中・東欧地域にとっての第二次世界大戦の意義、戦時および戦後初期におけるソ連の対東欧政策（特に対ポーランド政策）、冷戦の起源とソ連・東欧圏の形成などを検討課題とする。											
【到達目標】											
冷戦終結後に進んだソ連側の史料公開・研究を踏まえると冷戦下の「ソ連・東欧圏」の形成過程がどのように描けるのか（描き直せるのか）、理解すること。											
今日の中・東欧における国際関係にまで影響がおよぶ地域秩序のあり方が歴史的に考察できるようになるための手がかりを得ること。											
【授業計画と内容】											
以下の通りに進めることができればいいな、と思っている。											
1. ソ連・東欧圏とは何か、何だったか											
2. 第二次世界大戦と東欧・ソ連											
(1) 独ソ不可侵条約体制とソ連の領土拡大											
(2) 独ソ戦期ソ連の戦時外交と東欧：ポーランド問題を中心に											
3. 戦後初期の東欧・ソ連											
(1) 東欧における戦後処理とソ連											
(2) 冷戦の開始とソ連・東欧圏の確立											
4. 改めて、ソ連・東欧圏とは何だったか											
【履修要件】											
特になし											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義) (2)

**[成績評価の方法・観点及び達成度]**

講義最後に実施する試験にて評価（出席状況により受験資格を制限することもありえる）。

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学習（予習・復習）等]**

いわゆる冷戦起源論争について事前にある程度調べておく講義の理解に役立つだろう。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 秋田 茂					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	戦後アジア国際経済秩序の形成・変容 グローバルヒストリーの視点から										
【授業の概要・目的】											
<p>現代の東アジアの「経済的再興」の歴史的起源を、グローバルヒストリーの視点から考察する。グローバルヒストリーのキイ概念は、「比較」と「関係性」であるが、本講義では関係性を重視し、関係史として、第二次大戦後のアジア国際経済秩序を再考する。</p> <p>具体的には、冷戦、脱植民地化、経済開発（開発主義）の相互関連性を、ヘゲモニーの移行、アジア・ナショナリズムの勃興、経済援助と絡めて考察することで、戦後アジアの国際経済秩序の形成と変容、その世界史的な意義を明らかにしたい。</p>											
【到達目標】											
グローバル経済史の最新の研究動向を把握することが可能になる。											
【授業計画と内容】											
<p>以下のような課題で、1課題当たり1-2週の講義を行う予定である：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1930年代のアジア国際秩序</li> <li>2. 第二次世界大戦期</li> <li>3. 南アジアの脱植民地化とインド</li> <li>4. 1950年代の東アジア国際経済秩序とスターリング圏</li> <li>5. コロンボ・プランの変容とスターリング圏</li> <li>6. インド援助コンソーシアムの展開</li> <li>7. シンガポールの工業化</li> <li>8. 香港の工業化</li> <li>9. 開発体制の展開 韓国・韓国</li> <li>10. 日本の経済援助</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポート試験（80％）、平常点評価（20％）											
【教科書】											
<p>使用しない</p> <p>毎回、関連の資料を配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>秋田茂編 『アジアからみたグローバルヒストリー』（ミネルヴァ書房）ISBN:978-4-623-06717-6（グローバルヒストリーとアジアの関連を考える必読文献）</p>											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

## 現代史学(特殊講義) (2)

杉原 薫 『アジア太平洋経済圏の興隆』（大阪大学出版会）ISBN:4-87259-127-5 C1333（世界経済の大きな見取り図を提示）

秋田茂・籠谷直人編 『1930年代のアジア国際秩序』（溪水社）ISBN:4-87440-556-8 C3033（戦前からの連続性を考察する上での必読文献）

上記の3冊以外にも、毎回の授業に関連する文献を紹介するので、レポートの作成のために十分に活用して欲しい。

### [授業外学習（予習・復習）等]

毎回の授業で、次回の授業までに読むべき文献を紹介するので、その参照・参考文献を事前に最低1点読んだ上で、受講すること。

### （その他（オフィスアワー等））

一国史の枠組を超えたグローバルヒストリーの観点を重視するため、柔軟な発想と、積極的な探究力が求められる。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。



授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	地域研究統合情報センター 教授 貴志 俊彦					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	非文字資料から読む日中関係史										
【授業の概要・目的】											
<p>東アジア域内では、歴史認識問題や領土問題を契機として、相互イメージが悪化し、さまざまな面で緊張した局面が発生している。この種の政治的、社会的な対立が激化する一方で、各地では協調、融和的な社会を築こうとする意識が働きつつあることも忘れてはならない。</p> <p>本授業では、近100年に日本と中国との間で起こった歴史的イベント、あるいは時代の画期となるトピックをとりあげ、それぞれの局面で登場した非文字資料が果たした役割と、その受容者の解釈を検討することを目的とする。</p> <p>日中関係を対象とした非文資料を取り上げることで、日中間の紛争を地域、世論、社会集団、個人などから捉える視座と、それらを客観的に比較対照するメディア・リテラシーを習得する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近100年間の日中関係の理解を深めることができる。</li> <li>・日中関係史について最先端の研究の状況を知ることができる。</li> <li>・PPTによるプレゼン能力が高まる。</li> <li>・ヒアリング調査の方法を取得し、かつその能力を高めることができる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．授業の目的と方法</li> <li>2．「日本」「中国」とは何か？</li> <li>3．日中関係の捉え方についての諸説</li> <li>4．[1900年代]日露戦争の影響</li> <li>5．[1910年代]五四運動と対日観の変化</li> <li>6．[1920年代] 対華21か条条約と日貨排斥運動</li> <li>7．[1930年代] 満洲国問題と日中戦争</li> <li>8．[1940年代] 太平洋戦争の終結と中華人民共和国の成立</li> <li>9．[1950年代]サンフランシスコ講和条約と日華条約</li> <li>10．[1960年代] LT (MT) 貿易と文化大革命</li> <li>11．[1970年代]日中国交正常化と日台断交</li> <li>12．[1980年代]天安門事件と歴史教科書問題</li> <li>13．[1990年代]日中共同宣言</li> <li>14．[21世紀]現在の日中関係</li> <li>15．総合討論</li> </ol>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

**[履修要件]**

・日本語の会話に不自由でないこと。

**[成績評価の方法・観点及び達成度]**

評価ポイントは、以下のとおり。

- 1．出席状況
- 2．非文字資料を用いた小発表（授業中）
- 3．授業中の議論への参加姿勢（質疑応答）
- 4．レポートの量と質

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学習（予習・復習）等]**

・当日の授業内容に即した情報を、インターネットなどを使って収集する。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	埼玉大学 教養学部 准教授 一ノ瀬 俊也					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	戦艦武蔵の戦後史										
【授業の概要・目的】											
<p>戦後日本における「戦争体験」の内容や語られ方が、日本社会の戦争観を大きく規定していることは論を俟たない。この講義では、太平洋戦争中の1944年に撃沈された日本海軍の巨大戦艦武蔵について戦後に編まれた諸テキストとその語られ方、時代背景などを時系列に即して概観することにより、戦後日本社会では先の戦争について何が選択的に語られ、何が無視されてきたのか解明することが目標である。</p> <p>具体的には吉村昭の小説『戦艦武蔵』（1968）、同『戦艦武蔵ノート』（1970）や渡辺清『戦艦武蔵の最期』（1970）、同『戦艦武蔵のさいご』（1974）、手塚正己『軍艦武蔵』（上下、2003）、同『『軍艦武蔵』取材記』（2004）などをとりあげる。もちろん単なる文学論ではなく、その背後にある社会との関係が主要な論点となる。</p> <p>もう一つのテーマとして、戦艦武蔵（およびその物語）と戦艦大和との比較を行う。戦艦大和は吉田満の小説『戦艦大和ノ最期』によって今日に至るまで著名であるが、武蔵は必ずしもそうではない。両艦の差は何によって生じたのか、そこから戦後日本の戦争観についてどのような特徴が読みとれるのかを考えたい。</p>											
【到達目標】											
日本の戦後社会史と戦争体験について、諸史料の読解およびこれに即した叙述が可能となる。											
【授業計画と内容】											
第1回 はじめに 日本海軍略史 第2回 戦艦武蔵の歴史 第3回 吉田満『戦艦大和ノ最期』と佐藤太郎『戦艦武蔵の最後（ママ）』 第4回 物語上における戦艦武蔵の復活 1950～60年代 第5回 吉村昭『戦艦武蔵』とその社会的背景 1960～70年代 第6回 吉村昭『戦艦武蔵ノート』 第7回 渡辺清『戦艦武蔵の最期』とその社会的背景 吉田満と何が違うか 第8回 同『戦艦武蔵のさいご』 児童文学と戦争 第9回 没になった映画『戦艦武蔵』シナリオ なぜ武蔵は人々に必要とされなかったのか 第10回 語りはじめた乗組員たち 「戦争体験」に関する諸問題 第11回 手塚正己『軍艦武蔵』 『『軍艦武蔵』取材記』 吉村昭と何が違うか 第12回 手塚『ドキュメンタリー戦艦武蔵』をめぐって その1 第13回 手塚『ドキュメンタリー戦艦武蔵』をめぐって その2 第14回 戦艦武蔵の仮想戦記群 日本社会はなぜ「トンデモ」戦記を必要とするのか？ 第15回 まとめ											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義) (2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点及び達成度】**

レポート(100点)

**【教科書】**

使用しない

特定の教科書の代わりに、随時プリントを配布して進めていく。

**【参考書等】**

(参考書)

一ノ瀬俊也『(題名未定、戦艦大和の戦後史について)』(人文書院)(2015年4月頃発刊予定 興味がある人は一読していただくと幸いです(購入する必要はありません)。)

**【授業外学習(予習・復習)等】**

事前に吉村昭『戦艦武蔵』はじめ、上記の諸テキストを読んでおいていただくと理解が深まると思います。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	三菱UFJリサーチ&コン サルティング株式会社 石尾 和哉					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	戦後日本経済史 ~ カルチャー研究のプラット・フォームとして ~										
【授業の概要・目的】											
<p>日本の第二次大戦後の経済史を概観することで、各時代の大衆文化の背景を理解するための素養を身に付けることを目的とする。</p> <p>経済変動は所得増減や失業率などへの影響を通じて、人々のマインドに影響を与える。それが大衆文化に大なり小なり影響を与えているものと考えられる。</p> <p>各時代の出来事や空気感と共に立体的に経済的背景を理解し感じて頂くことで、カルチャー研究の一助として頂きたい。</p>											
【到達目標】											
<p>歴史に「必然」があるのか否かは不明。しかし因果はあるだろう。即ち現在が過去の行動の結果であるなら、歴史を学ぶことで現在のカルチャーを理解する一助となる。</p> <p>経済情勢は人々の生活に影響を与え、将来見通しに影響を与える。</p> <p>一方、大衆文化は人々の潜在ニーズが大きな潮流となって発現するものであるならば、経済情勢が大衆カルチャーの発現にかなりの影響を与えていると考えられる。従って経済史を学ぶことで、現在を含め、各時代の大衆文化の背景を理解することが可能となる。各自の研究テーマを深く考察するために、本講義を通じて経済史の知識を活用できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>概ね、時代区分毎に各回独立的に講ずる。</p> <p>経済史を概観した後に、各時代の代表的なカルチャーや商品を紹介し、経済情勢がどのように大衆文化に影響を与えたのかを考察する。</p> <p>(授業の進度によっては各回の内容が変わる場合がある)</p>											
<p>第1回           オリエンテーション</p> <p>第2回           戦後経済史概観</p> <p>第3回           戦中～戦後復興期</p> <p>第4・5回       高度成長期の経済、カルチャー、商品</p> <p>第6回           安定成長期の経済、カルチャー、商品</p> <p>第7回           IT経済とカルチャーへの影響(注)</p> <p>第8・9回       バブル期の経済、カルチャー、商品</p> <p>第10・11回    経済停滞期の経済、カルチャー、商品</p> <p>第12・13回    小泉改革と反動期の経済、カルチャー、商品</p> <p>第14回         アベノミクス時代の経済、カルチャー、商品</p> <p>第15回         全体まとめ</p> <p>(注)第7回はゲスト講師を予定 (三菱UFJリサーチ&amp;コンサルティング(株) 経営コンサルタント。京大情報学研究科卒)</p>											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義) (2)

「1990～2010年代のIT発達による経済とカルチャーへの影響」

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

出席点と期末レポート(3000字～5000字)の成績を総合的に評価する。  
尚、レポートのテーマ、字数、提出要領などは授業中に示す。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)  
八代尚宏 『日本経済論・入門』(有斐閣) ISBN:978-4641164116 (コンパクトに戦後日本経済史が概観できる)  
野口悠紀雄 『戦後日本経済史』(新潮選書) ISBN:978-4-10-603596-8 (戦後経済政策の立案者側の情報が得られる)

(関連URL)

<http://www.murc.jp/corporate/professionals/37397>(講師所属企業のホームページ)

【授業外学習(予習・復習)等】

自身の研究テーマを明確にして、各回の授業内容を元に、自分のテーマに関する考察を深めていく材料として活用して頂きたい。

(その他(オフィスアワー等))

講師は、メーカー勤務の後、現在のシンクタンクで経営コンサルティング活動と並行して、経営学研究、カルチャー研究を行っています。  
(京都大学博士(経済学)、及び 二十世紀学専修卒業)

授業に関する質問・意見、あるいは市場経済、企業経営に関する質問などメール等でお寄せ頂くことを歓迎します。

ishio@murc.jp

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 1 1 3

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	地域研究統合情報センター 准教授 帯谷 知可					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	現代中央アジアにおける歴史の見直しの諸相										
【授業の概要・目的】											
この授業では、旧ソ連中央アジア、特にウズベキスタンを対象として、ソ連時代のペレストロイカによる自由化、さらに独立とソ連解体を契機として進行した、歴史の見直しの諸相を検討する。それを通じて、現代中央アジア理解を深めるとともに、多様な歴史叙述のあり方についての認識を深めることをねらいとする。											
【到達目標】											
中央アジアの近現代（帝政ロシア支配期～ソ連期～ソ連解体・独立から現代まで）の歴史の流れと、ソ連時代から現代に至るまでの中央アジアにおける基本的な民族観・歴史観および歴史記述の特徴を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下の予定に従い、講義を行う。											
<ul style="list-style-type: none"> <li>* 旧ソ連中央アジアという地域の概要（第1-2週）</li> <li>* 民族史の記述（第3-4週）</li> <li>* ペレストロイカと歴史の見直し（第5-7週）</li> <li>* 独立後の新しいナショナリズムと歴史研究（第8-9週）</li> <li>* 評価の逆転（ティムール、ジャディード運動、バスマチ運動）（第10-12週）</li> <li>* 新しい正史（第13-14週）</li> <li>* まとめ、フィードバック（第15週）</li> </ul>											
なお、参加者の関心次第で、現代ウズベク語またはロシア語の資料を読むことも視野に入れる。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
出席点30%、期末のレポート70%の割合で評価を行う。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 宇山智彦 『中央アジアを知るための60章』（明石書店）ISBN:978-4-7503-3137-9（中央アジア研究											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

## 現代史学(特殊講義) (2)

の入門書)

小松久男 『革命の中央アジア あるジャディードの肖像』 (東京大学出版会) ISBN:4-13-025027-2  
(ロシア革命期の中央アジアに関する必読文献)

宇山智彦 『「カザフ民族史再考 歴史記述の問題によせて」 『地域研究論集』 Vol. 2, No. 1 (1999)』  
(国立民族学博物館地域研究企画交流センター) (ソ連中央アジアの歴史記述の基本理念を論じた論文)

帯谷知可 『英雄の復活 現代ウズベキスタン・ナショナリズムのなかのティムール』 酒井啓子・臼杵陽編 『イスラーム地域の国家とナショナリズム』 (東京大学出版会) ISBN:4-13-034185-5 (ソ連解体後の中央アジアナショナリズムと歴史の見直しを論じた論文)

### [授業外学習(予習・復習)等]

授業期間中に、各回の講義内容を復習するとともに、参考書等としてあげている文献を読み、より深い理解と考察に結びつけてほしい。

### (その他(オフィスアワー等))

授業でも紹介しますが、中央アジア近現代史に関する文献をできる限り多く読んでください。連絡の必要がある場合はこちらへ [obiya\[at\]cias.kyoto-u.ac.jp](mailto:obiya[at]cias.kyoto-u.ac.jp) ([AT]を@に替えてください)

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。



基礎現代文化学系 1 1 4

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	関西大学 総合情報学部 教授 喜多 千草					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	「情報技術と戦争」について考える										
【授業の概要・目的】											
この講義では、戦争と技術の関わりについて、コンピューティング史の観点から考察する。具体的には、第二次世界大戦中のデジタルコンピュータの開発や暗号解読、冷戦時の全米防空網の構築からコンピュータ・ネットワークの開発などの諸問題を取り上げる。これにより、受講生はコンピューティング史のアプローチを学び、過去の経緯・帰結が現在のありようにどのように影響してきたかについて理解を深めることになるだろう。											
【到達目標】											
コンピューティング史の文献の扱い方の基本を学び、戦争と技術の関わりについて研究するための視点を得る。											
【授業計画と内容】											
授業概要（各項目について1～3回程度の授業を行う）											
<ul style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>Giant Brainの構築</li> <li>暗号解読と計算機</li> <li>人間機械混成系という概念</li> <li>全米防空網SAGE</li> <li>航空宇宙開発と計算機</li> <li>コンピュータ・ネットワークの発展</li> <li>まとめ・フィードバック</li> </ul>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点による（授業中のディスカッションや学期末の課題提出）。											
【教科書】											
適宜、授業内にプリント配布、およびウェブサイトに資料をアップロードなどする。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

(関連URL)

[www.kitalab.org/KyotoUnivLecture/index.html](http://www.kitalab.org/KyotoUnivLecture/index.html) ( ( 詳しい授業計画や参考資料。オリエンテーションでパスワード等を周知する。 ) )

**[授業外学習(予習・復習)等]**

授業で言及する文献の一部については、予習して参加することが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

詳しくは授業用ウェブサイトから指示する。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 1 1 5

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 小関 隆					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	第一次世界大戦の「長い影」										
【授業の概要・目的】											
今年度の授業では、「現代の起点」ともいふべき第一次世界大戦が惹起した諸問題が、その後の「現代世界」の展開をいかに規定したかを考える。さしあたりの射程はいわゆる「戦間期」となるが、必要に応じて第二次世界大戦後にも論及する。また、イギリスに議論の焦点を合わせつつ、アイルランド、アメリカ、さらにはヨーロッパ大陸諸国の情勢も適宜参照する。とりあげる論点は、ナショナリズム、デモクラシー、帝国、資本主義、平和主義、等である。第一次世界大戦の「長い影」が差す時代として「戦間期」を理解することが授業の眼目となる。											
【到達目標】											
第一次世界大戦との連続性という歴史的パースペクティブの下で、「戦間期」を把握する能力を身につけること。											
【授業計画と内容】											
以下に掲げたテーマの各々につき、1～3回程度の授業を充てる予定である。 (1) 第一次世界大戦とはいかなる戦争であったか？ (2) ナショナリズム (3) デモクラシー (4) 帝国 (5) 資本主義 (6) 芸術 (7) コメモレイション (8) 平和主義 (9) その他											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポートによる評価を基本とする。											
【教科書】											
使用しない											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義) (2)

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

以下の文献を参照することが望ましい。

山室信一・岡田暁生・小関隆・藤原辰史(編)『現代の起点 第一次世界大戦』(全4巻)岩波書店2014年。  
人文書院刊の「レクチャー: 第一次世界大戦を考える」シリーズ(既刊12冊、続刊予定)。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	同志社大学 グローバル地域文化学部 准教授 小川原 宏幸					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	近代における日朝交渉・関係史										
【授業の概要・目的】											
日本と朝鮮との間で歴史的に形成されてきた関係は、現在の朝鮮民主主義人民共和国・大韓民国をめぐるさまざまな情勢を大きく規定している。したがって現在における日本と朝鮮半島とのかわりを理解する上で両地域間の歴史に対する理解が不可欠である。 この講義では、同時代の東アジア国際関係を踏まえながら、近世から20世紀はじめまでの日朝・日韓間における歴史を、特に日本と朝鮮半島との政治文化の差異に注目しながら検討する。											
【到達目標】											
日本と朝鮮とのかわりを歴史の展開過程を理解するための視野を確立するとともに、現代の日朝・日韓関係を考える手がかりをつかむことができるようになる。											
【授業計画と内容】											
(1) イントロダクション：近現代史を見るまなざし (2) 近世の朝鮮社会と日本 (3) 通信使外交の虚実 (4) 明治維新と征韓論の形成 (5) 大院君政権の攘夷政策と日本 (6) 江華条約の締結 (7) 壬午軍乱と日本 (8) 甲申政変と日本 (9) 朝鮮中立化構想と日本 (10) 日清戦争と朝鮮 (11) 日露戦争と朝鮮 (12) 国権回復運動と日本 (13) 朝鮮の植民地化と韓国併合 (14) 近代日本の朝鮮観 (15) まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（出席，授業態度）40%：授業時に毎回，授業内容についてリアクションペーパーを提出してもらう。その内容に応じて平常点を算出し，単なる出席点は付与しない。  期末レポート60%：期末レポートでは，次の基準にもとづいて評価を行う。 分析能力：具体的事実を掘り下げた上で，どの程度客観的に分析できるか 論述能力：論旨一貫した他人にわかりやすい論述ができるか 課題提示能力：自己の分析にもとづいて論点をどの程度提示できるか なお，分析能力35%，論述能力35%，課題提示能力30%の配点とする											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義) (2)

**[教科書]**

趙景達編 『近代日朝関係史』（有志舎）ISBN:978-4-903426-62-4

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学習（予習・復習）等]**

授業の前に、教科書の該当部分を読んでくること。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 1 1 7

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	ロシア・メシアニズムと戦争										
【授業の概要・目的】											
<p>クリミア戦争後、ロシアは一般兵役義務の導入にともなって民衆的ナショナリズムを鼓吹した。ロシア的メシアニズムはスラヴの同胞の救済だけではなく、ヨーロッパの没落と新世紀の到来を夢想し、様々な文化的・政治的運動に影を落とした。ポリシェヴィキも例外ではない。本広義では戦争あるいは「文化戦争」を主軸に、革命に至るまでのロシアの世界史的な自己意識とその問題点を歴史的に概観する。</p>											
【到達目標】											
ロシアの文化的自意識を、歴史的に理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画と内容 以下の内容について、各2回程度の講義を行う予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イントロダクション：宇宙旅行の目的</li> <li>・クリミア戦争とトルストイ</li> <li>・聖戦としての露土戦争</li> <li>・ブルガリア問題</li> <li>・集合論、周期律、アヴァンギャルド</li> <li>・バルカン戦争</li> <li>・第一次世界大戦</li> </ul>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくことが望ましい。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは、月曜3限とする。											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	富山大学 人文学部 教授 湊谷 由里					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	中国の兵士と軍隊										
【授業の概要・目的】											
<p>中国では特に近世以降、「まっとうな人は兵にならない」ということわざが生まれたほど兵士になることが忌避された。脱走兵が匪賊になり、匪賊から兵を募集することも日常的であったため、兵士の略奪暴行はやむをえないものとして放置された。このように兵士が蔑視され、軍規が低い状態はなぜ出現したのか。この問題をどのように解決して「近代」の軍隊が生まれてくるのか（あるいは生まれなかったのか）。日中戦争で日本軍が戦った「中国軍」とはどのようなものだったのか。また、現在の人民解放軍が登場する歴史的背景を深くほりさげて考える。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1、中国軍事史の要点を理解する。</li> <li>2、人民解放軍の歴史的背景を理解する。</li> <li>3、中国における兵士の社会的地位の変遷と、日本との相違点を理解する。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 古代の兵制</li> <li>3 魏晋南北朝時代における変化</li> <li>4 唐代の節度使</li> <li>5 北宋と遼、南宋と金</li> <li>6 モンゴルがもたらしたもの</li> <li>7 明代の衛所制</li> <li>8 清代の八旗制</li> <li>9 太平天国の衝撃</li> <li>10 「近代軍」への試行錯誤</li> <li>11 中華民国時代における「軍閥」割拠</li> <li>12 国民党の軍隊</li> <li>13 共産党の軍隊</li> <li>14 人民解放軍を考える</li> </ol>											
【履修要件】											
前期・後期ともに履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
5回目および9回目に相当するところで確認テストを行い、最終回終了後にもコメントリーパーを課して、その総合点によって評価する。											
【教科書】											
使用しない											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											



現代史学(特殊講義) (2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

中国史の概略は理解しているものとして授業を進める。専攻以外の学生は、概説書その他でよく予習しておくこと。履修者は、年表・中国の地図・概説書などを授業に持参してもよい。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 高木 博志					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	古都の近現代										
【授業の概要・目的】											
奈良・京都の古都とは、かつて天皇が住んだ旧都であり、近代天皇制の課題である。昨今、空前の古都観光ブームで、2013年には5000万人を超える京都市観光客であり、「京都検定」、大学の「京都学」も盛んである。こうした観光言説としての古都論を批判的に見て、近現代における「歴史」「伝統」「古代」の意味を通史的に考えたい。また古都イメージの起源（京都＝「日本文化」、「雅」、「貴族」、「町衆」、奈良＝「天平文化」、「日本のギリシャ」）を近現代史を通じて考えたい。前期は主に19世紀の古都を取り上げるが、扱う問題は、政治・美術・文化財・観光・儀礼など多岐にわたるが、具体的には授業計画を参照されたい。											
【到達目標】											
注のある形式の論文が作成できるように指導する。古都の近現代について、授業とフィールドの両面から、理解を深めるようにする。											
【授業計画と内容】											
1 , 近世の朝廷と京都 ・大嘗祭・朝儀の復興 ・観光スポットとしての京都御所 ・泉涌寺・皇室由緒寺院と皇室の仏事 など 2 , 明治維新と古都 ・「神武創業」と古都奈良の浮上 ・東京「奠都」(1869)という起点 ・泉涌寺の明治維新 ・古都の文明開化 京都博覧会・奈良博覧会・新京極の成立 など 3 , 19世紀、世界の「伝統」保存を学ぶ ・ロシア・オーストリア・イギリスなどの王室と伝統文化 ・岩倉具視の「旧慣」保存策(1883) ・古社寺調査と保存の開始 ・岡倉天心・フェノロサと欧米の美術・文化財論 ・大日本帝国憲法の発布と帝都東京・古都奈良・京都の定置 など											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。授業で指示。平常点も加味する。											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義) (2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究』(校倉書房)

高木博志 『近代天皇制と古都』(岩波書店)

[授業外学習(予習・復習)等]

東山、嵯峨野、京都御苑、神武陵など、古都の近現代に関わる巡見を希望者とする。

(その他(オフィスアワー等))

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 1 2 0

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習 I) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 文学研究科 教授	永井 和 永原 陽子				
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2015・ 通年	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	現代史学演習 : 現代史研究と史料										
[授業の概要・目的]											
<p>実際に史料を読むことによって、現代史学研究の基礎となる史料の操作方法を学ぶ。 前期では、アジア歴史資料センターでデジタル画像として公開されている戦前日本の公文書を、 後期では公刊されている英国議会資料を用いて、史料の読解と分析、史料批判の方法を学ぶ。</p>											
[到達目標]											
<p>歴史学研究的な学問的基礎は史料批判にあり、収集した史料から信頼できる情報を取り出すための 手順を身につけなければ、それ以上の研究は不可能である。実際に史料を解読しながら、初歩的 な史料の操作法と史料批判の方法を身につけることが到達目標である。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>参加者は、テキストの割り当てられた部分につきレジュメを作成・配布した上で、内容を要約し ポイントや問題点を指摘する。その報告に基づいて、出席者全員で討議をおこなう。前期は、イン ターネット上に公開されている戦前日本の公文書からいくつか史料を選んで読解するとともに、ア ジア歴史資料センターを利用して戦前の公文書体系の構造を理解する。なお、デジタル史料の操作 のツールとして情報・史料学専修で開発中のSMART-GSを使用する。 後期は、「英国議会資料」British Parliamentary Papers の中から参加者の関心を考慮していくつか の文書を選び、精読する。本資料はイギリス史・イギリス帝国史にとどまらず、世界各地の現代史 の研究に役立つことのできる貴重な歴史史料である。本学図書館に所蔵される資料実物にも触れ ながら、本資料を現代史研究に活用する方法について学ぶ。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
前期に50点、後期に50点を配分し、それぞれについて平常点とレポートによって総合的に評価する。											
[教科書]											
<p>授業中に指示する 上記参照のこと。なお、テキストの準備については授業の最初に指示する。</p>											
----- 現代史学(演習 I)(2)へ続く -----											

現代史学(演習Ⅰ)(2)

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で扱う史料は、全員が必ず読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

初回に報告者を決定する。報告者だけでなく、全受講者が文献・史料を事前に読んでおくことが必須条件になる。この授業は卒業必修科目であるので、現代史学専修の3回生は必ず履修すること。

前期の授業ではSMART-GSを使用するので、受講者は各自メモリ・スティック(容量は1GB以下でよい)を用意してください。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 1 2 1

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 永井 和					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	倉富勇三郎日記を読む										
【授業の概要・目的】											
<p>くずし字で書かれた近現代の文書を読む訓練をおこなう。具体的には、国立国会図書館所蔵の倉富勇三郎日記を解読し、その翻刻テキストを作成しながら、手書き文書の史料になれる。解読、翻刻にはデジタル化時代の文献・史料研究ツールであるSMART-GSの協働翻刻システムを使用するので、ICTツールを使った史料の操作の方法も学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>1.SMART-GSの基本的な操作方法を習得し、SMART-GSを使用して、倉富勇三郎日記の翻刻テキストを作成、編集できるようになること。</p> <p>2.倉富勇三郎の筆跡は解読が難しいので、この授業だけでは、すらすらと読めるようになるのは難しいが、手書き文字の文書に慣れ、時間はかかっても、何が書いてあるかを理解できるようになること。</p> <p>3.日記に登場する人名や事項に注釈をつけるために必要な情報を調査できるようになること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業で読むのは、1930年の倉富勇三郎の日記である。この年の1月からロンドンで海軍軍縮会議が開催され、4月には海軍軍縮条約が調印される。この条約の批准をめぐり、浜口内閣と枢密院が激しく対立したことはよく知られている。当時枢密院議長であった倉富の日記を解読することで、枢密院側からみた政争の様相を理解する。また、日記の翻刻文を共同で作成する。</p> <p>なお、倉富日記の解読・翻刻については、情報・史学専修で開発中の文献解読・翻刻ツールであるSMART-GSを利用し、オンラインでの共同翻刻作業を実地におこなう。SMART-GSの使用法を学び、自分の研究に役立てることも、この授業の目的でもある。</p> <p>開講時に倉富日記のデジタル画像とSMART-GSのシステムを配布する。</p> <p>日記は難読なので、翻刻作成に時間がかかる。前期では1930年1月後半の日記を読むだけで終わってしまうと予想される。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点で評価する。割り当てられた日記の一部を翻刻して、草稿を作成し、授業中に報告。授業中に難解な箇所を解読し、翻刻を完成させた稿本を提出する。この一連作業を行わない場合には、単位は認められない。											
【教科書】											
使用しない											
----- 現代史学(演習II) (2)へ続く -----											

## 現代史学(演習II) (2)

### [参考書等]

(参考書)

児玉幸多編 『くずし字用例辞典(普及版)』(東京堂出版) ISBN:4490103336 (難しいくずし字の  
解読に役立つ辞典)

倉富勇三郎日記研究会編 『倉富勇三郎日記 第1巻』(国書刊行会) ISBN:4336053014

倉富勇三郎日記研究会編 『倉富勇三郎日記 第2巻』(国書刊行会) ISBN:4336053022

(関連URL)

<http://nagaikazu.la.coocan.jp/kuratomi/kuratomi.html>(倉富勇三郎日記研究)

### [授業外学習(予習・復習)等]

授業では、日記を受講生に割り当てて翻刻分担箇所を決め、参加者は自分の分担部分につき翻刻文を作成し、注釈をつける。それらの作業は授業にのぞむ前に予習としておこなわなければいけない。授業では、翻刻できなかった部分を中心に解読作業を行うので、自分の分担以外の部分であってもあらかじめ予習しておかなければならない。授業中に解読できた部分を反映させて、翻刻文と注釈文を完成させる作業が復習の内容となる。

(その他(オフィスアワー等))

倉富日記は大学ノートにペンで書かれているが、独特のくずし字体で、慣れるまでに少し時間がかかる。はじめのうちは読むのに苦労するが、忍耐よく学んで欲しい。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 1 2 2

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 永井 和					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	倉富勇三郎日記を読む										
【授業の概要・目的】											
<p>くずし字で書かれた近現代の文書を読む訓練をおこなう。具体的には、国立国会図書館所蔵の倉富勇三郎日記を解読し、その翻刻テキストを作成しながら、手書き文書の史料になれる。解読、翻刻にはデジタル化時代の文献・史料研究ツールであるSMART-GSの協働翻刻システムを使用するので、ITツールを使った史料の操作の方法も学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>1.SMART-GSの基本的な操作方法を習得し、SMART-GSを使用して、倉富勇三郎日記の翻刻テキストを作成、編集できるようになること。</p> <p>2.倉富勇三郎の筆跡は解読が難しいので、この授業だけでは、すらすらと読めるようになるのは難しいが、手書き文字の文書に慣れ、時間はかかっても、何が書いてあるかを理解できるようになること。</p> <p>3.日記に登場する人名や事項に注釈をつけるために必要な情報を調査できるようになること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業で読むのは、1930年の倉富勇三郎の日記である。この年の1月からロンドンで海軍軍縮会議が開催され、4月には海軍軍縮条約が調印される。この条約の批准をめぐり、浜口内閣と枢密院が激しく対立したことはよく知られている。当時枢密院議長であった倉富の日記を解読することで、枢密院側からみた政争の様相を理解する。また、日記の翻刻文を共同で作成する。</p> <p>なお、倉富日記の解読・翻刻については、情報・史料学専修で開発中の文献解読・翻刻ツールであるSMART-GSを利用し、オンラインでの共同翻刻作業を実地におこなう。SMART-GSの使用法を学び、自分の研究に役立てることも、この授業の目的でもある。</p> <p>開講時に倉富日記のデジタル画像とSMART-GSのシステムを配布する。</p> <p>前期で読み進んだところの次から翻刻をはじめますが、予定では1930年2月前半が対象となる。</p>											
【履修要件】											
<p>必須要件ではないが、前期の演習 「倉富勇三郎日記を読む」 を履修していることがのぞましい。</p>											
----- 現代史学(演習II) (2)へ続く -----											



## 現代史学(演習II) (2)

### [成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点で評価する。割り当てられた日記の一部を翻刻して、草稿を作成し、授業中に報告。授業中に難解な箇所を解説し、翻刻を完成させた稿本を提出する。この一連作業を行わない場合には、単位は認められない。

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)

児玉幸多編 『くずし字用例辞典(普及版)』(東京堂出版) ISBN:4490103336 (難しいくずし字の解説に役立つ辞典)

倉富勇三郎日記研究会編 『倉富勇三郎日記 第1巻』(国書刊行会) ISBN:4336053014

倉富勇三郎日記研究会編 『倉富勇三郎日記 第2巻』(国書刊行会) ISBN:4336053022

(関連URL)

<http://nagaikazu.la.coocan.jp/kuratomi/kuratomi.html>(倉富勇三郎日記研究)

### [授業外学習(予習・復習)等]

授業では、日記を受講生に割り当てて翻刻分担箇所を決め、参加者は自分の分担部分につき翻刻文を作成し、注釈をつける。それらの作業は授業にのぞむ前に予習としておこなわなければならない。授業では、翻刻できなかった部分を中心に解説作業を行うので、自分の分担以外の部分であってもあらかじめ予習しておかなければならない。授業中に解説できた部分を反映させて、翻刻文と注釈文を完成させる作業が復習の内容となる。

(その他(オフィスアワー等))

倉富日記は大学ノートにペンで書かれているが、独特のくずし字体で、慣れるまでに少し時間がかかる。はじめのうちは読むのに苦労するが、忍耐よく学んで欲しい。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 1 2 3

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 石川 禎浩					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	中国現代史演習										
【授業の概要・目的】											
中国現代史にかんして現代中国語で書かれた文献・資料をいくつか選んで精読し、併せてそれら史料の成り立ちや編纂経緯についての理解を深める。											
【到達目標】											
歴史学に欠かせない資料読解の水準を高め、中国語文献にもとづいて議論をする能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
各回の授業において、中国現代史にかんするさまざまな中国語文献を日本語訳しながら精読し、記述されている内容が裏付けられるかどうか、他の資料を発掘・対照しながら精査していく。それぞれの文献の読了後には、当該文献に関連する歴史事象をとりあげ、報告・討論を行う。講読する文献については、授業初回に受講生の顔ぶれや中国語習熟程度を勘案して決める。											
【履修要件】											
現代中国語で書かれた文献を教材とするので、中国語の基礎を有する必要がある。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点と期末レポートの総合評価											
【教科書】											
授業中に指示する テキストは授業で配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
授業前には入念な予習が必要である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 1 2 4

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 石川 禎浩					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	中国現代史演習										
【授業の概要・目的】											
中国現代史にかんして現代中国語で書かれた文献・資料をいくつか選んで精読し、併せてそれら史料の成り立ちや編纂経緯についての理解を深める。											
【到達目標】											
歴史学に欠かせない資料読解の水準を高め、中国語文献にもとづいて議論をする能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
各回の授業において、中国現代史にかんするさまざまな中国語文献を日本語訳しながら精読し、記述されている内容が裏付けられるかどうか、他の資料を発掘・対照しながら精査していく。それぞれの文献の読了後には、当該文献に関連する歴史事象をとりあげ、報告・討論を行う。講読する文献については、授業初回に受講生の顔ぶれや中国語習熟程度を勘案して決める。											
【履修要件】											
現代中国語で書かれた文献を教材とするので、中国語の基礎を有する必要がある。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点と期末レポートの総合評価											
【教科書】											
授業中に指示する テキストは授業で配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
授業前には入念な予習が必要である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 1 2 5

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 助教 小野 容照					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	朝鮮のサッカーに関する文献講読										
【授業の概要・目的】											
現代朝鮮語で書かれた文献をテキストとして講読し、テキストに登場する人物・事件・事柄などについて調査する。この作業を通して、朝鮮語の読解能力を高めるとともに、関連事項を調査するための方法（とくに韓国側のインターネット情報へのアクセス）を習得することを目指す。											
【到達目標】											
1) 朝鮮語の読解能力を高める 2) 朝鮮の言語や歴史に関する韓国のインターネット・リソースを活用できるようにする 3) 朝鮮の歴史に関する理解を深める											
【授業計画と内容】											
日本の植民地時代（1910～1945年）の朝鮮のサッカーの歴史を扱った韓国体育史編纂室編『国技蹴球 その燦爛たる朝』（ソウル新聞出版事業部、1997年、原文朝鮮語）をテキストとする予定である。植民地時代の朝鮮人は、日本人としてオリンピックに出場しなければならず、1936年のベルリンオリンピックのサッカー日本代表には朝鮮人選手も含まれていた。同書の精読を通して、朝鮮語の読解能力の向上のみならず、植民地支配とスポーツの関係についても理解を深められるようにしたい。授業は、受講者による音読・日本語訳と授業担当者による解説を中心に進め、日本語訳の担当者は事前に指定する予定である。											
【履修要件】											
予定しているテキストは現代朝鮮語で書かれているため比較的平易だが、初級程度の朝鮮語を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末試験は行わず、平常点を重視する。											
【教科書】											
授業で使用するテキストは、担当教員が準備して配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
受講者数にもよるが、毎回2-3頁程度読み進める予定である。日本語訳を指定されていない人も、該当するページの予習をしてもらうことが望ましい。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 1 2 6

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 水野 直樹					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	朝鮮近現代史に関する文献講読										
【授業の概要・目的】											
朝鮮近現代史に関する朝鮮語文献の読解に慣れるために、朝鮮語の論文や新聞記事を選んで読み進める。											
【到達目標】											
朝鮮近現代史を研究するうえで必要な朝鮮語文献を読解する力を養う。特に現代韓国での綴りと異なる文章にも慣れるようにする。											
【授業計画と内容】											
(1) 朝鮮近現代史に関する朝鮮語の論文を輪読形式で読む。論文は未定。受講者の関心に応じて選ぶ。第1-6週をこれにあてる。											
(2) 受講者全員が関心に応じて、『東亜日報』など朝鮮語新聞の記事を選び、それを翻訳するとともに、その歴史的背景や関連事項について発表する。第7-14週をこれにあてる。											
【履修要件】											
朝鮮語初級程度を終えていること											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポート(40%)および平常点(60%)											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
選んだテキスト、記事を事前に翻訳してくること。また、関わりのあることからその歴史的背景について調べること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 1 2 7

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉本 淑彦					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	マンガ・アニメ学入門										
【授業の概要・目的】											
マンガおよびアニメに関する内外の研究文献を輪読する。マンガ学およびアニメ学の諸テーマを幅広く学び、さらに、その方法論に通暁することをめざす。											
【到達目標】											
マンガ・アニメ学の研究テーマは多様である。その多様性を理解したうえで、自身の関心に合致し、かつ、研究可能なテーマを選び抜く力を養うことができる。											
【授業計画と内容】											
<p>* 1回目～4回目：マンガ・アニメ学の研究文献の紹介と、レジュメの作り方などの詳しい説明、および研究発表の一例を示す</p> <p>* 5回目以降：各回とも、2名程度の受講生が、任意で選んだ研究文献について、内容の紹介と評価をおこなう。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、当該文献の問題点を洗い出し、さらに研究を進める場合の課題を考える。</p> <p>* 最終回：課題マンガ本についてディスカッションをおこなう。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
課題マンガ本(2種類)をあらかじめ熟読したうえで、最終回の講義に出席すること。 課題マンガ本は、受講生の希望に基づき決定する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 客員准教授 上杉 和央					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	戦争の記憶の現在										
【授業の概要・目的】											
<p>過去の事象が記憶されるとき、事象に深く関わる地域に根差しつつ記憶が紡がれる場合と、地域から拡散するかたちで形成される場合とがある。この両者は二分されるものではないことはもちろんであり、両者の関係性を読み解くことが必要となる。</p> <p>本授業では、戦後70年をむかえるなかで、戦争の記憶に即してこの関係性を検討することをテーマとしたい。</p> <p>具体的には、沖縄戦を取り上げる。</p> <p>班ごとに1つ事例を調査・報告し、議論を行う中で、沖縄戦がどのように語られてきたのか、そして沖縄戦の記憶がどのように表出してきたのかについての理解を深める。さらに、地域に根差した記憶を考えるために、現地調査についても実施する。</p>											
【到達目標】											
戦争に即した記憶について、先行研究の理解と現地調査による考察・理解を通じて、地域の記憶をめぐる問題について主体的・継続的に取り組む能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>以下のような課題について、1課題あたり1～3週の授業をする予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沖縄戦の概要</li> <li>・ ひめゆりの記憶</li> <li>・ 白梅の記憶</li> <li>・ 自治体史と沖縄戦</li> <li>・ 字誌と沖縄戦</li> <li>・ 沖縄の慰霊碑</li> <li>・ 沖縄の慰霊祭</li> </ul> <p>また、沖縄への現地調査を実施する。</p>											
【履修要件】											
<p>現地調査への参加が可能な者 (現地調査の日程は、受講生全体で相談して決定する)</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点と年度末のレポート なお、平常点には授業内および現地調査での積極的な姿勢を考慮する。</p>											
----- 現代史学(演習II)(2)へ続く -----											

現代史学(演習II)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

沖縄戦に関するメディアを適宜、確認しておくこと。#160  
班ごとの発表に際しては、事前に班内で十分な討議を重ねておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。



授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 客員准教授 上杉 和央					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	20世紀へのアプローチ ～景観調査を通じて～										
<b>[授業の概要・目的]</b>											
<p>現在の社会は、戦後生まれが主役となっているとはいえ、戦前・戦中生まれの者も健在である。一方、大学生は平成生まれの者が大半となってくる状況にもなっている。</p> <p>本授業の目的は、平成生まれの学生・院生が、いわゆる「古老」への聞き取り調査をおこなうときに生じる諸課題を、自らの経験を通じて問いかけることで、20世紀へのアプローチ法についての理解を深めることにある。</p> <p>授業では、京都府内の農山漁村集落を選び、「景観変化」を題材として聞き取り調査を複数回実施する。そして、その経験を報告し、議論していくというスタイルをとる。</p>											
<b>[到達目標]</b>											
<p>先行研究のレビューと、現地での景観調査と聞き取り調査を通じて、自身の20世紀像の曖昧さを振り返り、より具体的な地域に即した理解ができるようになる。</p>											
<b>[授業計画と内容]</b>											
<p>以下のような課題をテーマとし、現地調査をふまえつつ1課題あたり1～3週の授業をする予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 景観概念について</li> <li>・ 可視 / 不可視</li> <li>・ 文化的景観 / Cultural Landscape</li> <li>・ 近世城下町の記憶</li> <li>・ 茶の香り漂う街並み</li> <li>・ 山の暮らしの変化</li> <li>・ 刻まれた災害の記憶</li> <li>・ 景観と法</li> <li>・ 地域調査</li> </ul>											
<b>[履修要件]</b>											
<p>現地調査に参加できる者 (現地調査の日程は、受講生全体で決定する)</p>											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
<p>平常点と年度末のレポート。 なお、平常点には授業内および現地見学の際の積極的な姿勢を考慮する。</p>											
----- 現代史学(演習II)(2)へ続く -----											

現代史学(演習II)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

現地調査で訪問する地域については、事前に十分に調べておくこと。  
また、調査訪問後も別途、再訪するなどして地域への理解を深めることが望ましい。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学大学院文学研究科 中野 耕太郎					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	第一次世界大戦と現代史 アメリカ合衆国を中心に										
[授業の概要・目的]											
<p>第一次世界大戦が20世紀の国民国家に与えた影響を多様な角度から考察し、この戦争が生み出した「現代」という時代の意味を考察する。特に戦争後半(1917年)に参戦し、戦争の終結と戦後秩序の形成に大きな役割を果たしたアメリカの事例を中心に検討を進める。</p> <p>具体的には、以下のような論点を取り上げ考察を深める予定である。1. 民主主義の国のナショナリズムとは何か? 2. アメリカ参戦のコンテクストはどこに見いだせるか? 3. 民意と総力戦の関係は? 4. 世界大戦はマイノリティ問題にどんな影響を与えたか? 6. 第一次大戦の遺産とはなにか? 「アメリカの世紀」を考える。</p> <p>第一次大戦を再考することは、その後の人類の100年間の歴史が何を目指し、何に挫折したかを知ることにつながる。そして、この検討から浮かび上がる諸論点は、歴史を学ぶ私たちが、今どの時点に立っているのかを指し示す光となるだろう。</p>											
[到達目標]											
<p>以下の3つのことを到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第一次世界大戦が持った歴史的意義を説明できる。</li> <li>2. アメリカのナショナリズムの特性を論じることができる。</li> <li>3. 現代という歴史時代の特色を3つ以上述べるができる。</li> </ol>											
[授業計画と内容]											
<p>15回の講義予定は以下のとおりである。</p> <p>第1回 現代史はいつ始まるか 第一次世界大戦の意味</p> <p>第2回 ウィルソン主義とアメリカ・ナショナリズム</p> <p>第3回 アメリカ参戦と中南米問題</p> <p>第4回 総力戦下の国家と社会</p> <p>第5回 戦争プロパガンダと被治者の合意</p> <p>第6回 自由の国の徴兵制</p> <p>第7回 移民コミュニティと戦争</p> <p>第8回 二つの祖国</p> <p>第9回 アメリカ化政策</p> <p>第10回 軍隊と外国人</p> <p>第11回 民主主義の戦争と人種問題</p> <p>第12回 総力戦と人種暴力</p> <p>第13回 国策としてのカラーライン</p> <p>第14回 戦後の展望 第一次大戦の遺産</p> <p>第15回 総括 歴史のなかの第一次大戦、そして、アメリカの現代</p>											
----- 現代史学(演習II) (2)へ続く -----											

現代史学(演習II) (2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点及び達成度】**

出席点（20点）、学期末の試験（80点）で、総合的に評価する。積極的な参加を期待します。

**【教科書】**

中野耕太郎 『戦争のつぼ 第一次世界大戦とアメリカニズム』（人文書院）ISBN:ISBN:978-4-409-51119-0

**【参考書等】**

（参考書）  
授業中に紹介する

**【授業外学習（予習・復習）等】**

教科書の該当箇所を事前に読んでおいてください。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 伊藤 遊					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	二十世紀以降の日本のマンガ環境について考える マンガ雑誌を手がかりに										
【授業の概要・目的】											
<p>現代日本に居住する私たちの身の回りには、ひとりではとうてい網羅できないほど、多種多様なマンガの雑誌や単行本があふれている。二十世紀、とりわけ戦後の日本社会を考察する上で、マンガは避けて通れない視覚表現・メディアと言えよう。</p> <p>本講義では、そうしたマンガ環境の一側面を具体的に考察するために、マンガ雑誌を資料とした演習を行う。掲載された作品はもとより、活字記事や広告等から、そのメディア的特徴、各誌の出版戦略、マンガ誌の文化的意義、「マンガ読者」という共同体の有様など、複眼的な考察を行い、微視的には「マンガ文化のあり方」を、巨視的には「二十世紀以降の大衆文化の有様」の一端を把握することがねらいである。</p> <p>形式は、受講者による発表が基本。これをふまえ、受講者全体でのディスカッション、担当教員のコメントを加える。</p>											
【到達目標】											
マンガ雑誌という具体的な素材に実際に触れる機会を持つことで、ポピュラー文化研究における文献調査の方法論を学ぶ。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：ガイダンス。発表順・日程の調整。</p> <p>第2回：担当教員による講義。現在のマンガ雑誌に関する情報と視点を提供。</p> <p>第3回：担当教員による「京都国際マンガミュージアム」における講義。マンガミュージアム所管のマンガ雑誌資料について解説。テーマ設定についてディスカッション。</p> <p>第4回～最終回：受講者による発表。（*）</p> <p>（*） 最低1冊のマンガ雑誌を取り上げ、テーマを設定した上で、少なくとも5年分を調査の上、そこにおける変化やそのコンテキスト等について分析する。</p>											
【履修要件】											
特にないが、少なくとも1回、「京都国際マンガミュージアム」（京都市中京区）での授業を実施する。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
出席点30点、発表内容・ディスカッションへの貢献度：40点、レポート30点											
----- 現代史学(演習II) (2)へ続く -----											

現代史学(演習II) (2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

発表のための文献調査を各自で行うことが必要となる。必要に応じて、担当教員がその調査をサポートする。

**(その他(オフィスアワー等))**

「京都国際マンガミュージアム」(京都市中京区)での授業を実施する。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	同志社大学 社会学部 教授 佐伯 順子					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	男性同性愛の表象と女性										
【授業の概要・目的】											
日本のポピュラーカルチャーにおいて、男性同性愛の表象が女性向けコンテンツで人気を獲得しているという特徴はよく知られている。この授業では、「同性愛」の概念を問い直しつつ、日本の小説、映画、漫画等における男性同性愛の表象をジェンダー論の観点から考察し、女性の表象と男性同性愛のモチーフとの関係性、そこに含まれる二十世紀から現代にいたる日本社会のジェンダーの問題を考える。。											
【到達目標】											
男性同性愛の表象が含むジェンダーの問題についての意識を高め、ジェンダー論の観点からの表象分析の方法を実践する。											
【授業計画と内容】											
教員から日本の男性同性愛の表象についての説明を数回行った後、各自で具体的事例をみつけて分析、発表する。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．日本の近現代の男性同性愛の表象について～その事例と分析（講義数回）</li> <li>2．受講生による発表と議論（演習）</li> </ol> <p>なお、受講生の人数によって講義回数と演習の回数の配分を調整する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末のレポートおよび平常点（出席回数と発表内容、議論への積極的参加）。											
【教科書】											
授業中に指示する 関連資料、プリントを授業にあわせて適宜配布する											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>木村尚三郎編 『歴史を旅する』（TBSブリタニカ）ISBN:4-484-92203-7（かなり初期の関連する拙稿が掲載されているが、必要に応じてコピーするので購入の必要はない）</p>											
【授業外学習（予習・復習）等】											
<p>（その他（オフィスアワー等））</p> <p>開講時間については、隔週と集中講義の組み合わせを予定している。 詳しくは開講時に説明する。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>											

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	テレビプロデューサー 山登 義明					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	映像メディア論										
【授業の概要・目的】											
映像は現代の暮らしに大きな影響を与えている。作為であれ不作為であれ映像は操作されて視聴者に届けられる。ドキュメンタリーの過去の作品10本余を取り上げて、作り手の意図、視点を読み解いていく。											
【到達目標】											
映像メディアの発達史をひもときながら、テレビドキュメンタリーの特性と映像表現を学ぶことにより、メディアのもつ「作為性」についての考察を深める。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1、オリエンテーション：テレビという文化の歴史</li> <li>2、ドキュメンタリーとは何か：虚構と事実の関係</li> <li>3、番組のジャンル：フィクション、エンターテインメントと並存する事実番組</li> <li>4、ヒューマンドキュメンタリー：ヒトを描く、ウゴキ、時代を掴む</li> <li>5、主題としての戦争：戦争を知らない世代が制作する視点</li> <li>6、戦争の記憶：8・6、8・15をめぐって編成された作品群</li> <li>7、ドキュメンタリーの演出とは何か：ヤラセの構造と風土</li> <li>8、他のメディアと融合する：マンガ、アニメ、CG、ネットを活用する</li> <li>9、フィードバック</li> <li>10、新しい傾向、シチュエーションドキュメンタリーへの挑戦</li> </ol>											
【履修要件】											
藤子不二雄Aの『まんが道』か『愛 しりぞめし頃』を読むこと											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
受講後のレポート											
【教科書】											
山登義明 『テレビ制作入門』（平凡社） 桜井均 『テレビは戦争をどう描いてきたか』（岩波書店）											
----- 現代史学(演習II) (2)へ続く -----											



現代史学(演習II) (2)

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

次の映画作品のうち1つは視聴すること。「ジョーズ」(スピルバーグ)、「蛍の墓」(高畑勲)、「仁義なき戦い」(深作欣治)。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習Ⅲ) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 永井 和 文学研究科 教授 永原 陽子 文学研究科 准教授 小野澤 透					
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2015・ 通年	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	現代史研究の諸問題										
【授業の概要・目的】											
<p>演習Ⅲは、平成25年度までの卒論演習の機能を受け継ぎ、さらにそれを拡張した授業である。現代史学専修に所属する学部生（3，4回生），大学院生，教員全員が参加し，互いに切磋琢磨し，学知を共有することをめざすフォーラムとなることをねがっている。</p> <p>授業は原則として，参加者が順番に自分のおこなっている，あるいはおこなおうとする研究について発表し，それをもとに授業参加者が討論する形式でおこなう。発表者は他者に自己の研究をわかりやすく提示する努力をすることで，自己の研究について理解をさらに深めるとともに，さまざまな角度からの意見や助言を受けることで，自分の抱える問題点について解決の糸口を見出すことができる。</p> <p>また，他者の研究報告をきくことにより，広大な領域にわたる現代史研究のひろがりを実感するとともに，現代世界についての理解を深め，また現代史研究のさまざまな方法論を学ぶことができる。</p> <p>演習Ⅲは専修のカリキュラムの中でも中心となる授業であるので，所属学生の必修科目となっている。4回生には卒論演習にかわる演習であり，卒業論文作成のために必ず履修しなければいけない。また，3回生にとっても必修科目である。4回生になってから「卒業研究をどのようにはじめていいのかわからない」といった状況におちいるのを防止するためにも，プレ卒論演習という位置付けを演習Ⅲはもっている。大学院生や4回生の研究報告に接することで，自分の卒業研究をどのように準備すればいいのかを学んでほしい。</p>											
【到達目標】											
<p>1．卒業を予定している4回生以上の学生にとっては，すぐれた卒業論文の完成が到達目標である。</p> <p>2．学部3回生にとっては，卒業研究のテーマを発見すること，さらに卒論演習でよい報告をするための学習方法や報告の方法を身につけることが目標となる。</p>											
【授業計画と内容】											
【前期】											
<p>最初に4月に大学院修士課程に入学した大学院生が，自分の卒論をもとに研究発表をおこない，自分の卒論作成の経験を語る。</p> <p>次に何人かの大学院生が，自己の研究内容を報告し，現代史研究の実例と研究報告の方法について，参考となるお手本を示す。</p> <p>そのあと，卒業予定者が自分の卒業研究の研究計画を順番に報告する。</p> <p>3回生は前期は授業に参加するが，報告は求められない。</p>											
【後期】											
<p>卒業予定者が順次，自分の卒業研究の本格的な中間報告をおこなう。卒業予定者の報告は11月中旬までに終え，そのあとは卒業論文の作成に専念する。教員より卒業論文執筆の要綱を説明する。</p> <p>卒業予定者の報告が終了したあとは，3回生が卒業研究の研究計画をたてるための準備作業とし</p>											
----- 現代史学(演習Ⅲ) (2)へ続く -----											

## 現代史学(演習Ⅲ) (2)

て、予備的な報告をおこない。大学院生や教員が適宜アドバイスを与える。その作業を通じて、3回生は次年度の演習Ⅲで報告する卒業研究の研究計画をつくりあげていく。

### 【履修要件】

この授業は現代史学専修所属の学生の必修単位であり、3回生時と4回生時の両年にわたって履修しなければならない。3回生時にこの科目の単位を取得しないと、自動的に留年となるので、必ず履修すること。

### 【成績評価の方法・観点及び達成度】

授業への参加態度などの平常点によって評価する。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学習(予習・復習)等】

4回生以上の卒業予定者は、卒業論文の作成にむけて、自分の研究を日々進めなければいけない。毎日がそのための予習であり、復習でもある。  
3回生は、前期は先輩の行う演習をきくだけでよいが、そうするなかで、自分の研究内容を報告する日にそなえて、研究発表の方法を学ぶことが求められる。後期には、実際に簡単な研究報告が求められるので、そのための十分な予習が求められる。また、授業で受けたさまざまな指摘やアドバイスを反映させるためにも、復習は欠かせない。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。